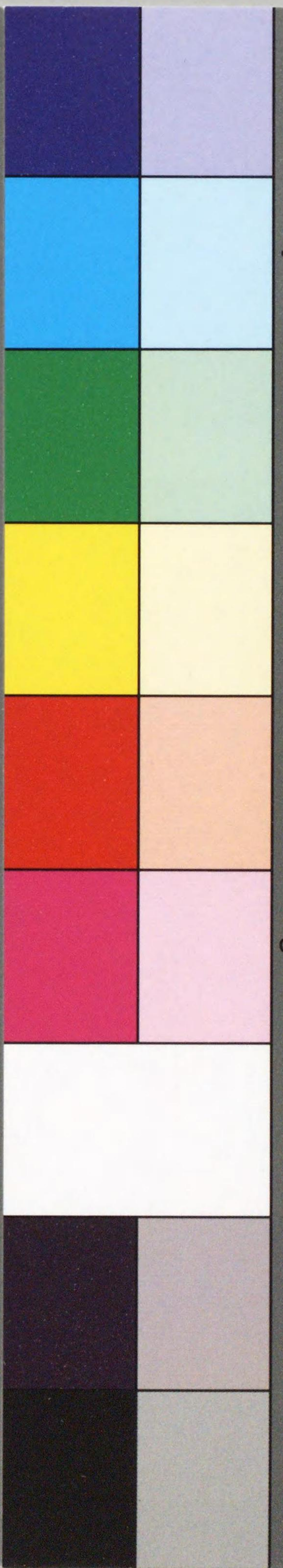


Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



二二六號

A99
Z
H227

和十七年一月

第七十七・第七十八
議會ニ於ケル
外交關係質疑應答要旨

外務省調查部

一、本書ハ第七十七・第七十八議會ノ貴衆兩院本會議、豫算委員會、決算委員會、各種分科會其他ノ委員會ニ於ケル外交關係質疑
應答要旨ヲ夫々議事速記録ニ基キ作成シ之ヲ事項別ニ配列
シタモノデアル。

二、右要旨作成ニ當ツテハ議會ノ質疑ニ現レタ輿論ノ傾向ヲ出
來ル限リ表明スルニ努メルト共ニ政府側ノ應答ニ關シテモ
成ルベク速記録ニ忠實ナランコトヲ努メタ。

昭和十七年一月

外務省調査部第二課



I種
W



1200600184614

昭和十七年一月

第七十七議會
ニ於ケル
外交關係質疑應答要旨

外務省調查部

目次

東條總理大臣演說……………一頁
 東郷外務大臣演說……………三
 東條陸軍大臣戰況報告……………六
 嶋田海軍大臣戰況報告……………一〇
 國策遂行ニ關スル決議……………一三
 國策完遂ニ關スル決議……………一四
 國策遂行ノ決意ト對米交渉……………一七
 國策遂行ノ決意、信念及抱負……………一九
 近衛內閣及東條內閣ノ國策遂行方針ノ相違……………二一
 支那事變完遂ノ見透シ……………二一
 時局ニ對スル軍ノ準備……………二二
 戰後ノ對外經綸……………二二
 國民ノ時局認識……………二三
 大東亞共榮圈及大東亞新秩序ノ語義……………二四
 東亞共榮圈ノ內容……………二五
 東亞共榮圈內諸國ノ對日動向……………二六
 日米交渉……………二六

日米交渉ト日本ノ要求ノ內容……………二八
 日米交渉ト日獨伊條約第三條……………二九
 日本ノ要求スル三項目ト來栖大使派遣……………三〇
 來栖大使ト米大統領會談……………三〇
 近衛「メッセージ」……………三一
 歐洲戰ノ東亞波及防止……………三二
 東亞共榮圈內物資ノ利用……………三二
 東亞共榮圈ト日本トノ連絡……………三二
 産業設備營團法適用ノ地域……………三三
 遊休設備ノ海外進出……………三四
 「タイ」及佛印トノ貿易……………三四
 大東亞食糧政策ノ確立……………三五
 外米確保對策……………三六
 外米依存對策……………三六
 外米輸入ト支拂方法……………三七
 北方ノ安全ト氣比丸事件……………三八
 氣比丸遭難事件……………三九
 龍田丸郵便物差押問題……………四〇

「バナマ」ノ邦人壓迫事件	四一
二重國籍者ノ兵役關係	四一
滿洲移民ノ農業經營法	四二
資金凍結令對策	四三
資金凍結ノ影響	四三
「ドイツ」第五列ノ活動	四四
外國大公使館出版物ノ取締	四五
在本邦外國外交及領事機關ヲ通ズル國內 機密ノ漏泄	四五
電話及無電ノ取締ト防諜	四六
郵便物ノ檢閲	四七
外國郵便物取締	四八
封緘郵便物ノ檢閲ト防諜	四九

第七十七回帝國議會東條總理大臣演說

現下重大ナル時局ニ際シマシテ、第七十七回帝國議會開會セラレ、開院式ニ當リマシテハ、優渥ナル勅語ヲ賜ハリ、洵ニ恐懼感激ニ堪ヘマセヌ、此ノ機會ニ於キマシテ政府ハ國策遂行ニ關シマシテ、率直ニ所信ヲ披瀝致シマシテ、各位ノ御協力ヲ願ヒ、舉國一體鐵石ノ意志ヲ以テ現下未曾有ノ國難ヲ克服シ、以テ聖慮ヲ安ンジ奉リタイト存ズル次第デアリマス。

現下帝國ヲ繞ル世界ノ情勢ヲ按ジマスルニ、支那事變ハ、御稜威ノ下忠誠勇武ナル將兵ノ奮闘ト、又熱誠強靱ナル統帥ノ活動ト相俟チマシテ赫々タル戰果ヲ收メ、重慶政權ノ抗戦力ハ日ニ月下シツアルノデアリマス、又他方國民政府ノ建設ハ着々進捗シ、今ヤ多數ノ友好列國ハ國民政府ヲ承認シ、事變解決ハ最後ノ段階ニ到達シテ居ルノデアリマスガ、援蔣諸國ノ經濟的、軍事的策動ハ益々活潑トナリ、重慶政權ノ抗戦力ニ對スル唯一最大ノ支柱ト致シマシテ、帝國ノ事變解決ヲ妨ゲテ居ル次第デアリマス。

更ニ北方ニ於キマシテハ本年六月獨「ソ」開戰以來、事端漸ク滋カラシコトヲ思ハシメ、事態ノ推移ハ帝國トシテ無關心タルヲ得ザルモノガアリマスルノデ、我

ガ北邊ノ安定ノ爲メ遺憾ナキ措置ヲ講ジツツアリマス。

又南方ニ於キマシテハ、昨年北部佛印ニ皇軍ノ進駐トナリ、次イデ日・佛印ノ經濟協定、泰・佛印ノ紛爭調停等、帝國ト佛領「インド」支那トノ友好緊密關係ハ漸ク増進ヲシ、南方ニ對スル帝國ノ平和的進展ハ、漸ク其ノ緒ニ就カントシテ居リマシタガ英米蘭諸國ノ軍事的並ニ經濟的合作ノ強化ニ伴ヒ、蘭印トノ經濟交渉ハ不調ニ終リ、延イテ南太平洋ニ於ケル帝國ノ地位ニ重大ナル脅威ヲ及ボサントスルノ形勢トナリマシタノデ、帝國ハ「ヴィシー」政府ト日・佛印共同防衛ニ關スル取極メヲ爲シ、之ニ基キ七月末南部佛印ニ兵力ヲ増派セララルコトトナリマシタ、然ルニ英米蘭諸國ハ、此ノ帝國ノ當然ナル自衛的措置ヲ迎フルニ猜疑ト危懼トノ念ヲ以テシ、資産凍結ヲ行ヒ、事實上全面的禁輸ニ依リ、帝國ヲ目標トシテ經濟封鎖ヲ實施致シマスルト共ニ、其ノ軍事的脅威ヲ急速度ニ増加シテ參ツタノデアリマス、蓋シ交戰關係ニアラザル國家間ニ於ケル經濟封鎖ハ、武力戰ニ比シマシテ優ルトモ劣ラザル敵性行爲デアアルコトハ言フ俟タナイノデアリマス。

斯クノ如キ行爲ハ帝國ノ企圖スル支那事變ノ解決ヲ

阻碍スルノミナラズ、更ニ又帝國ノ存立ニ重大ナル影響ヲ與フルモノデアリマシテ斷ジテ默過シ得ザルモノデアリマス。

然ルニモ拘ラズ常ニ平和ヲ欲スル帝國ト致シマシテハ、隱忍自重、忍ビ難キヲ忍ビ、耐ヘ難キヲ耐ヘ、極力外交交渉ニ依リマシテ危局ヲ打開シ、事態ヲ平和的ニ解決センコトヲ期シテ參ツタノデアリマスルガ、今尙ホ其ノ目的ヲ貫徹スルニ至ラズ、帝國ハ今ヤ文字通り帝國ノ百年ノ計ヲ決スベキ重大ナル局面ニ立タザルベカラザルニ至ツタノデアリマス、政府ハ肇國以來ノ國是デアリマスル平和愛好ノ精神ニ基キ、帝國ノ存立ト權威トヲ擁護シ、大東亞ノ新秩序ヲ建設スル爲メ、今尙ホ外交ニ懸命ノ努力ヲ傾注シテ居ル次第デアリマシテ、之ニ依ツテ帝國ノ期スル所ハ、第一、第三國ガ帝國ノ企圖スル支那事變ノ完遂ヲ妨害セザルコト、第二、帝國ヲ圍繞スル諸國家ガ帝國ニ對スル直接軍事的脅威ヲ行ハザルコトハ勿論、經濟封鎖ノ如キ敵性行爲ヲ解除シ、經濟的正常關係ヲ恢復スルコト、第三、歐洲戰爭ガ擴大シテ禍亂ノ東亞ニ波及スルコトヲ極力防止スルコトデアリマス、以上三項ニ互ル目的ガ外交交渉ニ依ツテ貫徹セラレマスナラバ、獨リ帝國ノ爲ノミ

キコトヲ確信シテ、相共ニ今日ノ苦ヲ分チ、國民一丸トナツテ聖業ノ翼賛ニ邁進センコトデアリマス、政府ニ於キマシテモ政治經濟ノ運営ニ付テ、各般ノ改革整備ヲ行フ覺悟デアリマスルガ、其ノ實施ニ當リマシテハ、徒ラニ理想ヲ追ハズ、事態ニ即シテ各専門的機能ノ有機的能率ヲ最大限ニ發揮セシムルヤウ措置致ス心構ヘデアリマス、私ハ全國民ガ此ノ政府ノ意ノ存スル所ヲ認識セラレテ、積極的ニ政府ニ協力セラルルコトヲ固ク信ジテ疑ハナイモノデアリマス。

今回提案致シマシタル豫算案ハ、主トシテ緊迫セル現下ノ事態ニ對處スルニ必要ナル經費ヲ計上致シマシタモノデアリ、又提出法律案モ、特ニ今日緊急ノ要アルモノノミニ限定致シタノデアリマス、諸君ニ於カレマシテハ政府ノ意ノアル所ヲ諒トセラレ、慎重御審議ノ上、協賛ヲ與ヘラレタイノデアリマス。

終リニ臨ミ、政府ハ、滿洲帝國及ビ中華民國國民政府ガ帝國ニ寄セラレタル變ラザル協力ニ深甚ナル謝意ヲ表シ、又盟邦特ニ獨伊兩國ノ偉大ナル功業ニ對シマシテ、深厚ナル慶祝ノ意ヲ表シマスト同時ニ帝國ト共ニ正義ニ基ク世界新秩序建設ニ成功センコトヲ祈ルモノデアリマス。

ナラズ、世界平和ノ爲メ洵ニ幸ヒデアルト信ズル次第デアリマス。

併シナガラ從來ノ經緯ニ鑑ミマシテ、交渉ノ成否ハ逆睹シ難イモノガアルノデアリマス、隨テ政府ハ前途ニ横ハル凡ユル障礙ヲ豫見シテ、之ニ對スル萬般ノ準備ヲ整ヘ、斷乎トシテ帝國既定ノ國策ヲ遂行致シマスルニ萬遺憾ナキヲ期シ仍テ以テ帝國ノ存立ヲ全ウセントスル固キ決意ヲ有シテ居リマス、帝國ハ實ニ悠久二千六百餘年ノ歴史ノ上ニ於キマシテ、曾テ見ザリシ國家隆替ノ岐路ニ立ツテ居ルノデアリマスルカラ、政府ハ深ク思ヒヲ茲ニ致シ、全力ヲ盡シテ輔弼ノ責ヲ全ウ致シマスル覺悟デアリマス。

事態ガ如何様ニ發展致シマセウトモ、高度國防國家體制ノ完成コソハ、正ニ喫緊ノ重大要事デアリマス、是ガ爲ニ益々國民志氣ヲ緊張シ、産業經濟ノ能率ヲ最高度ニ發揮スルノ要切ナルモノガアルノデアリマス、是ト共ニ政府ハ國民生活ノ確保ニ關シマシテハ萬全ノ策ヲ講ズルモノデアリマスガ、是ガ更ニ緊縮ヲ見ルコトハ洵ニ已ムヲ得ザル所デアリマス、私ガ茲ニ衷心ヨリ希望致シマスルコトハ、全國民ガ、帝國ハ今ヤ一大飛躍ノ秋ニ際會シ、前途ニ洋々タル發展ヲ期待シ得ベ

本大臣ハ此ノ重大時局ニ處シ、諸君ト相携ヘテ大政ヲ翼賛シ奉ルヲ深ク光榮ト致シマスルト共ニ、責任ノ愈々重大ナルヲ痛感致シマスル次第デアリマス、惟フニ難局ノ突破、時艱ノ克服ハ、全國民ガ職域奉公ニ邁進ヲシ、國民ノ總力ガ結集セラレテ、初メテ成就シ得ルモノト信ズルモノデアリマス何卒諸君ニ於カレマシテモ此ノ上トモ御支援、御協力ヲ御願ヒ致ス次第デアリマス。

最後ニ護國ノ英靈ニ敬弔ノ誠ヲ捧ゲ、戰線銃後ノ奮闘努力ニ衷心感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス。

第七十七回帝國議會東鄉外務大臣演說

不肖今回圖ラズモ帝國ノ外政擔當ノ重責ヲ負フコトト相成リマシテ本日茲ニ帝國政府ノ外交方針ニ付キ、聊カ所見ヲ申述ブルノ機會ヲ得マシタコトハ、私ノ最モ欣幸トスル所デアリマス。

帝國ハ東亞新秩序建設ノ爲ノ征戰ニ從事スルコト既ニ四年ヲ閱シ、舉國一致時艱ノ克服ニ邁進シツツアルノデアリマス、私ハ先ヅ 御稜威ノ下ニ前線ニ奮闘スル我が陸海軍將兵ノ武運長久ヲ祈願スルト共ニ、幾多ノ尊キ英靈ニ對シ敬弔ノ意ヲ表スルモノデアリマス。帝國ノ對外國策ノ基本方針ガ、東亞ノ天地ニ正義ニ

立脚スル平和ヲ確立シ、以テ世界人類ノ福祉増進ニ寄與セントスルニ存スルコトハ更メテ多言ヲ要セヌ所デアリマス、帝國ガ明治維新以來駭々乎トシテ國運ノ伸張ヲ成シ遂ゲマシタノモ、實ニ此ノ大義ニ立脚セル不斷ノ努力ノ賜ニ外ナリマセヌ、顧ミマスルニ過去七十餘年間帝國ハ幾度カ國難ヲ打開シテ參リマシタ、就中日露ノ戰役ハ東亞ノ平和ニ對スル障礙ヲ排除セントスル舉國決死ノ大事業デアリ、爾來帝國ハ東亞ニ於ケル安定勢力トシテノ歩武ヲ進メテ來タノデアリマス、ガ、今ヤ東亞ノ天地ニ、正義ニ基ク新秩序ヲ確立シ、以テ世界ノ平和ニ貢獻セントスルノ大業ニ邁進シツツアルノデアリマス、幸ヒニシテ獨伊兩國ハ帝國ト其ノ意圖ヲ同ジウシ、曩ニ三國條約ノ成立ヲ見タノデアリマシテ同條約ガ過去一箇年餘ノ期間ニ於キマシテモ、既ニ其ノ使命タル東亞及ビ歐洲ノ新秩序ノ建設、及ビ戰爭ノ擴大防止ニ對シ、大ナル貢獻ヲナシ來リマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス。

滿洲帝國ハ建國以來國礎益々固キヲ加ヘ、同國ヲ承認致シマシタ國ハ既ニ十三箇國ノ多キニ達シ、其ノ國際的地位モ日ヲ逐ウテ向上シ國運隆盛ニ赴キツツアリマス、支那ニ於キマシテハ帝國ハ重慶政權屈服ノ爲

南方ニ關シマシテハ、帝國政府ハ曩ニ「タイ」佛印國境紛爭ノ調停ヲナシ、又佛印トノ間ニ政治的、經濟的緊密關係ヲ設定シ、次イデ佛印ヲ繞ル國際情勢ガ佛印ノ安全、延イテ東亞ノ靜謐、且又帝國ノ安全ニ重大ナル脅威ヲ及ボサントスルノ形勢ト相成リマスルヤ、之ニ對處センガ爲メ日・佛印共同防衛ニ關スル議定書ヲ締結シ、更ニ芳澤大使ヲ同地ニ派遣致シマシテ緊密ナル關係ノ増進ニ努メ、又「タイ」國トノ間ニモ經濟的關係ヲ緊密ニスルト共ニ、大使ヲ交換シテ兩國提携ヲ益々固クシテ居ルノデアリマス然ルニ第三國側ヨリ、宛モ帝國ガ是等方面ニ侵略的意圖ヲ有スルガ如キ惡意ノ宣傳ガ行ハルルハ洵ニ心外トスル所デアリマシテ、私ハ東亞ニ位スル諸國、諸民族ガ能ク帝國ノ眞意ヲ了得シ、新秩序建設ノ爲メ帝國ト協力スルニ至ルコトヲ確信シテ疑ハザルモノデアリマス、以上ノ如ク帝國ハ一意支那事變處理ト東亞ニ於ケル新秩序ノ確立ニ眞摯ナル努力ヲ傾注シテ居ルノデアリマスルガ曩ニ述ベマシタ共同防衛ニ關スル議定書ニ基キ、本年夏我が軍ガ南部佛印ニ進駐シマスルヤ英米兩國ハ右ヲ以テ自國領域ニ對スル脅威トナシ、兩國ニ於ケル我が資産ヲ凍結シ、以テ事實上經濟斷交ニ等シキ措置ニ出デ、英國各自治領

メ、武力戰ヲ敢行シツツアルノデアリマスルガ、帝國ト中華民國トノ提携ニ依リ、東亞ノ安定ヲ確保シ、以テ共榮ノ實ヲ舉ゲントスルハ、支那事變ニ處スル帝國ノ根本方針デアリマス、帝國ト國民政府トノ間ニハ、曩ニ日華間ノ新關係ヲ律スル基本條約ノ成立ヲ見タノデアリマスルガ、帝國政府ハ此ノ上トモ同政府ノ強化ニ協力スル決心デアリマス。

支那事變ノ處理ト共ニ帝國ノ重大關心事ハ北方及ビ南洋方面ニ存スルノデアリマス、曩ニ歐洲戰爭勃發致シマスルヤ帝國ハ東亞全局ノ平和維持ノ見地ヨリ禍亂ノ東方ニ波及シ來ルコトヲ防止スル爲メ、凡ユル努力ヲ爲シ來ツタノデアリマスルガ、本年四月締結セラレマシタ日「ソ」中立條約モ亦右ノ方針ヨリ出デテ北方ノ安全ヲ確保セントスルモノデアリマス、其ノ後「ドイツ」ト「ソヴィエト」聯邦トノ間ニ戰禍ノ發生ヲ見ルニ至リマシタケレドモ、政府ハ依然北方ノ安全ヲ確保セントスルノ態度ヲ堅持シ來レルモノデアリマシテ、畢竟我が方ニ於キマシテハ、北方ニ於テ平和ノ攪亂セララルガ如キ素因構成セラレ、又ハ帝國ノ權益ガ脅威セララルガ如キ事態ノ發生スルコトニ對シテハ飽クマデ之ヲ防止セントスルモノデアリマス。

植民地悉ク之ニ倣ヒ、蘭印亦之ニ和シタノデアリマスルガ、英米ハ更ニ濠洲、蘭印、重慶ヲ誘ツテ、對日包圍ノ態勢ヲモ執ルニ至リマシタ。

斯クノ如クニシテ帝國ヲ繞ル國際情勢ハ一日ト緊迫ノ度ヲ加ヘ來ツタノデアリマスルガ、英米ノ我が方ニ對スル此ノ種壓迫ハ事重大デアリマシテ、帝國ノ生存ニモ甚大ナル影響アル次第デアリマス。

茲ニ各方面ノ注意ヲ願ヒタイノハ、斯カル情勢ナルニモ拘ラズ、從來帝國政府ガ太平洋、延イテハ世界全局ニ於ケル平和ヲ維持シ、最惡ノ事態ヲ回避セントノ崇高ナル動機ヨリ局面ノ打開ノ爲メ最善ノ努力ヲ傾注シ來レルコトデアリマス、抑々支那事變勃發以來、日米關係ハ惡化ノ一路ヲ辿リ、逐次其ノ勢ヒヲ加ヘ來リ、之ヲ放置致シテ置キマスナラバ、勢ノ趨ク所最惡ノ事態ニ立至ルコトナキヲ保シ難キ情勢ト相成リマシタ、若シ斯クノ如キ事態トモナラバ、太平洋ヲ繞ル諸國ニ對シテノミナラズ、全世界人類ニ大ナル慘禍ヲ及ボスモノデアリマシテ、洵ニ寒心ニ堪ヘヌ所デアリマス、仍テ平和ヲ念トスル帝國ハ茲ニ思ヒヲ致シマシテ、本年四月以來米國政府トノ間ニ、日米問題ノ根本的調整ニ關スル話合ヲ行ヒ來ツタノデアリマスルガ前內閣ニ於

キマシテハ本年夏以後ニ於ケル情勢ノ逼迫ニモ顧ミ、
銳意日米交渉ノ成立ニ努力致シマシタニ拘ラズ、彼我
ノ意見ノ一致ヲ見ルニ至ラナカッタノデアリマス。

現内閣ニ於キマシテモ國際危局ヲ救済シ、太平洋ノ
平和ヲ維持センガ爲メ、右日米會談ヲ繼續スルニ決定
シ、爾來交渉中デアリマス、隨テ其ノ内容ニ付テハ遺
憾ナガラ今茲ニ詳細申上グル自由ヲ有シマセヌガ、若
シ夫レ米國政府ガ帝國政府ト同様、眞ニ世界ノ平和ヲ
顧念スルト共ニ、帝國ノ自然的要求ト東亞ニ於ケル帝
國ノ地位ヲ了解シ、且又東亞ニ於ケル事態ニ付キ現實
ニ即スル考慮ヲ加ヘマスルニ於テハ、本件交渉ノ妥結
モ決シテ不可能デハナイト考ヘル次第デアリマス、而
モ彼我ノ見解ハ、過去半歲餘ニ互ル話合ニ依リ概ネ明
白トナツテ居リマスルノデ、技術的方面ヨリ見マスル
モ、今後ノ交渉ニ長時間ヲ費スノ要ナキコトハ、米國
側ニモ明カデアルト信ズルノデアリマス。

事態斯クノ如クデアリマシテ、帝國政府ニ於テハ本
交渉ノ成立ニ向ツテ、最善ノ努力ヲ傾注シテ居ル次第
デアリマスルガ、我が方ノ協調的態度ニモ自ラ限度ガ
アリ事苟クモ帝國ノ生存ヲ脅カシ、又ハ大國トシテノ
權威ヲ毀損スルコトトナルガ如キ場合ニハ、飽クマデ

圈ノ確立ノ爲ニ邁進シテ居ル次第デアリマス、現地軍
將兵ノ努力及ビ辛苦ハ固ヨリ察スルニ餘リアルノデゴ
ザイマス。

元來重慶側ヲ壓倒致シマシテ事變ヲ完遂致シマスル
爲ニハ、政略戰略上ノ各種手段ノ統合施策ヲ必要ト致
シマスルコトハ茲ニ贅言ヲ要セヌノデアリマスルガ、
就中敵ノ戦力破摧ト封鎖ノ強化トニ主ナル努力ヲ拂ッ
テ居ルノデゴザイマス、隨ヒマシテ本年四月以降ノ各
作戰行動モ、其ノ主ナル目的ヲ茲ニ置カレテ居ル次第
デアリマス。

即チ五月ニ行ハレマシタル山西省南部ノ中原作戰、
九月ニ行ハレマシタル所ノ長沙作戰、同ジク九月ノ山
西省南部ノ沁河作戰等ハ、敵ノ戦力擊摧ノ爲ニ行ヒマ
シタル主要ナル作戰デアリマス、只今ヨリ順ヲ追ツテ
其ノ概要ヲ申述ベタイト思ヒマス。

先ヅ中原作戰及ビ江北作戰デアリマス、五月上旬ヨ
リ行動ヲ起シマシタル北支軍ハ、企圖ヲ秘匿シツツ急
襲的ニ、山西省南部中條山脈ニ蟠踞致シテ居リマスル
約二十萬ノ正規軍ヲ各方面ヨリ完全ニ包圍致シマシテ
之ヲ全ク殲滅致シマシテ、茲ニ實ニ偉大ナル戦果ヲ舉
ゲタノデゴザイマス、其ノ結果北支治安攪亂ノ瘡ヲ除

六
毅然タル態度ヲ以テ之ヲ排除セネバナラヌコトハ勿論
デアリマシテ、私ト致シマシテハ、此ノ點ニ付キマシ
テハ十分ノ決意ヲ以テ交渉ニ臨ンデ居ル次第デアリマ
ス。

今ヤ帝國ハ未曾有ノ難局ニ遭逢シ、一致團結是ガ打
開ニ邁進スルノ要アル次第デアリマス、元來軍事ト外
交トハ一體デアリ、内政ト外交亦表裏ノ關係ニアルノ
デアリマスルガ、官民一致國家ノ總力ヲ擧ゲテ事ニ當
ルノ要アルヲ痛感スルコト、今日程切實ナルモノハナ
イノデアリマス、以上率直ニ本大臣ノ所見ヲ披瀝致シ
マシテ、茲ニ一億同胞ノ支援ト協力トヲ切ニ冀望スル
モノデアリマス。

東條陸軍大臣戰況報告

私ハ陸軍大臣ト致シマシテ、陸軍ニ關シマスル戰況
ヲ報告申上ゲマスコトヲ光榮ト致シマス。

帝國陸軍ハ前議會以後引續キ陸ニ空ニ、事變完遂ノ
爲ニ各種ノ障碍ヲ凌ギ困難ヲ克服致シ、有ユル手段ヲ
盡シ懸命ノ努力ヲ傾注致シテ居ルコトニ付キマシテ
ハ、既ニ御承知ノ通りデアリマス、現在ニ於キマシテ
ハ、北ハ北滿ノ端ヨリ南ハ南部佛印ニ互リマスル擴大
ナル地域ニ大兵ガ派遣セラレ、御稜威ノ下大東亞共榮

去致シマシテ、北支ノ諸建設ハ愈々拍車ヲ加フルニ至
ツタ次第デアリマス、此ノ中原作戰ト並行致シマシテ
同時ニ行ハレマシタル江北作戰ハ所謂助攻作戰デアリ
マシテ、河南省ノ敵ヲ擊破致シマシテ中原作戰ノ成果
ヲ愈々大ナラシムルニ與ツテ力ガアツタノデゴザイマ
ス。

次ハ長沙作戰、北江作戰及ビ鄭州作戰ニ付テ申上ゲ
マス、長沙附近ニ於キマスル所謂第九戰區ノ數箇軍ノ
敵ニ對シマシテ、其ノ戦力ヲ擊摧シ、抗戰組織ヲ破壊
致シマスル爲ニ、中支軍ハ隱密裡ニ逐次準備ヲ進メテ
居リマシタガ、九月十八日作戰ヲ開始致シマスルヤ、疾
風迅雷三百「キロ」ニ互リマスル峻峻ヲ利用スル數線ノ
敵陣地帯ヲ突破致シマシテ、茲ニ敵ヲ寸斷シ、或ハ包
圍シ、敵ノ大兵團ヲ潰滅致シマシテ、又ハ之ニ甚大ナ
ル損害ヲ與ヘツツ長驅致シマシテ、二十七日ニハ長沙
ニ、二十八日ニハ株州ニ進出ヲ致シタノデアリマス、
此ノ約十日ニ互リマスル作戰ハ、山岳峻峻地域ニ於キ
マスル數線ノ陣地帯ヲ迅速ニ突破シ、當面ノ敵及ビ更
ニ他ヨリ増援致シマシタル所ノ敵ヲ併セ痛擊致シマス
ルト共ニ、其ノ抗戰根據ヲ悉ク覆滅ヲ致シマシテ茲
ニ完全ニ作戰目的ヲ達成致シタ次第デアリマス、軍ハ

斯ク致シマシテ十月ノ一日ヨリ反轉ヲ致シマシテ原態勢ニ復シ、茲ニ鋒ヲ收メタノデアリマス、此長沙作戰ニ呼應致シマシテ、廣東北方地區ニ於キマシテ、南支軍ハ同地附近ノ敵ヲ痛撃致シマシタ、又北支軍ノ一部ハ十月二日拂曉ト共ニ新舊黃河分流點附近ヨリ黃河ヲ渡河致シマシテ、同日ニハ早クモ鄭州ヲ占領シ、附近ノ敵ヲ撃滅シ、十月末原態勢ニ復リマシタ、本作戦モ中支軍ノ長沙作戰ニ策應セルモノデゴザイマス、之ヲ鄭州作戰ト申シマス。

次ハ沁河作戰、山西省南部ノ敵正規軍約二十萬ガ中原作戰ニ於テ完全ニ殲滅セラレマシタル經緯ハ先ニ申述ベマシタ所デアリマスルガ、其ノ後沁河河畔ニ共產軍及ビ敵第九十八軍ガ潛入ヲ致シテ來マシタノニ對シテ、北支軍ハ神速果敢ナル行動ニ依リマシテ、九月二十二日ニハ先ヅ共產軍ヲ、次イデ二十七、八兩日ニハ第九十八軍ヲ完全ニ包圍致シマシテ、敵軍長師長以下ヲ捕虜トシ、敵ヲ完全ニ殲滅致シマシテ、中原作戰ノ戰果ヲ更ニ擴大致シマシタ。

以上述ベマシタル如ク、主トシテ敵ノ戰力ヲ撃破致シマスル爲ニ屢々大規模ノ攻撃ヲ敢行致シマシタル結果、假令援蔣第三國ヨリノ若干ノ補給ハ受ケテ居リマデ、之ヲ撤收致シマシタ。

以上述ベマシタル如ク、敵戰力撃摧、補給遮斷ノ爲メ作戰ヲ致シマス外、勿論占領地ノ治安ヲ回復致シマシテ、新支那ノ健全ナル發達ヲ助長致シマスル爲メニ、現地軍ハ不斷ノ討伐肅清ヲ續ケテ居ルノデアリマスルガ、是ガ爲メニモ勿論大規模且ツ果敢ナル作戰行動ヲ必要トスルノデアリマス。

次ハ清郷工作ニ付テ申上ゲマス、即チ中支揚子江下流三角地帯ニ於キマシテハ、七月初頭ヨリ清郷工作ヲ開始致シマシテ、九月二十日其ノ第一期ヲ終了致シマシタ、目下第二期工作ノ實施中デアリマス、本工作ニ於キマシテハ、我が軍ノ統一指揮ノ下ニ、日華兩軍ガ先ヅ武力ニ依ル清郷ヲ行ヒマシテ、匪團ト民衆トヲ分離ヲ致シマシテ其處ニ國民政府ガ其ノ理想ト致シマスル政治ヲ確立致ス方式ヲ採ルノデアリマシテ、其ノ成果ハ着々ト擧ツテ居ル狀況デアリマス。

次ニ晋察冀邊區作戰デアリマス、北支ニ於キマシテ

スルコトトハ言ヘ、又人的資源ノ豐富ニ依リマシテ、重慶側ノ有スル兵力ハ尙ホ二百萬ニ近イモノガアリマスルモノノ、敵ノ戰力低下ハ最近更ニ著シキモノガアリマス、此ノ事實ハ、右ニ述ベマシタル數々ノ作戰、又敵ガ我が攻撃ト封鎖トノ苦痛ノ餘リ、及ビ援蔣國ニ對スル宣傳ノ爲ニ行ヒ來リマシタル八月下旬ノ揚子江下流域ノ反攻、九月下旬ヨリ十月月上旬ニ互リマスル宜昌附近ニ於ケル反攻等ノ經過ニ見マシテモ明瞭デアリマシテ、是等敵ノ反抗ハ何レモ其ノ機先ヲ制スル我が反撃ニ會ヒマシテ脆クモ潰エ去ツテ、徒ラニ龍頭蛇尾ニ終ツタ次第デゴザイマス。

此ノ敵戰力低下ニ更ニ拍車ヲ掛ケタルモノガ封鎖作戰デアリマシテ、我が聖戰ノ遂行ヲ妨碍スル爲ニ狂奔シツツアル所ノ第三國ノ援蔣行爲ニ基ク補給ヲ禁絶スル目的ヲ以チマシテ、數次ノ作戰ガ行ハレタノデアリマス。

即チ先ヅ浙東作戰、福建作戰デアリマス、四月下旬ヨリ海軍トノ緊密ナル協力ノ下ニ浙東地方―即チ浙江省ノ東及ビ福州附近ニ行ハレマシタル浙東作戰、福建作戰、是ハ右ノ目的ヲ有スルモノデアリマシテ、謂ハバ皮膚呼吸トデモ申スベキ所ノ敵ノ隱密執拗ナル補給

ハ治安ノ癌トシテ久シク山西、察哈爾、河北、此ノ三省境ノ山岳地帯ニ存シマスル共產軍根據地覆滅ノ爲ニ、八月中旬ヨリ行動ヲ開始致シマシテ、地形ノ困難及ビ補給ノ不足等ヲ克服シツツ大肅清作戰ヲ敢行致シマシテ、四散シテ遁レントスル敵ヲ捕捉シツツ共產地區ノ政治組織ヲ悉ク破壊ヲ致シマシテ、當分ハ到底再起不能ナルニ至ラシメ、十月十日ニ至リマシテ作戰ヲ終了致シマシタ、軍ト致シマシテハ更ニ本作戦ノ成果ヲ維持擴充致シマスル爲ニ目下別途ノ肅清方式ヲ採用努力シテ居ル次第デアリマス。

右ニ述ベマシタル各作戰ニ於キマシテ、航空部隊ハ能ク惡天候ヲ克服シツツ、常ニ地上部隊ト緊密ニ協力致シマシテ其ノ行動ヲ容易ナラシメ、其ノ戰果ヲ大ナラシメ、常ニ赫々タル戰果ヲ擧ゲテ居リマス。

尙ホ支那ニ於ケル建設ノ狀況ニ付キマシテ若干申述ベマス、重慶側ハ皇軍不斷ノ壓迫ノ爲メ、其ノ抗戰力愈々弱化致シマスルト共ニ經濟狀態ノ窮迫ニ伴ヒ内部抗爭モ激化ノ兆ガアリ、指導力モ逐次低下シツツアルニ引替ヘマシテ、南京政府ハ樹立後順調ナル經過ヲ辿リ、汪主席ノ訪日ヲ一轉機ト致シマシテ愈々其ノ實力モ伸張シ、最近ノ法幣暴落ニ伴フ經濟ノ動搖モ、能ク之ヲ

切抜ケ得ルコトヲ確信シテ居ル次第デアリマス、又華北政務委員會及ビ蒙古聯合自治政府モ、共ニ極メテ順調ナル歩ミヲ續ケテ居ル狀況デアリマス、又一面經濟建設モ概ネ豫期ノ如ク進行シ、帝國ノ期待致シマスル石炭、鐵、鑛石、鹽、棉、礬土頁岩等重要物資ノ供給モ概ネ確保スルコトヲ得マシタ、殊ニ英米等ノ資金凍結以來頓ニ加重セル重要度ニモ應ジ得ル程度デアリマシテ、我が國防國家體制ノ建設ニ洵ニ重大ナル寄與ヲ爲シツツアルノデゴザイマス。

以上申述ベマシタルガ如ク、帝國陸軍ハ重慶側ヲ屈服致シマス爲ニ萬般ノ努力ヲ拂ヒマスルト共ニ、從來ヨリ日滿共同防衛ノ大義ニ基キマシテ、滿洲ニ於テ滿洲國軍ト協同シテ防衛ノ大任ニ任ジテ居ルノデアリマスガ、本年七月下旬日佛共同防衛條約ノ締結ニ基キマシテ、新ニ一兵團ヲ南部佛印ニ増派致シマシタ、即チ該兵團ハ七月二十八日以後海軍ト緊密ニ協力シツツ平和裡ニ進駐ヲ行ヒマシタ、八月月上旬ヲ以テ、「サイゴン」ヲ中心ト致シマスル南部佛印ノ要地ニ所要ノ配置ヲ完了致シマシタ、斯ク致シマシテ佛印ニ在ル所ノ帝國軍隊ハ、佛印トノ共同防衛ニ任ジマスルト共ニ、對蔣封鎖ノ強化ニ目下邁進致シテ居ル次第デゴザイマ

戰ノ概要ニ付テ説明致シマス。

帝國海軍在支作戰部隊ハ、陸軍部隊トノ緊密ナル協同ノ下ニ極メテ廣大ナル地域ニ互リ幾多ノ困難ヲ克服シツツ勇戰奮闘、只管聖戰目的完遂ニ努メテ居ルノデアリマシテ、其ノ作戰ヲ大別シマスレバ概ネ揚子江方面作戰、沿岸封鎖作戰及ビ航空作戰トナリマス。

揚子江方面ノ作戰ハ、河口カラ約八百哩ニ及ブ揚子江上及ビ之ニ連接スル水路ノ安全確保ヲ主トスルモノデアリマシテ所要水域ノ機雷其ノ他ノ障碍物ヲ排除清掃スルハ勿論、附近ニ蠢動スル敵兵ニ對シ、屢々水上艦艇、陸戰隊及ビ航空部隊等ヲ以テ積極作戰ヲ實施シ其ノ擊破ニ努メテ居リマス、其ノ主ナルモノハ九月中旬陸軍部隊ト共同シテ湖南作戰ヲ實施シ、航空作戰、水路ノ啓開、陸軍部隊嚮導、及ビ陸戰隊ヲ以テスル營田其ノ他用地ノ攻略等ニ任ジ多大ノ戰果ヲ擧ゲテ居リマス、江上部隊ノ作戰ハ極メテ地味ナ上ニ、機雷處分ノ如ク大ナル困難ト危險トヲ伴フ作業ガ多イノデアリマスガ、中部支那ノ大動脈タル揚子江ノ交通安全ヲ確保シ、作戰部隊ノ後方補給路ヲ維持スル重要ナ任務デアリ、聊カモ油斷ヲ許サナイモノデアリマス、之ニ從フ江上部隊將兵ハ連續不斷、凡ユル困難ヲ排除シツツ本

ス、斯クシテ北ハ滿洲、南ハ佛印、此ノ東亞ノ廣大ナル地域ニ配置セラレマシタル皇軍ハ、蔣介石側屈服ノ爲メ努力致シマスト共ニ、東亞共榮圈確立ノ爲ニ磐石不動ノ態勢ヲ執リマシテ、軍紀愈々嚴正、威武ヲ中外ニ示シ、如何ナル國際轉機ニ處シマスルモ常ニ之ニ即應シ得ル所ノ準備ヲ完了致シテ居ルノデアリマス。

斯クノ如ク皇軍ガ能ク其ノ大任ヲ全ウシ得マスルノモ、銃後ノ強キ御支援ニ負フ所甚大ナルモノガアリマス、殊ニ終始慰問ニ激勵ニ力ヲ至サル所ノ銃後ノ熱情、多額ノ國防獻金ニ、又恤兵金ニ結晶スル其ノ赤誠、洵ニ想フニ心強クモ亦實ニ感激ノ念止ムル能ハザルモノガアルノデアリマシテ、此ノ席ニ於キマシテ銃後國民諸士ニ深甚ナル謝意ヲ表シタイト存ズル次第デアリマス。

嶋田海軍大臣戰況報告

支那事變ニ關シマシテ、前議會以後ニ於ケル海軍作

任務ヲ遂行シテ居リマス。

次ニ沿岸封鎖作戰ハ、全支那二千八百哩ノ海岸戰ニ互リ敵側ノ海上交通ヲ遮斷シ、又之ニ關聯スル沿岸諸作戰ニ任ズルモノデアリマシテ、終始嚴密ナル海上監視ニ當リマスノミナラズ、敵側物資出入ノ基地其ノ他重要ナル地點ヲ積極的ニ攻撃ヲシ、專ラ封鎖ノ強化ニ努力シテ居リマス、即チ三月ノ初旬ニハ陸軍ト協同シテ廣東州沿岸數箇所ノ要地ヲ急襲シ、四月ニハ同様福州攻略作戰竝ニ浙江省沿岸ノ鎮海、寧波其ノ他數箇所ニ互ル要地ノ奇襲上陸ヲ行ヒ、何レモ敵ノ據點ヲ覆滅シテ大ナル戰果ヲ收メテ居リマス、本年此ノ種上陸作戰ヲ行ヒマシタ地點ハ、大小合セテ二十六箇所ノ多キニ及ンデ居リマシテ、斯クシテ沿岸封鎖ノ完壁ヲ期シテ居ル次第デアリマス、封鎖部隊ハ炎熱酷暑ト風濤ニ抗シナガラ、堅忍不拔能ク其ノ任務ヲ果シテ居ルノデアリマス。

次ニ航空部隊ノ作戰ハ、殆ド支那全土ヲ蔽ウテ不斷ニ行ハレテ居ルノデアリマスガ、其ノ中主ナルモノハ「ビルマ」公路ト其ノ他ノ西南輸送路及ビ要地ニ對スル攻撃、重慶方面輿地中樞ニ對スル攻撃及蘭州西安等西北方面要地ニ對スル攻撃デアリマシテ、何レモ多大ノ

困難ヲ冒シ頻繁ニ反復實施シテ居リマス、特ニ重慶方面ニ對シマシテハ五月以降屢々攻撃ヲ加ヘテ居リマスガ、中ニモ八月中旬ノ如キハ大兵力ヲ以テ、一週間ノ内ニ晝夜連續四十回ノ猛撃ヲ加ヘ、敵ノ軍事施設其ノ他中樞機關ヲ完膚ナキマデニ爆碎シ、慘憺タル窮狀ニ陥レマシタコトハ御承知ノ事ト思ヒマス、今ヤ僅カニ殘存セル敵空軍ハ殆ド奧地ニ逃避シテ戰意ヲ喪ヒ、制空權ハ完全ニ我が軍ニ歸シテ居ル狀況デアリマス。

是等各作戰ノ外、海南島ニ於キマシテハ、屢々大規模ナル掃蕩作戰ヲ行ヒ、東北地區ニ殘存蟠踞セル敵匪ノ本據ヲ覆滅シテ多大ノ戰果ヲ擧ゲ、島内治安ハ顯著ナル向上ヲ示シテ居リマス。

以上ハ支那ニ於ケル帝國海軍作戰ノ概要デアリマスガ、是ト關聯致シマシテ、帝國海軍部隊ガ七月下旬更ニ南部佛印方面ニ進駐致シマシタルコトハ御承知ノ通りデアリマシテ、是等部隊ハ炎熱瘴癘ノ地ニ在ツテ、銳意帝國ノ武威發揚ニ努メテ居ル次第デアリマス。

今ヤ蔣介石軍ハ以上ノ如キ我が軍ノ作戰ト國內ノ疲弊困憊ニ依リマシテ戰意全ク喪失シ、僅ニ餘喘ヲ保ツテ居ル狀況デアリマスガ、帝國海軍ト致シマシテハ愈々旺盛ナル士氣ト不退轉ノ信念等ヲ以テ外作戰ノ遂行

○國策遂行ニ關スル決議

(十一月十八日 貴本會議 一一—一二頁)

國策遂行ニ關スル決議

速ニ東亞ノ禍亂ヲ戡定シ永ニ其ノ共存共榮ヲ確保シ世界ノ平和ニ寄與スルハ是レ帝國不動ノ國策ナリ政府ハ宜シク内外ノ情勢ニ對應シテ現下ノ危局ヲ打開シ以テ國策ノ遂行ニ遺算ナキヲ期スベシ

(趣旨説明) 島津忠重

現下ノ國際情勢ハ日ニ緊迫ノ度ヲ加ヘ、今ヤ我が國ハ眞ニ一觸即發ノ危機ニ直面シテ居ル、此ノ情勢ニ對應シ、萬遺憾ナキ體制ヲ整ヘ、國民ノ協力ニ依リ此ノ難局ヲ打開セムガ爲、政府ガ臨時議會召集ヲ奏請セルハ我々トシテ滿腔ノ贊意ヲ表スルモノデアアル、我が帝國ノ嚮フベキ所ハ、支那事變勃發以來賜レル勅語ニ依リ明カナル如ク、速ニ東亞ノ禍亂ヲ戡定シ大東亞共榮圈ヲ確立シ、世界平和ヲ招來シ以テ萬邦ヲシテ各々其ノ處ヲ得セシメ、兆民ヲシテ悉ク其ノ堵ニ安ンゼシムルコトヲ以テ、帝國不動ノ國策トシテ居リ、歷代ノ政府ハ此ノ國策ヲ寶持シ、國民ト共ニ之ガ遂行ニ努力シ來ツタガ、遺憾ナガラ未ダ東亞ノ事態ヲ認識セズ、帝國ノ實力眞意ヲ諒得セヌモノガアルノミナラズ、徒ニ支那事變ヲ以テ單ナル侵略

ト内實力ノ鍊成充實トニ努メツツ、只管事變終局目的ノ達成ニ邁進シ、以テ 上大元帥陛下ノ大御心ニ應ヘ奉リ、下國民ノ期待ニ副ハンコトヲ固ク期シテ居ル次第デアリマス。

尙ホ此ノ機會ニ於キマシテ、先般本院ヲ代表セラレマシテ、議員諸君ガ親シク戰地ニ於ケル部隊ヲ始メ、各地病院ヲ御慰問下サイマシタコトニ對シ、尙ホ又國民全般ヨリ前線將兵竝ニ海軍全般ニ對シテ與ヘラレマシタル熱誠溢ルル御後援ニ對シ、茲ニ海軍將兵ヲ代表致シマシテ深甚ナル感謝ノ意ヲ表シマス。

行爲ナリト誣ヒ、更ニ東亞共榮圈ノ確立ヲ目シテ領土の野心ノ發露ナリト妄斷シ、帝國ノ國策遂行ヲ阻止セムトスルモノガアル、彼ノ援蔣行爲ノ積極化ノ如キ將又我が國ニ對スル經濟包圍陣強化ノ如キ殊ニ著シキ敵性行爲デアアルガ、是等ニ類スル事例ニ至ツテハ殆ド枚舉ニ遑ガナイノデアアル、此ノ重大ナル秋ニ方リ政局ヲ擔フ現内閣ハ、成立以來日尙淺イノデアアルガ、刻々ニ急迫スル客觀情勢間ニ立チ、且ツ國家ノ存立ヲ脅威スル如キ事態ノ頻出スル時局下ニ在リテ、能ク善處シ内ハ赤誠ヲ披瀝シ一億國民ノ協力ヲ求メ、何時如何ナル場合ニモ對處シ得ル體制ノ整備ニ努メ、外ハ銳意外交交渉ヲ以テ平和裡ニ難局打開ノ方途ヲ講ジツツアルコトハ吾々ノ誠ニ多トスル所デアアルガ、冀クハ更ニ大國民タルノ襟度ヲ示シ、自己ノ努力ノ足ラザルヲ憂フルノ態度ヲ以テ、此ノ上トモ有ラユル手段ヲ盡シ、樽俎ノ間ニ折衝シ、彼ヲシテ東亞ノ眞事情ニ徹セシメ、帝國ノ眞意ハ固ヨリ、我が實力ノ程ヲ十分了知セシムルヤウ努力アラントコトヲ切望スル、併シ我等ノ襟度ニモ自ラ限度ガアリ、我が方ノ至レリ盡セリノ努力ニモ拘ラズ、尙且帝國ノ實力ヲ過小視シ、帝國ノ眞意ヲ故ラニ理解セズ、敢テ我が帝國不動ノ國策遂行ヲ阻碍シテ覺ムル所ヲ知ラズ、帝國ノ名譽ヲ汚辱シ其ノ存立ヲ脅カ

サムトスルノ態度ヲ改メザルモノガアレバ、政府ハ斷乎タル決意ヲ以テ所信ニ邁進セラレンコトヲ衷心希望シテ已マナイ。

(答) 東條首相

本院ニ於テ全會一致ヲ以テ可決サレタ決議案ノ趣旨ニ付テハ政府ハ十分諒得シタ、政府ハ此ノ上トモ能ク趣旨ノ次第ヲ體シ、國家ノ自尊ト國家ノ權威トヲ保持シツツ最善ノ努力ヲ竭シテ行キタイト思フ。

○國策完遂ニ關スル決議

(十一月十九日 衆本會議 四二—四六頁)

決議

世界ノ動亂愈々擴大ス敵性諸國ハ帝國ノ真意ヲ曲解シ其ノ言動倍々激越ヲ加フ隱忍度アリ自重限アリ我が國策夙ニ定マリ國民ノ用意亦既ニ成ル政府ハ宜シク不動ノ國是ニ則リ不拔ノ民意ニ信賴シ敢然起ツテ帝國ノ存立ト權威トヲ保持シ以テ大東亞共榮圈ヲ建設シ進ンデ世界永遠ノ平和ヲ確立スベシ

右決議ス

(趣旨説明) 島田俊雄

本案ノ趣旨ハ決議本文ニ盡キ要スルニ政府ガ斷乎タルノ態度ヲ以テ行動サレンコトヲ希フモノデアル、首相並ニ外相ノ演說ハ吾々ノ大イニ多トスルモノデ

アリ、多數國民モ必ズヤ好感ヲ以テ之ヲ聽ケルモノト思フガ、其ノ内容ニ至ツテハ憾ムラクハ尙抽象的ナルヲ免レヌ、然シ國民ハ既ニ我が國ノ現ニ遂行シツツアル支那事變完遂途上ニ横ハル最大ノ障礙物ガ何デアルカ、「アメリカ」ヲ主體トスル敵性國家群ノ横槍カラ來レルモノデアルコトハ能ク承知シテ居リ、聖戰實ニ四箇年半、日本陸海空ノ三方面カラ追詰メラレ、潰滅ノ一途ヲ辿リ瀕死ノ状態ニアル蔣介石政權ガ、今尙ホ一縷ノ命脈ヲ保ツテ居ル原因ハ、蓋シ「アメリカ」ヲ中心トスル敵性國家群ノ陰險ニシテ執拗ナル後援ニアリ、彼等ハ晉ニ蔣介石ヲ「ロポット」トシ我が聖戰目的完遂ノ邪魔ヲナスノミナラズ、「ビルマ」ヲ強壓シテ抗日ノ足場トシ、蘭印ヲ利用シ各種物資ノ供給ヲ拒絶セシメ、「シンガポール」「グアム」「フィリピン」「ハワイ」等太平洋ヲ繞ル各地ノ凡ユル地點ニ防備ヲ不當ニ強化シ無益ノ威嚇ヲ爲シ、平穩靜謐ナルベキ太平洋ノ波浪ヲ故ニ沸立タセ、一觸即發ノ危機ヲ醸成シ、一世紀ノ長キニ互ル日米國交ヲ一朝ニシテ破滅ニ導カントシツツアル、其ノ責任者ハ誰デアルカ、敢テ米國國民全體ノ責任トハ言ハザルモ、少クモ北米合衆國ノ現在ノ指導者ノ全責任ニ歸スベキコトハ全世界ノ何人モガ異議ナク認ムル所デアルト斷言シ得ル、之ヲ歐羅巴事情ニ付テ考

ヘルモ、獨英ノ抗爭ハ既ニ二年ニ互ツテ居テ尙結末ニ達セズ、獨「ソ」ノ勝敗モ亦結着ニ到ラナイ、其ノ然ル所以ハ戰争ノ背後ニ米國ノ指導者達ガ在リ、濫リニ歐羅巴大陸ノ紛争ニ參加進出シ、國力ヲ擧ゲテ英「ソ」ヲ援助セルニ、其ノ大ナル原因ガアル、斯様な點カラ今日ノ世界大動亂ハ、一面カラ見レバ日獨伊樞軸國ト英米「ソ」諸國トノ對抗ノ如クニモ見ヘルガ、實ハ「アメリカ」指導者等ノ世界制覇ノ大野心ガ其ノ根源ノ大原動力ナルコトハ、識者ヲ俟タズシテ明カナル所デアル、平和愛好、自由解放ヲ標語トスル米國ノ爲ス所ガ斯ノ如シトスルナラバ、吾々ノ行クベキ途、吾々ノ覺悟スベキ所モ自ラ明カデアルト言ハネバナラヌ、政府ハ四月以來太平洋問題ニ付米國政府ト話合中ト言フガ、其ノ内容、條件等ニ付テ此處ニ之ヲ論議スルハ敢テ避ケルガ、一言加ヘテ置カネバナラヌコトハ、米國政府ニ果シテ我が國ノ爲シツツアル聖戰聖業ノ如何ナル點ニ苦情ヲ言フ資格アリヤ、抑々民族ノ自給自足、大東亞共榮圈ノ確立、平和的ニ經濟的ニ東亞諸國家ガ有無相通ジ、連絡結合シテ共存共榮ノ平和境ヲ樹立シ、仍テ以テ世界ノ平和ニ貢獻セントスル我が國ノ正シキ主張ノ何處ニ侵略的意圖ガアルト言ヒ得ルノデアアルカ、之ヲ妨害シ之ヲ否定セントスル所ニ「アメリカ」側ノ無理ガ存

在スルト思フ、對米交渉ニ政府ハ如何ナルモノヲ期待シテ居ルカノ點ハ之ニ言及スルヲ避ケタイト思フガ、話ニハ話、事實ニハ事實ヲ以テ答ヘネバナラヌ、交渉進行中ニモ、一方ニ於テ傍若無人ノ援將行爲ヲナシ、勝手ナル暴言ヲモ敢テシテ憚ルナキ状態ニ對シ、我が方ハ何ヲ爲シテ居ルカ、果シテ如何ナル事實行動ヲ執ツテ居ルカ、事實ニハ事實ヲ以テ答ヘルガ當然デハナイカ、吾々ハ因ヨリ争ヲ好ムモノデハナイ、最後ノ一分マデ話合ヲ爲スハ何等差支ナキノミナラズ、當然ノコトト思フガ、正義ヲ蹂躪シ、好意ヲ無視シ、獨立ヲ脅威シ、更ニ正當ナル進路ヲ遮斷セントスルガ如キ態度ニ對シ、之ヲ其ノ儘受入レ、侮辱、威嚇ニ屈シ自滅ヲ待ツガ如キハ、吾々ノ正義觀、愛國心ガ絶對ニ之ヲ許サナイコトヲ斷ツテ置キタイ、話ヲ爲シ理解セヌ者ニハ理解セシムル方法ガアル、獨リ理解シ乍ラ理解出來ヌト稱シ理窟ヲ捏ネル者ニ對シテ爲スベキ事ハ唯一ツアルノミデアアル、國民ノ念願トスル所ハ現在在目前ノ處置デアリ、現在如何ニスルカノ問題デアアル、政府ノ裡ニハ動モスレバ國民大衆ガ未ダ時局認識ニ徹底セヌトノ考ヲ持ツ者ガアルカニ考ヘラレルガ、是ハ大ナル誤解デアリ、此ノ戰爭ニ勝抜クニアラザレバ、和平モ幸福モ榮光

モ望ミ得ル所デハナイト感ジテ居ルノガ、國民共通ノ心理デア、其故ニ政府ハ此ノ國民心理ヲ事變處理難局打開ノ上ニ利用活用セラレル用意ガナクテハナラヌト思フ、政府ノ決意ノ鞏固ナルコトハ屢々聽イテ居ル所デア、決意ガ單ニ決意ニ止ルトキハ之ガ牢固タルヤ否ヤ不明デアリ、國民ハ牢固タル決意アリシコトヲ證明スル實行ノ決定ヲ俟ツテ居ルノデア、慎重ナルモ宜イガ、交渉ニハ相當ノ日時ガ經過シテ居ルノデア、政府ハ何ヲ恐レ何ヲ憚ツテ居ルノデア、政府ガ國民ノ爲ニ恐レ憚ル所ハ、相手國モ亦恐レ憚ル所デア、コトヲ知ル必要ガアル、吾々ハ須ク今ノ機會ニ於テ、敵性國家ニ於ケル政界財界ノ我が國ノ立場ヲ誤解スル者ニ、少シ強イ實物教育ヲ與フベキデア、ト思フ、此ノ實物教育ヲ通ジ、戰爭ガ雙方ニ人的並ニ物的大犠牲ヲ必然トスルモノナルコトヲ知ラシメ、其ノ國ノ大衆ヲシテ、彼等ノ驕慢ナル指導者ノ指導教唆ニ依リ彼等ガ戰爭ノ渦中ニ捲込マルル時ハ、彼等ノ獨立ニモ自存ニモ直接關係ナキ戰爭ノ犠牲トナル者ハ、彼等ノ指導者ニ非ズシテ、彼等被指導者ナル國民大衆自身ナルコトヲ知ラシメルニ非ザレバ、太平洋ノ和平ハ得テ望ムベカラ

定ノ國策遂行ニ萬遺憾ナキヲ期シ、仍テ以テ其ノ存立ヲ全ウセントスル固キ決意ヲ有スル、此ノ決意ハ宣傳デハナイ故諒承サレタイ、而シテ今後ノ事態ノ如何ナル變化ニ對シテモ帝國既定ノ國策遂行ニハ相當重大ナル障礙ヲ突破シ行カネバナラヌ、政府ハ固ヨリ全力ヲ盡シテ之ニ當ル覺悟ハ十分決メテ居ルガ、其ノ半ヲ擔フ一億國民ノ集結ナクシテハ不可能デア、然ルニ國民ノ用意ハ成ツテ居ルトノ言ハ非常ニ心強ク感ズル次第デア、

○國策遂行ノ決意ト對米交渉

(十一月十八日 衆本會議 二二—二五頁)

(質) 小川 郷太郎

今日我が日本ハ世界大動亂ノ眞只中ニ在リ、前古未曾有ノ重大時機ニ際會シテ居リ、敵性國家群ハ我が東亞ノ情勢ノ變化ヲ認識セズ、我が國ノ眞意ヲ曲解シテ援蔣行爲ヲ續ケ、經濟的ニ軍事のニ露骨ナル對日包圍陣ヲ形成シ、正ニ我が國ノ生存ト權威トヲ脅威シツツアル、我國民ハ獨リ祖國ノ生存ト權威ヲ護ルノミナラズ、進ンデ敵性國家ニ對シ東亞諸民族ノ獨立ヲ擁護スル爲メ斷乎タル決意ヲ固メテ居ル、士

ザルモノト考ヘルモノデア、近衛前首相ノ「メッセー」中ニハ太平洋ノ癌ナル語ガ使用サレテ居タト聞クガ、果シテ癌ナルモノガ太平洋上ニアリトスレバ、其ノ癌タルヤ實ニ太平洋上ニ在ルニ非ズシテ、「アメリカ」人殊ニ「アメリカ」現在ノ指導者ノ心中ニアルコトヲ知ラネバナラヌ、此ノ癌ニ斷乎タル一大「メス」ヲ加ヘルハ吾々ノ責任デアリ、肇國以來幾千萬年ニ亙ル大日本帝國ノ現在ヲ負擔スル國民ノ後代ニ對スル責任デア、政府當局ハ深ク明カニ一億國民ノ烈々タル意氣ヲ確認シ、其ノ確認ノ下ニ此ノ決議案本文ノ如クニ、國民ノ用意亦既ニ成ル、政府ハ宜シク此ノ不拔ノ民意ニ信賴シ、一日モ速カニ斷然タル處置ニ出デラレ、此ノ吾々ノ難關突破ノ先頭ニ立タルルコトヲ希望シテ已マナイモノデア、

(答) 東 條 首相

本院ニ於テ全會一致可決サレタ決議案ノ趣旨ハ政府ハ十分了得シタ、政府ハコノ上トモ能ク趣旨ノ次第ヲ體シ、國家ノ自存ト權威トヲ保持シ、既定ノ國策遂行ノ爲ニ最善ノ努力ヲ盡シテ行キタイ、而シテ既定國策ノ遂行ニ付テハ政府ハ凡ユル障礙ヲ豫見シ、之ニ對スル萬般ノ準備ヲ整ヘテ、斷乎トシテ帝國既

氣ハ正ニ燃エ上ツテ居リ、此ノ際重大ナルハ政府ガ國民ニ時局ノ真相ヲ大膽率直ニ明ニシ、國際情勢ノ明確ナル見透シヲ與ヘ之ニ基ク勇斷ヲ下スコトニ在ル、國策遂行ノ方途ニ付テハ、從來ノ祕密主義ヲ一擲シ、政府ノ肚裡ヲ開キ心カラナル渾然タル官民協力ノ實ヲ舉グルコトガ目下急務中ノ急務デア、由ラシムベシ知ラシムベカラズノ態度ハ執ルベキデハナク、知ラシムベシ由ラシムベシデナケレバナラヌ、國民ノ盛り上ル決死ノ意氣ト熱トニ依ツテノミ、此ノ時艱ヲ突破スルコトガ出來ルノデア、支那事變ノ完遂ト東亞共榮圈ノ確立ハ、我が國不動ノ國策デア、此ノ國策遂行ヲ阻止スルモノアラバ敢然ト之ヲ排サネバナラヌ、之ヲ阻止スル國ニ對シ、平和的ニ外交交渉シ局面打開ヲ圖ルハ、當然爲スベキ道行デア、其ノ外交交渉ニ於テハ、帝國ノ生存ト權威トヲ擁護スル爲ニ守ラネバナラヌ限界ノ在ルコトヲ知ラネバナラヌ、首相外相ノ演說ハ此ノ限界ヲ示シタモノデ、即チ、第一ハ第三國ガ帝國ノ企圖スル支那事變ノ完遂ヲ妨害セザルコト、第二ハ帝國ヲ圍繞スル諸國家ガ帝國ニ對スル直接軍事的脅威ヲ行ハザルコトハ勿論、經濟封鎖ノ如キ敵性行爲ヲ解

除シ、經濟的正常關係ヲ恢復スルコト、第三ハ歐洲戰ガ擴大シ禍亂ノ東亞ニ波及スルコトヲ極力防止スルコト、ノ三項ニ互ル外交方針ヲ執ツテ居ルコトヲ承知スルガ、外相ハ更ニ、米國ガ東亞ニ於ケル我が國ノ地位ヲ了解シ、東亞ニ於ケル事態ニ付キ現實ニ即スル考慮ヲ加フルニ於テハ、本件交渉ノ妥結モ決シテ不可能デハナイト述ベテ居ラレ、交渉ノ責ハ米國ニ在ルコトヲ相當思ヒ切ツテ言明シテ居ル、併シ乍ラ尙ホ抽象的タルヲ免レナイ、政府ハ更ニ進ンデ具體的説明ヲ加ヘラレタイ、然シ今日野村來栖大使ニ依リ交渉中ナルノ故ヲ以テ、説明シ難イナラバ、日米交渉ノ進行ノ程度ニ依リ適當ノ時機ニ議會ニ報告サレタイ、日米交渉ガ妥結點ニ達スルヤ否ヤハ、何レニセヨ遠カラザル間ニ決定スルコトト思フガ、之ニ對シテハ我が國ハ異常ナル決意ト準備トヲ要スル、政府ニハ既ニ固キ決意アリト云フガ、國內體制ハ國防國家體制ヲ整フベク決戰體制ニ移行スベキモノデアルト言ヒタイ、戰ハ行動デアリ實踐デアリ、客觀的情勢ノ刻々ノ變化推移ニ即應シ、國民ノ總力ヲ最高度ニ發揮シ、如何ナル困難ヲモ必ズ乗切ラネバナラス、世界無二ノ國體ノ下、永キ歴史ト傳統ニ

培レタ國民ノ盡忠報國ノ精神ト意氣ハ鐵石ノ如ク堅ク、平時ニ於テハ想像セラレヌ偉大ナル力ガ發揮セラレルコトヲ確信スル、政府ニシテ確固タル決意ヲ有スレバ國民ハ必ズ之ニ従フガ故ニ、政府ハ決戰體制ノ確立ニ施策ヲ集中シ、之ニ總テ戰時即應ノ強力ナ性格ヲ持タサナケレバナラス、決戰體制ハ先ヅ財政經濟ヲ中心トシテ考慮サレネバナラスガ、要スルニ財政ノ決戰體制トシテハ戰費支辨第一主義、經濟ノ決戰體制トシテハ増産第一主義ヲ根幹トシ、現行計畫經濟、統制經濟ヲ新タナル觀點ヨリ再檢討シ、現實ト遊離セズ確乎不動ノ國策タル高度國防國家建設ヘノ基本方面ニ沿ヒツツ、迅速果敢、強力ニ施策ヲ具體化スベク實踐本位ニ再出發セネバナラス、而シテ是ノ根本ハ政府ノ指導力強化如何ニ依ルガ故ニ、官界新體制ノ速ナル實現ガ必須ノ條件デアル、行政機構改革ヲ行フコトハ困難ナリトスルモ、「セクシヨナリズム」等ハ斷乎トシテ打破サレネバナラス、戰時内閣ハ先ヅ挺身是ガ改革ヲ具現スベキデアリ、政治力ハ斷ジテ机上ノ革新デハナク、實踐ニ依ツテノミ確認セラレル、決戰體制確立ノ必要ヲ強調シ政府ノ所見ヲ問ハントスル者デアル。

(答) 東條首相

非常時局ニ對處スル政府ノ根本方針ニ付テハ私並ニ外相藏相ノ演說ニ依リ了解ヲ得テ居ルト思フ、祕密主義ヲ排シ、國民ノ理解ヲ求メ、舉國一致ノ實ヲ求メル趣旨ニハ政府モ同感デアル、今回政府ガ此ノ臨時議會召集ヲ奏請セルモ又其ノ本旨ニ出テ居ルノデアリ、軍事外交上ノ施策ニ支障ナキ限リニ於テ、十分國民ノ理解ヲ求メテ行キタイ、決戰體制ヲ高調サレタル趣旨ニ關シテモ、政府ハ夙ニ高度國防國家ノ建設ヲ目標トシテ着々實行シテ居リ、今後ニ於テモ其ノ完成ヲ期シテ行キタイ、財政經濟體制ノ軍費第一主義並ニ戰爭遂行ニ必要ナル物資増産第一主義ハ、政府モ其ノ必要ヲ感ジテ居リ、從來トモ此ノ方針ヲ來テ居ルガ、今後時局ノ進展ニ伴ヒ益々此ノ趣旨ヲ強化シ其ノ要請ニ應ヘテ行キタイト思フ、行政事務ノ整理、官吏ノ心構ニ付テハ、現下ノ時局ニ鑑ミ、改善ヲ要スル幾多ノ點アルコトヲ承知シテ居ルガ、徒ニ理想ニ趨ラズ、時局ノ要求ニ適應スル有效適切ナル改善ヲ實現シ行キタイ、時局重大ナルニ伴ヒ官吏ノ地位ハ愈々重大化シテ居リ、苟クモ官吏ノ獨善、各官廳ノ割據主義ノ如キハ斷ジテ許サレザル

所デアル、政府ハ從來動モスレバ陥リ易イ此ノ弊風ヲ一掃シ、最大ノ能率ヲ發揮スルヤウ努力シテ行キタイ、私ハ此ノ心構ヘテ以テ率先事ニ當リ、又官吏ヲ指導シテ行キタイト考ヘテ居ル。

(答) 東郷外相
帝國不動ノ國策遂行ニ付キ障礙ヲ與ヘルモノガアレバ之ヲ排除シ、又帝國ノ權威ト生存ヲ擁護セントスル帝國ノ襟度ニモ自ラ限度アルコトニ付テハ、質問ノ趣旨ハ全然私ノ演說ト一致スル、唯其ノ交渉ノ具體的内容ヲ報告スルコトニ付テハ、依然交渉中ニ屬スルガ故ニ、詳細具體的ニ申上ゲル自由ヲ有シナイ、併シ成ベク速ナル機會ニ報告シ諒解ヲ得タイコトハ私ノ念トスル所デアリ、隨ヒ機會ガ許ス速ナル時機ニ於テ詳細報告スルコトニ承知願ヒタイ。

○國策遂行ノ決意信念及抱負
(十一月二十日 貴豫算委員會 六一七頁)

(質) 建部 遜 吾
第一ニ和戰ノ機ヲ逸セザルノ用心決意如何、國防ニハ器、術、氣ノ三ツノ要ガアリ、氣即チ氣合氣勢ハ其ノ最上ナルモノデアル、凡ソ戰フベキニ戰ハザレ

バ國民ノ氣ヲ餒ヤシ、永ク再ビ起ツ能ハザルニ至ルノデアアル、第二ニ肇國以來ノ皇謨即チ國是ヲ奉行スル崇高ニシテ雄大ナル信念如何、正シキヲ養フ、之ニ依リ國防ノ最上要件タル氣ガ養ハレル、内ヲ修メ自ラ養フコトナクシテ外ヲ化シ、天下ヲ平ニスルコトハ思ヒモ依ラヌコトデアアル、敵性國ハ今ヤ其ノ二千年來ノ信仰基督教カラスラモ遠ザカリツツアル、皇道政治ハ「ウシハク」即チ民ヲ壓スルノ政治デハナク、民ヲ知ルノ政治デアアル、民ヲ知ルハ敵ヲ知ルト別ノ事デハナイ、第三ニ萬國救済ノ大抱負如何、國內ニモ國外ニモ、殊ニ列國ノ間ニ非理非道ノ行ハルルハ戰爭ノ慘烈ナルヨリ大ナル天地人間ノ最大不祥事デアアル、非理非道ノ行ハルルニ於テハ一人格ノ消滅ニ風俗頹廢三ニ人間頹廢人口減衰、四ニ官道墮落、五ニ道義頹廢、六ニ人類ノ滅亡トナル、此ノ時ニ際シ天地ノ公道ヲ高ク掲ゲ、世界人類、萬國億兆ヲ救済スルノ抱負ヲ以テ從來ノ聖戰ヨリ更ニ大ナル聖戰ニ勇往邁進スルコトニ付如何ナル所見ヲ有スルカ。

(答) 東條首相

第一ノ和戰ノ機ヲ逸セザルノ決意アリヤ否ヤニ關シ

○近衛內閣及東條內閣ノ國策遂行方針ノ相違

(十一月十八日 衆豫算委員會 一二三頁)

(質) 中島彌團次

近衛前首相ハ其ノ內閣辭職ノ時ニ、內閣ハ國策遂行ノ方途ニ關シ意見ノ不一致ヲ見タルニ依リ辭職スルト聲明シテ居ルガ、近衛內閣ト現內閣トニハ國策遂行ノ方途ニ關シ如何ナル點ニ於テ相違スルノデアアルカ。

(答) 東條首相

現內閣ノ達成セントスル國策遂行及ビ其ノ決意ニ付テハ既ニ縷々説明セル通りデアリ、前內閣總辭職ノ際ノ聲明ニ關シテハ、現下外交的ニ頗ル機微ナ關係ガアリ、之ヲ此ノ席上説明スルコトガ果シテ國家ノ利益ナリヤ否ヤニ付テ考慮ヲ要スルガ故ニ、他日左様ナ機會モアルト思フノデ、遠慮シタイト考ヘル。

○支那事變完遂ノ見透シ

(十一月十八日 衆豫算委員會 四二頁)

(質) 原口初太郎

テハ、今日帝國ハ誠ニ興廢ノ岐路ニ立ツテ居リ、現在繼續サレテ居ル外交交渉モ外交交渉ニ非ズシテ外交戰デアアル、此ノ戰ノ決スル處、其ノ後ノ事態ノ變化ハ申ス迄モナイノデアアル、斯ノ如キ機微ナル上ニ立テルガ故ニ、機ヲ捉ヘ機ヲ逸セズノ點ハ誠ニ重大デアルト考ヘテ居リ、機ヲ逸セザルノミナラズ機ヲ捉ヘルコトモ十分心懸ネバナラヌト考ヘテ居ル、況ヤ現在支那事變遂行中デアリ、此ノ戰ノ部ニ屬スル機ニ於テハ言ハズモガナデアアル、次ノ國是ノ皇謨、國是ノ貫徹ノ重大決意アリヤ否ヤニ付テハ、私ハ今日外ニ對スル施策、内ニ對スル施策ニ於テ、常ニ歷代ノ御詔勅ヲ通ジ、日本國體ノ上ニ立ツ内外ノ施策ヲ誤ラヌタメニ戰々兢々トシテ居ル、第三ノ萬國ノ救済、是ハ組閣ノ第一日ニ於テ日本ノ國是トシテ、支那事變ヲ完遂シ、大東亞共榮圈ヲ建設シ、而シテ世界平和ニ寄與スルト述べテ居リ、茲ニ終局ノ目標ガ置カレテ居リ此ノ意味ニ於テ萬國ヲ救済スルニ歸一スルモノト考ヘル。

支那事變ノ完遂ハ帝國不動ノ國策デアリ、歷代政府ハ屢々其ノ經過ヲ聲明シ、國民ハ堅忍持久其ノ完遂ノ日ヲ待望シテ居ルガ、前議會ニ於テハ、近衛首相ハ支那事變ハ未ダ解決ノ曙光モ認め難イト述べラレ、本議會ニ於テハ作戰、清鄉工作、資源確保ニ付著々進展シツツアル狀況ガ説明サレタガ、支那ニ於ケル事實ニ基キ自他共ニ満足スル實情ヲ基礎トシテ説明願ヒタイ、斯テ事變完遂ニ付テ幾分ナリトモ國民ニ光明ヲ認めサセタイト思フ。

(答) 東條首相

四年有餘ニ互ル海陸軍ノ支那事變ニ對スル直接的努力ニ付テハ、作戰經過トシテ本會議ニ於テ説明セル通りデアリ、皇軍ハ日夜ヲ別タズ非常ナル勞苦ヲ以テ其ノ目的完遂ニ努力シテ居ル、即チ作戰手段ニ依ル抗日勢力ノ擊破ハ日毎ニ蔣政權側ノ抗戰力ヲ低下セシメテ居ルガ、他面經濟封鎖ニ依ル重慶壓迫モ相當ノ打撃ヲ與ヘ、辛ジテ餘喘ヲ保ツテ居ル狀態デアアル、又國民政府ノ育成強化ヲ支那事變解決ノ一要素タラシメントスル努力ハ、國民政府自身ノ努力ト相俟チ今日相當ノ成果ヲ擧ゲツツアル、以上ノ綜合力ト相俟チ今日歸順スル者ノ増加ハ之ヲ實證スルモノ

デアル、斯ノ如ク武力的ニ經濟的ニ幾多ノ方法ヲ事變解決上盡サントシテ居ルガ、問題ハ第三國ノ援蔣行爲デアリ、是ナカリセバ事變解決ハ速ニ成サレテ居タモノト考ヘテ居ル、政府ガ支那事變解決ノ妨害、蔣政權援助ノ禁絶ニ總ユル努力ヲ爲シテ居ルコトガ、茲ニ重大ナル意義ヲ持ツモノデ、日米交渉ノ目的ノ一ツモ、之ヲ支那事變上ニ反映セシメ、茲ニ最後ノ止メヲ刺シテ行キタイト考ヘルニ在ル、政府ガ今日重大ナル事態ニ直面シ、大ナル決意ヲ以テ之ヲ解決シ行カントスル主體ハ支那事變ノ解決デアアル、此ノ見透シニ關シ何時解決スルカニ付テ言明スルコトハ出來ヌガ、政府トシテハ凡ユル方法ヲ盡シ、最後ノ決意ヲ拂ヒ、支那事變ヲ帝國ノ欲スル如ク解決セントシテ、之ヲ實行ニ移シツツアル點ヲ以テ見透シノ答辯ト致シタイ。

○時局ニ對スル軍ノ準備

(十一月十八日 衆豫算委員會 二五頁)

(質) 中島彌團次

時局ハ非常ニ重大デ首相外相ノ演說、決議案ニ對スル總理ノ答辯等ニ依レバ、國民ハ戰爭ノ前夜ノ感ガ

立チテ憂ヘルコトガ當ニ政治家ノ態度デナケレバナラヌガ、我ガ國ハ如何ナル立場ヲ以テ將來ニ處セントスルノデアアルカ、所謂世界ノ三大共榮圈ヲ築キ其ノ東亞ニ於ケル吾人ノ立場ヲ如何ニ處シテ行カントスルノデアアルカ、又世界ニ對スル我ガ大和民族ノ進出ニ付テハ、或ハ交通網ニ於テ、「ドイツ」ガ「バグダッド」鐵道經營ヲナセルガ如ク、空ニ海ニ又鐵道ニ依リ、中央「アジア」或ハ歐羅巴其他ニ交通ヲ開キ、文化ニ貢獻シ、經濟的ニ發展スル方途ニ付テハ、今日ヨリ研究シテ然ルベキモノデアリ、研究スベキモノト信ズルガ、此ニ對スル首相ノ所見如何。

(答) 東條 首相

戰後ノ對外經綸ニ付テハ、政府ハ組閣ト同時ニ、支那事變ヲ完遂シ、大東亞共榮圈ヲ確立、世界平和ニ寄與スルハ、帝國不動ノ國是ナリト明示シ、此ノ目的達成ニ全力ヲ盡スコトヲ聲明シテ居ルガ、此ノ遂行ニ當リ之ヲ妨ゲル障害ヲ除去シ行ク爲ニ覺悟スベキ三要點ハ昨日述べた通りデアアル、即チ戰後大東亞ノ共榮圈ヲ建設シ、此ニ依リ世界平和ニ寄與スルコトガ戰後ノ帝國經綸ノ大筋デアアル、然ラバ之ニ依リ如何ナル目的ヲ達スルカ、帝國ハ茲ニ此ノ達成ニ依

スルノデアアルガ、此ノ時國民ガ最モ信賴シテ居ルノハ陸海軍デアアル、陸海軍ノ之ニ對スル準備ハ十分ト思フガ、議會ヲ通ジ國民ヲ安心セシムルヤウ此ノ點ニ付キ聲明セラレンコトヲ希望スル。

(答) 東條 陸相

事變開始以來、議會ノ協賛ヲ得テ陸軍ハ軍備充實ヲ促進シ、戰備ノ向上ヲ圖リ、營々トシテ其ノ完成ニ努メ、支那事變ノ完遂ノ傍ラ、時局ノ變化ヲ考慮シ、之ニ應ズル準備ヲ爲シ來ツタガ、今後事態ノ如何ナル變化ニ對シテモ陸軍トシテハ之ニ十分應ゼラレル準備アリ、其ノ點ニ付テハ國民ハ全然安心ヲ願ツテ宜イト承知サレタイ。

(答) 嶋田 海相

帝國海軍ハ質問ノ如キ事態ニ對シ、萬般ノ準備ヲ整ヘテ居ル。

○戰後ノ對外經綸

(十一月十八日 衆豫算委員會 一〇一—一頁)

(質) 岡田 忠彦

凡ソ戰時ニ於テハ戰後ノ經綸ヲ考ヘ、戰後ハ次ニ來ルベキ戰時ノ考案ヲ廻ラス、即チ所謂天下ノ憂ニ先

リ肇國以來ノ大理想、八紘ヲ以テ宇ト爲スノ大理想ヲ現代ノ國民並ニ今後ノ近キ子孫ガ實現スル精神的目的ヲ達成シ得、此ノ目的達成ニ依リ帝國ト友邦トノ努力ノ結果、東亞諸民族ヲシテ茲ニ各々處ヲ得セシメ得ルノデアリ、即チ精神的ニ政治的ニ大ナル目的ガ達成セラレルノデアアル、日本ハ其ノ曉ニ、友邦ト共ニ自存自榮ノ態勢ヲ確立シ、國防上自存ノ鞏固ナル基礎ヲ確立シ、帝國ノ將來ノ發展ガ保障セラレ、而シテ之ヲ世界平和ニ對スル大乘的ナル寄與タラシメントスルノガ、帝國ノ戰後ノ經綸ノ大ナル「ライン」デアアルト心得テ居ル。

○國民ノ時局認識

(十一月十八日 衆豫算委員會 二七—二八頁)

(質) 木村 正義

支那事變以來ノ日本ノ最大ナル政治上ノ缺陷ハ、國民ニ時局ノ真相ヲ知ラシメズ、政治ノ見透シヲ全ク持タシメヌコトニ在リ、國民ニ真相ヲ知ラセズシテ、其ノ協力一致ヲ求ムルハ非常ナル無理デアアル、政府當局者ハ事態ヲ承知セルガ故ニ時局ニ對スル明確ナ認識ヲ有スルハ當然デアアルガ、何モ知ラヌ國民ニ同

様ナル時局認識ヲ持ツヲ要求スルハ、要求スルコトガ無理デアアル、外交上軍事上機密ニ屬スル以外ノコトハ能フ限り多ク知ラシメル方針ヲ採ラネバ、如何ニシテ國民ト共ニ難局打開ニ當リ得ルカ、首相ハ鐵石ノ意志ヲ以テ迅速果敢ナル實行ヲ爲スト言ハレタガ、今後ハ如何ニ爲シ行クカ、實行ノ手段方法ニ付テ考慮サレタイ、從來種々ナ取締ヲ爲セル新聞社等ニ對シテモ、或ル點ニ於テハ緩和シテ「ニュース」ヲ出シ、言論機關其ノ他ヲ利用シテ國民ヲ啓發シ、政治ノ見透シヲ與ヘネバ、國民ヲ率キ行クコトハ不可能ト思フ、今日ノ國民生活、國民經濟ハ總テ計畫ノ上ニ立ツテ居リ、生活モ産業モ計畫デアアル、政治ノ見透シ、將來ノ見透シガ國民ニ與ヘラレズシテ、如何ニシテ生産ガ爲サレルカ、見透シヲ與ヘルコトガ政治デアアル、政府ノ政策ガ不安定ナル點モ又一ツノ缺陷デアリ、斯ル從來ノ政治ニ政府ノ大ナル缺陷ガアル點ニ付首相、又ハ情報局總裁ノ所見ヲ伺ヒタイ。

(答) 東條 首相

國民ニ正シキ認識ヲ與ヘ、且ツ祕密ヲ排スル點ハ同感デアリ、同感ナルガ故ニ今回議會ヲ奏請シ、議會ヲ通ジ國民ニ充分意ノアル所ヲ知ラシメタイト考

ヘ、之ヲ實行シタノデアアル、今日國際情勢ハ非常ニ機微ナル關係ニ置カレ、外交ノ戰、經濟ノ戰、宣傳ノ戰ガ現ニ爲サレツツアル間ニ於テハ、或ル限度以上ノ、殊ニ軍事上外交上ノ問題ハ、政府ヲ信賴シ、政府ハ其ノ範圍ニ於テ能フ限り國民ニ知ラシメテ行ク、此ノ兩方ノ積極的努力ニ依リ目的ヲ達シ得ルノデハナイカト考ヘル。

○大東亞共榮圈及大東亞新秩序ノ語義

(十一月十九日 貴豫算委員會 五頁)

(質) 出淵 勝次

大東亞共榮圈ナル語ハ今日殆ド國民ノ通念トナツテ居リ、總理モ組閣直後ノ新聞記者會見席上ニ於テ大東亞共榮圈ナル語ヲ用ヒラレテ居ルガ、十七日ノ首相及ビ外相ノ演說ニハ何レモ此ノ語ヲ用ヒテ居ズ、大東亞ノ新秩序建設ナル語ハ大東亞共榮圈確立ト同意義ト思ハレルガ、特ニ共榮圈ナル語ヲ避ケタコトニハ何等カノ意味ガアルカ、近衛前總理ハ大東亞共榮圈ノ確立ハ、日滿支ヲ根幹トシ、大東亞ヲ抱擁シ自給自足ノ確立ヲ期スル意味ト述ベテ居ルガ、首相モ同様ニ考ヘテ居ルカ意見ヲ承リタイ。

(答) 東條 首相

大東亞共榮圈ト大東亞新秩序ナル文字ハ同意義ナリヤ否ヤノ點ニ付テハ、別ニ共榮圈ナル文字ヲ避ケタ譯デハナク、大體同様ナ意味ヲ有スルモノト了承サレタイ、是ハ新シク使用シタ文字デハナク、三國條約ノ第二條ニモ此ノ文字ガ使用サレテ居ル。

○東亞共榮圈ノ内容

(十一月十八日 衆豫算委員會 四三頁)

(質) 原口 初太郎

昨年締結セラレタ日獨伊條約ノ第二條ニ依レバ「獨逸及伊太利國ハ日本國ノ大東亞ニ於ケル新秩序建設ニ關シ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ス」トアルガ、東亞共榮圈、大東亞ニ於ケル新秩序ニ關スル具體的説明ヲ外相カラ爲サレタイ。

(答) 東條 首相

東亞ニ於ケル新秩序ニ付キ、三國條約ニ於テ日本ニ其ノ指導權ヲ認メテ居ルコトハ質問ノ通りデアリ、之ニ關シ日本ハ佛印ニ對シテハ共同防衛ニ關スル取極、其他經濟各種ノ取極ヲナシ、緊密ナル關係ヲ結ビ、日本ノ共榮圈確立ニ資スル所大ナルモノガ在ツ

タト思フ、「タイ」ニ付テモ政治的ニ又經濟的ニ其ノ施設ヲ進メ來ツタガ今後トモ努力スル積リデアアル、支那ニ付テハ首相ノ説明ノ通りデアリ、東亞共榮圈内各諸民族ニ對シテハ、日本ノ眞意ニハ領土の野心ナク、是等諸民族ト共榮ノ地位ニ立タントスルノミナルコトヲ篤ト納得セシメ、此ノ種ノ方法ニ依リ其ノ諒解ヲ得ルト共ニ、積極的ニ政治的、經濟的施設ヲ爲シ其ノ地位ヲ固メ、其ノ事業ヲ完成スル考デ居ル。

(質) 原口 初太郎

大政翼贊會ノ統率スル「興亞」ニ、東亞局長署名ノ下ニ、日本ノ意圖スル所ハ東亞共榮圈ノ確立ニアリ、大東亞ニ於ケル被壓迫民族ヲ其ノ壓迫ヨリ獨立セシメ、被搾取民族ヲ其ノ搾取ヨリ解放スルニ在リ、トノ記事ガアルガ、今ノ説明ト相異スルト思フ、大政翼贊會ノ總裁ナル首相ノ説明ヲ願ヒタイ。

(答) 東條 首相

其ノ雜誌ハ見テ居ナイガ、其ハ眞意ヲ誤解セルモノト思フ、日本ノ大東亞共榮圈ノ建設ハ、八紘一宇ノ御聖旨ニ始リ、萬邦ヲシテ其ノ所ヲ得セシメ、萬民ヲシテ其ノ所ヲ得セシメルノ御聖旨ニ基クモノト思フ、即チ東亞ノ諸民族ヲシテ各々其ノ所ヲ得サ

シメテ行キ、互ニ共存共榮自存自榮シ行クノ趣旨ニ依リ施策サルベキモノト思フ、之ヲ直ニ被壓迫民族ノ解放トカ獨立マデ飛躍セシムルハ、行過ギト考ヘラレル、少壯ナル者ハ左様ナ言辭ヲ用フルガ、私ハ右ノ如ク考ヘ今後モ左様指導シテ行キタイ。

(質) 原口初太郎

東亞局長ハ少壯ナル者デモナイノデアアル、斯様ナ事ヲ輕視スルハ、言論防諜ノ如キ機微ナル點ニモ關係スル、其ノ記事ガ政府ト表裏一體ヲ成ス機關ノ局長ガ表明セル點ニ付取調ベラレタイ。

(答) 東條首相

私ノ部下ナル者ハ私ノ述べタ趣旨ニ依リ行動スルモノト考ヘルシ、又行動セシムル積リデアアル、過去ハ餘リ追求シタクナイト思フ。

○東亞共榮圈内諸國ノ對日動向

(十一月十八日 衆豫算委員會 三八頁)

(質) 由谷義治

外相ハ外交演說中ニ於テ、東亞諸國、諸民族ハ能ク帝國ノ眞意ヲ了得シ、新秩序建設ノ爲ニ帝國ト協力スルコトヲ確信シテ疑ハヌト述べラレタガ、東亞共

解ハ半歲餘ニ互ル話合ニ依リ概ネ明白トナツテ居ルガ故ニ、技術的方面カラモ今後ノ交渉ニ長時間ヲ費ス必要ナキコトハ米國側モ明カデアアルト信ズルト述べテ居ルガ、過日米國ニ派遣サレタ來栖大使ガ野村大使ト協力シ、昨日來大統領及國務長官ト話合ヲ重ネツツアル實情ニ顧ミ、若シ米國政府ノ誠意ニシテ見ルベキモノガアルナラバ、我方ニ於テモ最後ノ努力ヲ執リ、満足ナル妥結ニ到達セシメタイトノ念ニ燃ヘツツアルト察スルガ、此ノ意味カラ長時間ヲ費ス必要ナカルベシトノ言葉ハ、事態ハ是レ以上遷延ヲ許スヲ不得策トシ、能フベク速カニ結著ヲ付ケネバナラヌトノ心持ヲ言ヒ現ハシタモノデアアルガ、日ヲ限り決答ヲ迫レルモノトハ考ヘラレヌガ、長時間云々ナル一句ハ可ナリ中外ノ注意ヲ惹キ、新聞モ此ノ點ヲ特ニ指摘シテ居ル様子デアアルカラ外相ノ眞意ヲ承リ度イ。

(答) 東郷外相

日米交渉ハ四月以來交渉シ來ツテ居リ、其ノ間略々雙方ノ意見ハ明ニナツテ居ル、從ヒ交渉ハ既ニ雙方肚ヲ極メ之ヲ纏メルカ否カノ段階ニ立ツテ居ルト言ヒ得ル、此ノ點ニ關シテハ日本側トシテハ出來得ル

榮圈内ト考ヘラレル「ビルマ」、「タイ」、「蘭印」等ノ最近ノ對日動向ニ付外相ノ所見ヲ伺ヒタイ。

(答) 東郷外相

「ビルマ」「タイ」「蘭印」ノ三地域ニ付テハ、各々特殊ノ事情モアルガ、大體「イギリス」勢力ガ長ク扶植セラレタ地域デ其ガ尙殘存シテ居ルコトハ明カナ事實デアアル、「タイ」國トハ日本トノ關係ハ漸次緊密トナツテ來テ居ルガ、然モ尙此ノ土地ニ「イギリス」其他ノ勢力ガ相當殘存シ、日本ニ不利ナ動キガアルコトモ事實デアアルガ、日本トシテハ、現在迄ノ緊密關係ヲ益々固クシ、兩國間ノ關係ヲ主要ナル動キトナスニ努メテ居ル、「ビルマ」及蘭印トノ關係ハ日「タイ」關係以上ニ面白カラヌ形勢ニアルコトヲ承知サレタイ、此ノ地方モ其ノ諸民族ニ對シテハ日本ノ意圖ヲ能ク了得セシムルニ努メテ居ル。

○日米交渉

(十一月十九日 貴豫算委員會 四頁)

(質) 出淵勝次

外相ハ十七日ノ演說ニ於テ、米國ノ態度如何ニ依ツテハ日米交渉ノ妥結ハ不可能デハナイ、且彼我ノ見

限リノ讓歩モ爲シ、野村大使ニモ訓令シテ話合ヲ爲サシメテ居ルノハ來栖大使ノ「ワシントン」着以前カラノコトデアアル、斯ル情況ニ於テ多クノ時間ヲ必要トシナイコトハ技術的ニモ了解シ得ラレルコトト思フ、尙本交渉ニ於テ「アメリカ」側トシテハ時日ヲ遷延スルヲ得策トスル事情モアリ、日本側ガ時日ヲ遷延スルハ各種ノ點、殊ニ物資ノ點ニ於テ困難ヲ來ス事情モアリ、「アメリカ」側ハ之ヲ利用シテ日本側ノ更ニ大ナル讓歩ヲ迫ルコトモ考ヘラレ、斯ル事情下ニ本交渉ヲ徒ニ遷延スルハ得策ナラズトノ考カラ、本交渉ノ急速妥結ヲ求メテ居ル次第デアアル、無論最後通牒的ニ日ヲ限り話シタモノデハナイ、東京ニ於テモ「アメリカ」側ニ、本交渉ハ既ニ雙方トモ略々其ノ意ヲ盡シテ論議シ來テ居リ、之ヲ纏メントノ氣持ヲ以テ進ムナラバ短時日ニ交渉ハ終結シ得ベキ筈ナルコトヲ私カラモ申入レテアリ、從テ其ノ意味ハ「アメリカ」側モ明カニシテ居ルト思フト演說セル次第デアアル、政府トシテハ能フ限り本交渉ヲ妥結ニ導キタイト考ヘテ居ルガ時ノ關係ニ付テハ上述ノ如キ事情ガアルコトヲ諒承願ヒタイ。

(十一月十九日 貴豫算委員會 五頁)

(質) 出淵勝次

日米關係ハ昨今著シク緊迫ヲ告ゲツツアリ、此ノ際政府トシテハ、舉國一致萬一ニ備フル有ユル準備ヲ爲サネバナラヌコトハ申ス迄モナク、其ノ準備ハ既ニアルモノト確信スル、同時ニ「アメリカ」側ノ態度如何ニ依ツテハ、外交交渉ニ依リ妥結ヲ圖ル爲ニ、此ノ上共盡スベキ總テヲ盡シ、平和ヲ愛好スル日本ノ誠意ヲ遺憾ナク闡明スルコトハ切望ニ堪ヘナイ、將又我ガ國民トシテハ此ノ重大且微妙ナル事態ニ顧ミ、飽迄自重自制、苟クモ放縱ナル言動ヲ敢テスルガ如キコトナク、大國民タル態度ヲ以テ臨ムコトガ肝要ト思フ、此ノ點ニ關シ政府モ國民ヲ指導スル上ニ萬違算ナキヲ期セラレタイ。

(答) 東條首相

御意見ニハ全ク同感デアル、外交上頗ル機微ナル關係ニ在ル今日、言論ノ指導ハ重要デアリ、能ク國民ハ大國タルノ矜持ヲ持チ、冷靜ニ政府ノ政策ニ即應シテ言動スル必要ヲ痛感シテ居リ、左様ニ指導シテ

本ノ東亞ニ於ケル指導權ヲ米國ニモ認メサセルト言フノデアアルカ、東亞ニ於ケル事態ニ付テ事實ニ即スル考慮トハ、帝國ガ支那ニ於テ經濟的、軍事的、政治的、實際上ノ實力ヲ有セル具體的事實ヲ謂フノデアアルカ、是等ノコトヲ「アメリカ」ガ理解スレバ妥協シ得ルト云フノデアアルカ、新聞ハ日本ガ讓步セザレバ、日米妥協ハ不可能ト書イテ居ルガ、此ノ三ツノ意味ニ付説明サレタイ。

(答) 東郷外相

交渉ノ内容ニ付テハ昨日ノ演說ニ依リ大體ヲ盡シテ居リ、日本ノ態度ニ付テハ相當突込デ申上ゲタト考ヘテ居ル、其以上ニ申上ゲルコトハ私トシテ此ノ際差控フルガ宜イト考ヘテ居ル、交渉ハ何國ニ於テモ政府ノ發表ハ何レモ對手國ノ同意ヲ得ナクテハナラヌモノデアリ、其ノ途中ニ於テ發表スルハ慣例上認メラレヌ所デアアル、尙諸般ノ關係上各方面ニ及ボス機微ナル關係モアリ、是レ以上申上ゲルコトハ日本ノ利益ニ合致シナイト考ヘルノデアアル。

(質) 中島彌團次

昨日ノ施政方針演說中ニ述べラレタ三點ノ意義ハ如何。

居ル。

二八

○日米交渉ト日本ノ要求ノ内容

(十一月十八日 衆豫算委員會 一三二—一三四頁)

(質) 中島彌團次

外相ハ其ノ施政演說中ニ於テ、半歲ニ互ル日米交渉ノ彼我ノ意見ハ一致ヲ見ザルモ、現内閣ハ國際危局ヲ救済シ太平洋ノ平和ヲ維持センガ爲メ、日米會談ヲ繼續スルニ決シ、爾來日米交渉繼續中ナリ、然シ其ノ内容ハ詳細申上ゲラレヌト述べラレテ居ルガ、日米交渉ハ七箇月ヲ經テ居ナガラ、國民ハ全然之ヲ關知シナイ、國民ハ知ラヌガ故ニ其ノ時局認識ハ少ナクナルノデアアル、國民ニハ知ラシメナケレバナラヌ、政府ニ決意ガアル以上ハ、國民ニ斯ル施策ニ出テ居ルガ故ニ從ヒ來レト言フ方ガ宜イト考ヘル、又米國ガ帝國ノ自然的要求、東亞ニ於ケル事態ノ事實ニ即スル考慮、東亞ニ於ケル地位ヲ能ク考ヘルナラバ、妥協ハ成立スベキダト述べラレテ居ル言葉ノ、自然的要求トハ近衛聲明ノ意味ヲ指スモノデアアルカ、自然的帝國ノ要求ヲ意味シテ居ルノデアアルカ、東亞ニ於ケル地位トハ、日獨伊條約ニ於テ獨伊ノ認メタ日

(答) 東郷外相

其ヲ申上ゲレバ自然ニ理解出來ルコトハ能ク承知シテ居ル、隨ヒ其點ヲ詳細ニ申上ゲルコトハ此ノ際差控フルコトガ適當デ、文字ハ文字通リ解釋サレタイ。

○日米交渉ト日獨伊條約第三條

(十一月十八日 衆豫算委員會 一四頁)

(質) 中島彌團次

日米兩國ノ主張ノ一致ハ困難ト考ヘラレルガ、外相ハ技術的方面ヨリモ今後交渉ニ長時間ヲ要シナイト述べラレテ居ル點カラモ、來栖大使ハ「イエス」カ「ノー」ヲ聽キニ行ツタトモ見ラレル、斯テ日米關係ニ不幸ガ生ズルトスレバ、來栖大使ガ渡米シ現内閣ノ爲セル交渉ノ決裂セル場合、及ビ日獨伊條約第三條ニ關聯シ、哨戒水域、商船擁護等除々ニ中立法ヲ改正シツツアル米國ガ參戰スル場合、即チ松岡前外相ノ解釋ニ依レバ、戰爭ノ發生セル時ハ日本モ參戰ノ義務ガアルコトニナツテ居ル、此ノ二ツノ場合ニ日米間ノ不幸ハ生ジ來ルノデハナイカト考ヘルガ、第三條ニ付テハ如何ナル解釋ヲ採ツテ居ルカ。

(答) 東郷外相

日米交渉が今後如何ナル結末ヲ告ゲルカハ、只今逆睹スルコトハ出来ヌ、隨ヒ如何ナル態様ニ終ルカハ申シ上デラレヌ、又此ノ問題ガ三國條約ノ第三條ト如何ナル關聯ヲ有スルカニ付テハ、其ノ際起ル態様ニ依リ政府ノ態度ハ決定シ、又之ニ付テ關係國ノ態度モ適應セシメテ指導シタイ、又左様ナコトニナルト考ヘル故今日假定ノ問題デ話スコトハ御斷リスル。

○日本ノ要求スル三項目ト來栖大使派遣

(十一月十八日 衆豫算委員會 二三頁)

(質) 中島彌團次

首相ノ施政方針演說中帝國ノ期スル所ハ、第一、第三國ガ帝國ノ企圖スル支那事變ノ完遂ヲ妨害セザルコト、第二、帝國ヲ圍繞スル諸國家ガ帝國ニ對スル直接軍事的脅威ヲ行ハザルコトハ勿論、經濟封鎖ノ如キ敵性行爲ヲ解除シ、經濟的正常關係ヲ恢復スルコト、第三、歐洲戰爭ガ擴大シ禍亂ノ東亞ニ波及スルコトヲ極力防止スルコト、ナル三項ニ互ル目的ガ外交交渉ニ依リ貫徹セラレルナラバ、獨リ帝國ノ爲

ノミナラズ世界平和ノ爲メ洵ニ幸デアルト言ツテ居ルガ、來栖大使ガ「アメリカ」ニ渡リ外交交渉ヲ爲シテ居ル點ハ、此ノ三點ヲ指シテ居ルノデアアルカ。

(答) 東郷外相

來栖大使ヲ急遽「アメリカ」ニ派遣セルハ、野村大使ヲ補助シ、「アメリカ」側ニ日本ノ決意ヲ傳へ、且ツ交渉ヲ促進セシメルノ趣旨ニ出タ譯デアアル、來栖大使派遣以前ニモ日本政府ハ交渉ヲ申入レ、今月當初以來既ニ交渉中デアツテ、隨ヒ來栖大使ハ何等ソレ以外ノ新訓令ハ携行シテ居ナイ、併シ大體此ノ交渉ニ於ケル趣旨ハ、總理ノ述べタ三點ヲ包含スルモノナルコトハ勿論デアアル。

○來栖大使ト米大統領會談

(十一月十八日 衆豫算委員會 三八頁)

(質) 由谷義治

新聞ニ依レバ來栖大使ハ「アメリカ」大統領ト會談シタヤウデアアルガ、其ノ經過及ビ見透シヲ外相カラ發表セラレタイ。

(答) 東郷外相

來栖大使ト「ルーズベルト」大統領トノ會談ニ付テ

ハ、極ク簡單ナル電報ガ來、一時間十分會談ヲ爲セルコトノ報告ハアツタガ、詳報ハ未ダ到着シナイ、隨ヒ其ノ内容ハ私モ知ラズ、發表スル事態ニ至ツテ居ナイ。

○近衛「メッセー」

(十一月十九日 貴豫算委員會 四一五頁)

(質) 出淵勝次

八月二十九日ノ情報局ノ公式發表、「本月二十八日野村大使ハ米國大統領ヲ訪問シ、現下ノ國際情勢ニ鑑ミ、日米兩國間ノ懸案タル太平洋問題ニ付テ帝國ノ所信ヲ近衛總理大臣ノ「メッセー」トシテ手交セリ」トノ報道ニ依レバ、政府ハ太平洋問題ニ關スル所信ヲ米國側ニ傳ヘラレタモノト思フ、一方政府ハ日米交渉ノ經過ヲ發表スルコトハ不可ナリトノ建前ヲ堅持シテ居ルガ、外交上ノ問題ハ或程度迄公表シ得ザルコトノ國際通念デアアルコトハ因ヨリ承知シテ居ルガ、帝國ノ所信ダケハ發表シ得ルノデハナイカ、近衛「メッセー」ト離レ政府ガ是レ迄六箇月間一貫シテ主張セル我が要求ノ大體ナリトモ承リタイ、是ハ嚴密ニハ日米交渉其ノモノニ觸レルガ、主張シ來ツ

タ要求或ハ精神ハ既ニ「アメリカ」側ニ傳ヘテ居ルノデアリ、之ヲ斯ル機會ニ議會ヲ通ジ國民ニ知ラシメルコトモ、總力ヲ集結シ行ク見地カラ寧ロ進ンデ爲サルベキコトト考ヘル。

(答) 東條首相

前内閣ニ於ケル「メッセー」ヲ含メル日米交渉、現ニ繼續中ノ日米交渉ノ經過内容ハ、尙外交進行中ナル故ニ詳細ハ申上ゲルコトヲ差控ヘタイト思フ、但シ現政府ガ組閣第一日ニ於テ聲明セル「支那事變ヲ完遂シ、大東亞共榮圈ヲ確立シ、世界ノ平和ニ寄與スルハ帝國不動ノ國是ナリ」トノ方針ハ前内閣ニ於テモ當然堅持シ來レルモノデ、是ハ前内閣ト謂ハズ歴代内閣同様ニ堅持セルモノデアアル、唯此ノ國是ヲ當時ノ情勢ニ於テ如何ニ處理シ行クカノ點ニ付テハ各異ル考ガアルノデアアル、現内閣ニ於テハ既ニ施政方針演說ニ於テ明確ニ、帝國ガ外交上達セントシテ嚴タル目的ヲ堅持セル三點ヲ申述ベテ居リ、是以上ハ現在ノ外交交渉ニ影響スルガ故ニ他日ニ讓リタイト思フ。

○歐洲戰ノ東亞波及防止

(十一月十八日 衆豫算委員會 四三—四四頁)

(質) 原口初太郎

歐洲戰ガ擴大シ禍亂ノ東亞ニ波及スルヲ極力防止スルコトハ、總理ノ演說ノ外交ニ大方針中ニ擧ゲラレテ居ルガ、如何ニシテ防止スルカ。

(答) 東條首相

暫ク文字通りニ解釋ヲ願ヒ、如何ナル方法ニ依ルカノ點ハ差控ヘタイト思フ。

○東亞共榮圈內物資ノ利用

(十一月十八日 衆豫算委員會 二二頁)

(質) 中島彌團次

物資ガ現在拂底シテ居ルコトハ事實デアリ、物ガ偏在シテ居ルコトハ是正サレネバナラヌ、國防及ビ生活ノ資源ヲ得ントスレバ日本ハ國內及ビ東亞共榮圈內ノ物資流用ノ方法ヲ考ヘネバナラヌ、是ガ爲ニハ圓系通貨國、例ヘバ滿支カラ日本ニ物ノ流入スル方法ガ講ゼラレネバナラヌガ、先方ニ流出スル物資ハ巨額ニ上ルニ拘ラズ、流入スル物資ハ僅少デアル、

滿支カラ物資ガ豊富ニ輸入セラレルヤウナ制度ニ改メラレタイ。

(答) 賀屋藏相

滿支ト日本トノ物資交流ニ關シテハ、實ハ北支等カラハ豫想外ニ物資ガ入ツテ居ルノデアアル、石炭、特ニ最モ貴重ナル製鐵原料炭ノ如キハ殆ンド全部北支カラ輸入セラレテ居ル、又化學工業原料鹽、礬土頁岩、等モ大部分北支カラデアアル、鐵鑛石ハ中支カラ輸入サレ、是ハ恐ラク豫想外ノ數字ニ上ツテ居ル、〔速記中止〕。

○東亞共榮圈ト日本トノ連絡

(十一月十八日 衆豫算委員會一六一—一七頁)

(質) 岡田忠彦

貿易ハ現在一大轉換期ニ臨ンデ居リ、將來各國ハ各「ブロック」ヲ形成スル情勢ガ助長サレテ居ル以上、假令平和ガ回復シテモ、今日迄ノ如キ自由貿易ハ或ハ不可能デハナイカト思フ、從來ノ貿易ハ物資ヲ輸入センガ爲ニ日本ノ輸出ヲ盛ニシ、即チ物資輸入ノ購買力ヲ得ンガ爲ニ獎勵サレテ居タガ、今日ニ於テハ凍結令其他ノ關係カラ不可能トナリ、已ムナク之ヲ

強化シ漸次其ノ目的ヲ達シタイト思ツテ居ル。

○産業設備營團法適用ノ地域

(十一月二十日 貴産業設備營團委員會 一頁)

(質) 上野松次郎

産業設備營團法適用ノ地域ハ日本帝國內ト心得テ宜イカ、滿洲、北支、南支等ノ地域ヲ含ムモノト考ヘテ差支ナイカ。

(答) 神田商工總務局長

法規ノ建前トシテハ此ノ法律ヲ外地ニモ適用シ得ルコトニナツテ居ルガ、實際ノ運用トシテハ一應内地ダケノモノヲ狙ヒ考慮シテ居ル。

(質) 大河内正敏

産業設備營團ノ最重要ナル任務ハ建設ニ在ルト思フ、大東亞共榮圈中ニ國家ガ進ンデ建設スベキ、民間デハ不可能ナル事業ヲ此ノ産業設備營團ガ爲スコトガ最モ必要ナコトト思ハレ、業務ハ無論外地ニモ適用セラレネバナラヌ、場合ニ依リ外地ニ於テ石油井戸ヲ發掘スルコトモ必要デアリ、外地ト謂フモ現在未ダ日本ト十分ナ關係ナキ所ニ迄モ進ンデ建設スル必要ガアルト思フ、左様ナ點ヲ如何ニ考ヘテ居ルカ。

大東亞共榮圈內ノ通商貿易ニ求メルコトガ必至ノ勢トナルト思フ、然ル時ハ此ノ大東亞共榮圈內諸國トノ物資ノ流通ヲ圓滿ナラシムルコトガ絕對ニ必要ナル、然ルニ物資ノ流通ハ通貨關係ノ差障リカラ圓滿ヲ缺ク憾ミガアルヤニ聞クガ、通貨問題ハ微妙ナル國際問題ニモ關係シ詳細ナル答辯ハ期待セヌガ藏相ノ所見ヲ伺ヒタイ。

(答) 賀屋藏相

今後ノ世界情勢ニ於テハ質問ノ如ク各共榮圈內物資ノ交流ニ依存スルコトニ成ルト思フガ、左様ナ場合共榮圈內相互ノ國家間ノ通貨關係ガ圓滑ナルコトガ必要トナルハ論ヲ俟タナイ、將來東亞共榮圈ニ於テハ日本ガ指導的勢力ヲ有スル情勢ニアリ、日本ノ圓ヲ中心トスル相互ノ通貨關係ノ建設ヲ考慮中デアル、現ニ滿洲事件以來滿洲國ニハ日本圓ト等價ノ通貨制度ガ確立サレ、北支ニ於テハ聯合準備銀行ノ銀行券ノ發行ニ依リ、圓元ノ均等價格ガ維持サレ、皇軍ノ威力ニ依ル治安ノ維持ト當局者ノ努力ニ依リ、今日北支全部ノ確定的通貨トナツテ居リ、中支其他ハ未ダ作戦中デ理想ニ迄ハ到達シテ居ナイガ、中支ニ於テハ中央儲備銀行ヲ、民國ノ財政ノ強化ト共ニ

(答) 岸商工相

將來大ナル目標ノ下ニ廣範圍ニ建設シ行ク事モ必要ト思フガ、此ノ營團自身ガ現在直接ニ目的トシ對象トシテ居ル事ハ國內ヲ主眼ニ置イテ居ルノデアアル、法律ノ建前カラハ、國內ノミトノ法律上ノ限定ヲ爲シテ居ルノデハナイガ、現情カラハ東亞共榮圈内ニ於ケル種々ノ建設事業ニ付テハ、政治上軍事上ノ關係カラ内地同様ノ建設ヲ行フハ困難ナ事情ガアリ、差當リ本營團ノ建設ハ國內ト承知サレタイ。

○遊休設備ノ海外進出

(十一月二十日 貴産業設備營團委員會 九—一〇頁)

(質) 中山 太一

未動遊休設備ヲ海外ニ進出セシメ活用スルコトヲ考慮シテ居ルカ、滿洲、佛印等ニ進出セント希望スル者ニシテ、内地ニ於テ相當ノ實力ヲ有スル者ハ其ノ進出ヲ許下スル、或ハ好意的支援ヲ爲ス意思ハナイカ、同時ニ眞面目ナル實業家ノ支那視察調査等ニ渡航スルニ對シテハ便宜ヲ與ヘ、簡易ニ許可ヲ與ヘルコトガ、將來生産基礎ヲ築ク準備行爲トナルト思フガ如何。

(答) 岸商工相

遊休設備等ノ海外特ニ東亞共榮圈内ニ進出スルニ關シテハ、適當ナルモノハ之ヲ許可シ行ク考ヘデアアル、唯是ハ國家全體ノ見地カラ、國策ノ全體カラノ計畫ニ基キ進出サスベキモノデ、亂雜ニ進出セシメテ國策上ノ支障ヲ來シタ事例モアリ、計畫的ニ進出ヲ認メテ行キタイ、支那其他ノ方面ニ對スル眞面目ナ調査視察者ノ渡航ハ興亞院ガ一定ノ標準ノ下ニ許可シテ居ルガ、從來適當ナ資格ナキ者ガ相當多數渡航シタ爲、却テ現地ノ方策上支障ヲ來シタ事實ガアリ、相當嚴選サレテ居リ、眞ニ國策ニ副ヒ將來ノ經濟發展ヲ期スル爲ノ基礎調査ヲ爲サントスル者ニ對シテノミ渡航ヲ許下スル方針デアアル。

○「タイ」及佛印トノ貿易

(十一月十八日 衆豫算委員會 一七頁)

(質) 岡田 忠彦

佛印モ資産ヲ凍結サレタヤウデアアルガ、佛印ト日本ノ輸入關係ノ取極ニ付發表サレタイ、即チ經濟協定ノ問題ト、之ニ聯關スル「ピアストル」ノ如キ金融協定、及ビ「タイ」國ニ付テモ説明サレタイ。

(答) 賀屋 藏相

佛印トノ物資交流ニ關シテハ、日本ハ米、護謨等ノ重要商品ヲ輸入シテ居リ、先般經濟協定ヲ締結シ、貿易上ノ決濟ニ付テモ特殊ノ取極ヲナシ目下實行中デアアル、米ハ大體一箇年ノ後拂ヒト話合ガナツテ居リ、護謨ノ輸入ハ其ノ都度決濟シテ居ルガ是ハ外貨デ支拂ツテ居ル、其他ノ一般貿易ハ普通ノ決濟方法デ、先方ハ圓此方ハ「ピアストル」デ支拂ツテ居ル、「タイ」國トノ貿易モ現在ハ日本ノ輸入超過トナツテ居ルガ、是等ニ關シテハ種々詳細ナル協定モアルガ、金ヲ賣却スル方法ニ依レルモノモ相當多數ニ上ツテ居ル。

(質) 岡田 忠彦

「タイ」ハ千萬「バーツ」カノ「クレヂット」ヲ設定セリトカ聞クガ、其以上ニ行ツテ居ルノデアアルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

「タイ」ト我が國トノ貿易關係ハ、日本ノ輸入超過トナツテ居リ、隨ヒ之ヲ如何ニ決濟スルカノ問題ハ重要ナ點トナルガ、殊ニ英米ノ資産凍結以來、從來爲シ來レル英貨「ポンド」ニ依ル支拂ノ途ガ塞ガレタ爲ニ新シイ支拂方法ヲ先方ト話合ヒ、金ヲ先方ニ賣

却スル方法ニ依リ、現在支障ナク當面ノ重要物資ヲ確保シテ居ル、先般一千万「バーツ」借入ノ交渉ガ成立シタガ、之デハ未ダ不十分ナルタメ其後大體同様ノ方法ニ依リ更ニ若干ノ金額ヲ調達シ、先方モ我が國ニ協力シ今日迄ノ所支拂關係ハ順調ニ經過シテ居ル。

○大東亞食糧政策ノ確立

(十一月十八日 衆米穀需給調節委員會 一〇—一一頁)

(質) 服部 崎市

日滿支並ニ南方共榮圈ヲ包含スル、大東亞ノ食糧政策ノ確立ニ關シ、東亞共榮圈ノ友邦ハ概ネ農業立國デアリ、食糧生産國デアルニ拘ラズ、其ノ技術的經營其ノ他凡ユル點ニ於テ後進幼稚ノ特ニ顯著ナルモノガ認メラレル、殊ニ南方諸國ハ民主主義國ノ搾取ニ任セラレタ現状ニアツテ、帝國ガ農業立國ト併セテ工業立國トシテノ確乎タル地步ヲ固メントスルニハ、率先指導的立場ニ立チ、是等後進國ヲ援助シ、帝國ト共ニ大東亞共榮圈内食糧ヲ確保スルト共ニ、將來世界ノ食糧兵站地トシ、東亞ノ穀倉ヲ豐富ナラシムル百年ノ大計ヲ立テネバナラヌト思フ、政府ハ

斯ル見地カラ、共榮圈内食糧政策確立ノ爲ニ常設的ナル一機關ヲ設置スル考ハナイカ。

(答) 井野農相

東亞共榮圈内ニ於ケル食糧ノ確保並ニ將來世界ニ於ケル食糧寶庫トシテノ東洋ノ地位ニ關シテハ、問題ハ極メテ重要ト考ヘテ居ルガ、唯今日ノ實情ニ於テ滿洲支那ノ農業ヲ如何ニ指導スルカノ問題ハ、資材、資金、治安ノ關係カラ直ニ着手シ得ナイモノガアル、隨ヒ是等ノ問題ヲ研究スル綜合機關ノ設置ノ必要ハ、企畫院ガ左様ナ問題ヲ研究シテ居ルガ故ニ、其ノ研究ノ結果ニ依リ設置シタイト考ヘル。

○外米確保對策

(十一月十八日 衆米穀需給調節委員會 一二頁)

(質) 服部 崎市

國際情勢緊迫ノ折柄、不幸ニシテ干戈ヲ交フルノ場合ヲ想像シ、内地食糧ノ給源トシテ相當依存セネバナラヌ外地米、外國米ノ移入並ニ輸入ニ付テ、國民ヲ安心セシムルニ足ル對策ハ完備シ萬遺憾ナキモノト思フガ、之ニ對スル政府ノ所見如何。

(答) 井野農相

スト思フ、此ノ觀點カラ來年度ノ食糧増産ハ本年度以上ノ熱意ト正確ナル計畫ノ下ニ行ハレネバナラヌ、食糧増産ノ根幹ヲナスハ肥料ノ増産デアアルガ、勞力不足其他カラ減産トナツテ居リ、米即チ食糧ノ問題ハ場合ニ依リ日本ノ致命ヲ制スルモノデアアルガ故ニ、十分ナル配慮ヲ願ヒタイト思フ。

(答) 宮本企畫院次長

我が國ノ現在ノ情勢カラ、主要食糧ヲ外國ニ仰グコトハ、假令「タイ」佛印ノ如キ特殊地域ナリトスルモ非常ニ危険ナルコトハ指摘セラレタ通りデ、隨ヒ米麥ヲ重點トスル食糧農産物増産ニハ農林當局モ非常ナル努力ヲ爲シテ居ルガ、食糧農産物増産ニ當リ最も必要ナルモノハ肥料ト、農業勞力ト考ヘラレルノデ、勞力確保ニ關シテハ國家總動員審議會ニ於テ審議中デアリ、肥料ノ増産ニ關シテハ、肥料製造ノ爲メノ資材ヲ優先的ニ考慮スル方針ニ全力ヲ傾注シテ居ル。

○外米輸入ト支拂方法

(十一月二十日 貴豫算委員會 一頁)

(質) 大河内輝耕

外地米並ニ外米ノ輸入ニ付テハ、萬一ノ場合ニ對シ、能フ限り其ノ供給確保ヲ圖ツテ行キタイト考ヘテ居ルガ、事態ノ如何ニ依ツテハ、外米入手ノ困難ヲ來スコトモ考慮セネバナラヌガ故ニ、先般戰時緊急食糧對策ヲ樹立シ、外米ノ輸入杜絶セル場合モ、内地ニ於テ十分食糧ノ安全ヲ圖リ得ル方策ヲ樹立シテ居ル、併シ今日東亞共榮圈内ニ於テ、佛印「タイ」等カラノ外米ノ輸入ニハ政府ハ極力之ニ努力シ居リ、兩政策ガ並行シテ完遂セラレルナラバ明年度ハ食糧貯藏ニマデ進ミタイト萬全ヲ期シテ居ル次第デアル。

○外米依存對策

(十一月十八日 衆米穀需給調節委員會 一九一

二〇頁)

(質) 吉植 庄 亮

首相外相ノ演說ニ依ルモ風雲ハ將ニ逼迫シテ居リ、此ノ秋ニ米穀事情ガ不安ナルハ由々シキ大事デアアル、然モ政府ノ意圖スル如ク外米ガ輸入セラレテモ、本年度ト同額デ、少クトモ國內消費米ノ一割五分以上ヲ外米ニ依存スルモノナラバ、更ニ容易ナラ

外米輸入ニ要スル金ハ巨額ニ上ルト聞クガ、是ダケノ金額ニ對シ物資ヲ送ルコトモ容易ナラズ、結局現金ヲ送ラネバナラヌ、左様ナ場合如何ナル方法デ支拂ヲ爲スカ。

(答) 賀屋 藏 相

外米ノ輸入ハ佛印、「タイ」ガ主要ナル國デアアルガ、佛印ニ於テハ大體一年ノ延拂デ決濟シ、「タイ」ニハ金ヲ賣却シ、「タイ」ノ通貨ヲ獲得シテ支拂フ決濟方法ヲ執ツテ居ル。

(質) 大河内輝耕

佛印ニ對シ物資モ無キニ拘ラズ、物デ支拂フコトニナレバ收拾スベカラザル事態ニナリハセヌカ、又「タイ」ニ送ル金ハ日本ノ新産金ヲ言フノデアアルカ、如何ナル種類ノ金ヲ言フノデアアルカ。

(答) 賀屋 藏 相

日本カラ外國ニ出ス物資ハ潤澤ナラズ、決濟ニ相當苦心シテ居ルコトハ事實デアアル、決濟ハ整然ト筋道ヲ立テテ各々協定シテ居リ、今後相互ノ物資ノ交流其ノ他ニ付キ適宜協定シテ行ク所存デ居ル、金ノ現送ニ付テハ、從來ノモノト新産金ノ内ヨリ賣却スルコトト成ルノデアアル。

(質) 大河内輝耕

「クレデット」ノ設定ハ過去ニ於テ爲サレタコトガアルカ、將來設定スル見込デアアルカ、設定スルトスレバ其ノ程度ハ如何。

(答) 賀屋藏相

延拂ノ協定ヲ相當金額ヲ限定シテ致シテ居ルモノモアリ、左様ナ支拂ノ方法ニ付テ、此ノ金額ノ範圍内デ物資ノ撰定、支拂期日ノ決定等「クレデット」ノ觀念ニ當ルモノガアル、現在協定シテ居ルモノモアリ、今後モ其ノ必要ガ起ルト思フガ、是ハ先方ノ資金狀況ニ依ル故今後ノ豫定ヲ申上ゲル迄ニハ行カヌ。

○北方ノ安全ト氣比丸事件

(一月十八日 衆豫算委員會 二四—二五頁)

(質) 中島彌團次

「ソ」聯ハ日本海方面ニハ何等ノ脅威ヲ感ゼザルベキ筈デアアル、隨ヒ此ノ方面ニハ何等防禦ノ施設ヲ要シナイニ拘ラズ、多數ノ機雷ヲ敷設セルタメ、其中ノ多數ガ日本海一面ニ浮流シテ居ル狀況デ重大ナル脅威ヲ日本ニ與ヘテ居リ、邦人死者百數十名、船舶モ二三沈没シ、日本側ノ航海ハ極メテ不自由トナツテ

居ル、是ハ日本ノ生存ト權威ニ關スル重大ナル事實ト考ヘル、之ニ對シ如何ナル處置ヲ執ツテ居ルカ、對手ガ「ソ」聯ナル故唯一片ノ抗議デハ到底效果ナキモノト考ヘル、之ニ對シ適切ニシテ實質的ナル方策ニ出ネバナラヌト考ヘルガ外相ノ所見ハ如何。

(答) 東郷外相

日本ト「ソ」ウヰエト」間ノ中立條約ニ依リ、北方ノ安全ハ確保サルベキ筈ノモノトノ趣旨ハ全然同感デアアル、併シ其ノ結果日本海ニ機械水雷ガ敷設サルベキ筈ハナイトノコトニ付テハ、「ソ」ウヰエト」側ハ異ナル見解ヲ有シ、「ウラヂオ」附近ニ敷設サレタ水雷ハ、日本ニ對スルモノデハナク獨伊ニ對スルモノト爲シテ居ル、機械水雷敷設以來日本船舶ニ事故ヲ生ジ、又浮流スル機雷ニ依リ航海ノ安全モ脅サレル爲メ、日本政府ハ「ソ」ウヰエト」政府ニ對シ嚴重抗議ヲ爲シタガ、「ソ」側ハ浮流スル水雷ハ「ソ」ウヰエト」ノモノニ非ズトシ日本側ノ主張ヲ認メナカツタノデアアルガ、氣比丸事件ガ發生シ日本ガ嚴重抗議セルニ對シテモ尙從前ノ主張ヲ繰返スタメ、私ハ先方ノ主張ハ更ニ理由ナキコトヲ指摘シ、我方ノ主張デアアル損害賠償、斯ル施設ノ日本側ニ不都合ナル影響ヲ及ボス

コトナキヲ申入レ、「ソ」聯政府ニ於テ慎重考慮ノ上誠意アル回答ヲ爲スニ非ザレバ受付ケ得ナイ旨ヲ述べ、「ソ」聯大使モ其ノ趣旨ヲ諒トシテ歸ツタノデアアルガ、日本政府トシテハ今後トモ十分嚴重ナル手段ヲ講ジ、抗議ヲ以テ主張ヲ貫徹シ得ザル場合ハ、各種ノ方法ヲ講ジ我が主張ヲ貫徹スル所存デアアル。

(質) 中島彌團次

「ソ」聯ノコトナル故實質的方策ヲ講ゼネバナラヌト考ヘル、種々ノ方策モアラウガ、例ヘバ「ウラヂオ」ノ平時封鎖、「ソ」聯船舶ノ抑留トカラ考慮セネバナラヌト考ヘルガ、如何ニ考ヘルカ。

(答) 東郷外相

其ノ際ノ方法ニ付テハ、質問ノ如ク各種ノ方法ガ考ヘラレルガ、只今如何ナル方法ヲ執ルカニ付テハ申上ゲ兼ネル、事態ニ應ジ適當ナル措置ヲ執ル積リデアアル。

○氣比丸遭難事件

(十一月二十日 衆兵役法改正委員會 二四—二五頁)

(質) 松尾孝之

氣比丸遭難事件ノ如キ不祥事件ガ今後頻發スレバ我が海運界ニ非常ナル影響ヲ與ヘル、航海ノ安全ヲ確保センガ爲ニハ、機雷ノ浮流シ來ル根元ヲ捜査シテ是ヲ除ク必要ガアル、又斯ル業務ニ携ル者ノ安全ハ國家ガ保障セネバナラヌ、遭難後相當機雷ガ浮流シテ居ルト聞クガ、是ニ對シ海軍ハ調査シテ居ルカ。

(答) 寺島遞相

昨年九月ヨリ斯ル事故ガ若干アリ、爾來海軍當局ハ凡ユル方策ニ依リ多數ノ機雷ヲ收容シテ居リ、現ニ作業ハ繼續中ト思フ、氣比丸事件ニ關シテモ多數機雷ノ浮流セル危険海面ハ夜間ノ通航ヲ避ケ、見張ヲ嚴重ニシ、夜間ハ船首ニ探照燈ヲ點ジ警戒スルノ方法ヲ講ジタガ、不幸ニモ珍事ヲ生ジタモノデアアル、尙多數ノ機雷ガ浮流シ全部收拾サレテ居ナイ爲、海軍當局ハ飛行機ニ依リ偵知、各種艦艇ニ依リ收容等ヲ爲シ、遞信省トシテモ適宜ノ處置ヲ講ジ居ル、斯ル災害ヲ受ケタ者ニハ國家ガ補償スルコトニシタ

(答) 岡海軍少將

海軍トシテハ能フ限りノ手段ヲ盡シ、海面ノ捜査清掃ニ努メテ居ルガ、何分「ソ」ウヰエト・ロシヤ」ノ敷設

セル機雷ナル故、尙多數殘存スルモノカ否カ判明シ
ナイ、外交交渉ニ依リ其ノ根本ノ除去ニ努メテ居ル
次第デアル、最近發見セル機雷モ若干アルガ數字ハ
覺ヘテ居ナイ。

○龍田丸郵便物差押問題

(十一月二十日 衆兵役法改正委員會 二六一二頁)

(質) 米 窪 滿 亮

日本在住米人ヲ送還シ、在米日本人ヲ歸國セシメル
爲ニ派遣サレタ龍田丸ガ、將ニ出帆セントスル時、
事前ノ諒解アリシニ拘ラズ、何等ノ理由ナシニ米國
官憲ハ多數ノ郵便物ヲ差押ヘタト新聞ニ出テ居ル
ガ、其後ノ消息ハ不明デアル、是ガ不法デアルナラ
バ日本當局ハ抗議シテ然ルベキダト思フガ、之ニ對
スル善後ノ交渉ヲ爲シテ居ルカ、又此ハ萬國郵便物
ニ關スル國際協定或ハ國際信義カラ怪シカラヌモノ
トスレバ、日本ハ報復手段トシテ米國行ノ郵便物ヲ
理由ナシニ差押ヘテ宜イト思フガ如何。

(答) 佐藤外務書記官

龍田丸ノ件ニ關シ吾々ノ了解シテ居ル所デハ、郵便
物ノ檢閲ニ關スル措置トシテ執ラレタモノデハナ

メル意圖ノ下ニ抗議シタノデアルガ、其ノ結果、龍
田丸ニ積込ミ得ナカッタ郵便物ハ先方ノ船ガ送達シ
來リ、四日ニ出帆セル大洋丸及ビ氷川丸ノ郵便物ハ
斯ル故障ナシニ積込ミ得タ次第デアル。

○「パナマ」邦人壓迫事件

(十一月十八日 衆豫算委員會 三八一—三九頁)

(質) 由 谷 義 治

「パナマ」ガ在留邦人ニ對シ暴虐、凌辱行爲ヲ働キ、
日本帝國ノ國威ヲ蹂躪スル如キ行動ニ出テ居ルコト
ハ、先般ノ外務省發表ニ依ルモ明カデアルガ、爾來
相當ノ時間ヲ經過セルニ拘ラズ、外務省ハ何等ノ發
表ヲモ爲シテ居ナイ、事態ハ其後如何ニ進展シテ居
ルカ、日本ト「パナマ」ノ修好條約ノ上ニ於テ相當ノ
手段ヲ執リツツアルカ、外務省ノ發表ニハ嚴重交渉
中トアルガ現在如何ナル過程ニアルカ、斯様ナ問題
ヲ荏苒延引スルハ、國家ノ非常ナ失態ト考ヘラレ
ル、殊ニ此ノ問題ガ有耶無耶ニ經過スレバ、其ノ鑿
ニ傲フ他ノ敵性國家ガ出ル惧モアリ、其後ノ經過並
ニ對策ニ付、外相カラ明確ナル所信ト決意ヲ示サレ
タイ。

ク、爲替管理法ニ關聯スル問題トシテ取扱ハレタモ
ノト承知スル、勿論此ノ事件ニ對シテハ外務當局ト
シテ現地ニ於テ嚴重抗議ヲ發シテ居ルガ、之ニ對シ
「アメリカ」側カラハ未ダ正式ノ回答ハ來テ居ナイ。

(質) 米 窪 滿 亮

外務省ガ如何ニ解釋スルトモ勝手デアルガ、併シ是
ハ實質的ニ明ニ郵便物ヲ差押ヘテ居ルノデアル、答
辯ノ如キ解釋デ何等ノ抗議モセズ、又遞信外務兩當
局トモ何等ノ對抗處置ヲ執ラヌコトハ甚ダ怪シカラ
ヌト思フ、更ニ責任アル政府委員或ハ外相ノ辯明ヲ
願ヒタイ。

(答) 山本外務亞米利加局長

當時政府ハ早速嚴重ナル抗議ヲ致シテ居ル、即チ龍
田丸配船ノ理由ハ滯留セル旅客ノ送還ト共ニ郵便物
ノ遞送ニ在リ、隨ヒ「アメリカ」側ガ出帆直前突如ト
シテ郵便物檢査ノ理由ノ下ニ差押ヘタコトハ、極メ
テ非友誼的デアリ、配船ノ諒解ニモ反スル點ニ付嚴
重抗議ヲ爲シタモノデアルガ、又此ノ外ニ當時氷川
丸、大洋丸ガ出帆スルコトニナツテ居リ之ニ波及ス
ルヲ惧レタコト、及ビ龍田丸ガ已ムヲ得ズ出帆シ殘
留セル郵便物ヲ能フ限リ早イ機會ニ日本ニ到着セシ

(答) 東 郷 外 相

「パナマ」ニ於ケル日本人ガ不當ノ壓迫ヲ受ケタ事實
ハ、外務省發表ニ詳シク出サレテ居リ、其後「パナ
マ」駐在日本公使カラ、及ビ當地ニ於テハ「パナマ」
代理公使ニ嚴重交渉シ、現在尙交渉ハ續行中デア
ル、然シ其ノ交渉ハ遺憾乍ラ巧ク行ツテハ居ナイ、
其ノ理由ハ「パナマ」ハ小國デアツテ諸般ノ關係上其
ノ隣國ナル大國カラ壓迫ヲ受ケテ居リ、隨ヒ問題ハ
「パナマ」ト直接交渉シ、先方ノ不當ナル行動ヲ取消
サシムルコトガ主眼トナリ、徹底的方法トシテハ先
方ノ手段ニ對抗シ、日本ニ在ル「パナマ」人ノ處置ヲ
考慮シ、進ンデ先方ノ代表者ニ日本カラ要求スル所
ガナクテハナラヌカモ知レヌガ、之ヲ「パナマ」一國
ヲ對象トスルハ必ズシモ十分ニ目的ヲ達シ得ルカ否
カニ聊カ疑念モアリ、其ノ點其ノ周圍ニ在ル國ニ、
日本ガ毅然タル態度ヲ執ツテ向フコトガ根本問題デ
アリ、良好ナル解法ニ導ク所以ト考ヘテ居ル。

○二重國籍者ノ兵役關係

(十一月十九日 衆兵役法改正委員會 一四頁)

(質) 川 崎 己 之 太 郎

米國ハ日本人第二世ニ對シニ重國籍ノ一方ヲ脱却セヨト催促シテ居ルト聞クガ、陸軍省ハ日本ニ歸還シ在ル第二世ニ對シテハ兵役ニ徵ラズ、約一年後ニハ歸米セシメ、成ルベク先方國ニ落着カセル方針ヲ執ツテ居ルガ、米國ガ第二世ヲ軍籍ニ入レントシ、若クハ日本ニ送還セントシテ居ルニ對スル對策ハ如何ニスルカ。

(答) 今村陸軍中佐

「アメリカ」大陸ニ居ル所謂第二世ノ國籍ニ關シテハ、日本ノ國籍法ニ特ニ例外ガアリ、意思表示ナキトキハ日本國籍トナラズ、意思表示スレバ二重國籍トナル、二重國籍トナレバ、日本兵役ハ二重國籍ト關係ナク、日本國籍ナルコトニ依リ他ノ者ト何等變リナク取扱ツテ居ル、尤モ二重國籍者モ日本帝國外ノ地ニ在レバ、所謂在外徵集延期ノ取扱ヲ受ケ、徵集ハ其ノ期間免除サレテ居ルガ、學生等デ日本ニ留學中徵兵適齡ノ過ギタ場合ハ兵役關係ヲ濟マサネバ歸國出來ヌコトニナツテ居ル、其ノ點ニ重國籍ナルガ故ニ特別ノ取計ハナイ、要ハ帝國ノ國籍ヲ有スルヤ否ヤニ依リ取扱ツテ居ルノデアアル。

(質) 川崎 己之太郎

スル所見如何。

(答) 北島拓務次官

滿洲開拓民ニ對シ機械化農業ヲ獎勵スル點ニ關シテハ同感デアアル、一兩年北海道農法ヲ試驗セル結果、其ノ能率ハ在來ノ農法ニ比ベ效果的デ日本人ニ適スルコトヲ確メタノデ、能フ限リ北海道農法ニ依リ開拓民ヲ指導シ行ク考ノ下ニ着々準備ヲ進メテ居ル、之ガ爲ニ先ヅ指導農家ヲ北海道カラ移植スルト共ニ開拓民ヲ北海道ニ遣リ「ブラウ」農法ノ訓練ヲ致サセ之ヲ歸滿セシムル計畫モ立テテ居ル、多數開拓民ニ對シ十分農具ヲ配給スルコトモ急ニハ實行困難ナルタメ、大體ハ質問ノ趣旨ニ添ヒ計畫ヲ進メテ居ル。

○資産凍結令對策

(十一月十八日 衆豫算委員會 二二—二三頁)

(質) 中島彌團次

米國ノ資金凍結令ニ依リ日本産業ハ深刻ナル影響ヲ受ケテ居ルガ、其ノ被害者ニ對シテハ如何ナル方法ヲ執ツタカ、資金凍結ノ結果、資産、資金、爲替、輸出手形、其他ノ投資ニ付キ、昭和十六年度豫算外國庫負擔トナル件ニ於ケル、爲替補償制度ニ於テ五

意思表示ヲシテ居ナイ者ノ日米間ヲ往復スルニ對シ、世界大戰ノ時猶豫期間ガ長ク續イタ事實ガアルガ、斯ル處置ヲ取消スカ否カノ實際上ノ取扱ヲ承リタイ。

(答) 今村陸軍中佐

規定ハ九十日ノ規定デアアル、此ノ問題ト同様ノ問題ハ支那事變當初ニモ起リ、上海ニ居住スル者ガ引揚ダ其後再度渡航セル問題モアルガ、「ハワイ」「アメリカ」等カラ引揚ゲル者ガ特ニ多ク、問題ガ生ズレバ九十日ノ規定ニ拘ラズ、支那事變當時ニ執ラレタ處置ガ執ララルベキモノト考ヘテ居ル。

○滿洲移民ノ農業經營法

(十一月十八日 衆米穀需給調節委員會 四六—四七頁)

(質) 深澤 吉平

勤勞ノ民、耕種栽培ノ術ニ長ケタ日本農業家ハ、滿洲ノ廣漠タル土地ニ於テハ畜力機械力ニ依ラネバ農業經營ハ全ク困難ト思フ、滿洲移民ニ對シテハ少クモ「ブラウ」或ハ「ディスクハロー」等ノ農具ヲ持タセネバ、滿洲ノ國土開發ハ困難デアルト思フガ之ニ對

億、輸出手形補償制度ニ於テ四億、合計九億ノ金ハ全部支出濟トナツタカ、是等ノ人ノ苦心慘憺タルハ目ニ餘ル狀況ニ在ル、如何ナル對策ヲ爲シツツアルカ説明サレタイ。

(答) 賀屋 藏相

先般ノ議會ニ於テ協賛ヲ經タ五億圓ハ、斯ル事態ニ處スル豫想ノ下ニ計上サレタモノデアリ、既ニ實行サレテ居ル、是デ不足ヲ來スコトハナイト考ヘルガ、不足ヲ來ス場合ハ其ノ増額方ニ付テ處置ヲ執リタイト考ヘテ居ル。

○資金凍結ノ影響

(十一月二十日 貴豫算委員會 一頁)

(質) 大河内輝耕

資金凍結ニ依リ如何ナル程度日本ハ影響ヲ受ケタカ、即チ資金ハ何國ニ於テ幾何程凍結サレタカ、又何國ノ資金ヲ幾何程凍結シタカ。

(答) 賀屋 藏相

日本資産ノ海外ニ於テ凍結セラレタモノハ約九億デアリ、外國ノ資産デ日本ニ於テ凍結サレタモノ四億、日本ノ凍結ヲ被ツタ方ガ多イ譯デアアル、此ノ結

果所謂第三國貿易ハ殆ド杜絶シ、各種ノ海外拂ニモ差支ヲ生ジテ居ル、併シ例ヘバ日本ノ外債ヲ凍結セル國々ニ對シテハ、其ノ凍結ヲ解除スル範圍ニ於テノミ利子ノ支拂ヲ爲スト云フ如キ關係ニナツテ居ル。

(質) 大河内輝耕

斯ル資金ヲ外國拂ニ日本ガ使用シテ差支ヘナイカ、不可能デアルカ。

(答) 賀屋藏相

國ニ依リ非常ニ嚴重ナル所モアリ、「イギリス」北米合衆國、又屬領、各々其ノ方針ニ緩嚴ノ差ガアリ、外國ニ於ケル支拂ハ相當ニヨリ不便ヲ被ツテ居ル。

○「ドイツ」第五列ノ活動

(十一月十九日 貴豫算委員會 二頁)

(質) 松村義一

英米「ソ」聯並ニ重慶政權等ニ屬スル間諜ハ、現在是等諸國ガ敵性的存在ナル故ニ、之ガ取締ニハ官憲モ留意シテ居リ國民モ警戒シテ居ルガ、我が國ト親善關係ニ在ル同盟國ノ間諜、殊ニ「ドイツ」第五列ノ活

動ニ對スル取締ニ關シテハ、「ドイツ」ガ今回ノ大戰ニ大ナル成果ヲ收メタル原因ノ一ツハ、此ノ第五列ノ貢獻ニ依ルノ顯著ナル事實ニ鑑ミ、東亞ニ於ケル同盟國タル我が帝國ニ於テモ其ノ活動ハ旺盛ト考ヘナケレバナラヌ、而シテ我が國ニ於ケル第五列活動ノ目的ノ主要ナルモノハ、結局内政ニ於テハ我が國ニ「ドイツ」ノ政治形態即チ全體主義體制ヲ執ラセントシ、外政ニ於テハ緊密ニ我が國ヲ大戰ニ參加セシムルコトデアルト思フ、果シテ然リトスレバ、帝國ハ外國ノ指示ニ依リ政治組織ヲ變革シ、外國ノ使嗾ニ依ツテ國家ヲ犠牲ニ供シテ戰爭ニ參加スル重大ナル結果ヲ招來スルヲ目的トスルモノナル故、皇國ノ歴史ニ鑑ミ斷ジテ此ノ活動ヲ防止セネバナラヌ、而シテ五列ノ行爲ハ機密ノ探知、謀略並ニ宣傳等各般ニ互ツテ居リ、活動ノ資金ハ豊富デアルト云ハレ、活動ノ對象ハ主トシテ國政ニ關係アル人デアアル、即チ

(答) 東條首相

質問ハ現下ノ機微ナル國政ノ情勢下ニ於テ必要ト考ヘルノデ祕密會ヲ要求スル。

〔祕密會〕

○外國大使館出版物ノ取締

(十一月二十日 衆兵役法改正委員會 二七—二八頁)

(質) 米窪滿亮

「ドイツ」大使館カラ「ウイークリー」其他ノ出版物ガ配達サレテ居タノガ、約一ヶ月前カラ停止セラレタ、「ドイツ」大使館ハ其ノ理由トシテ、其ノ筋ノ注意ニ依リ發送ヲ停止シタト言ツテ居ルガ、郵便法トノ關係テ遞信省ガ申込シタモノデアアルカ、其ノ他ノ理由ニ依ルモノデアアルカ。

(答) 遠藤遞信郵務局長

本問題ハ其ノ動機ニ付テ遞信省ハ直接關與シテ居ナイ。

(質) 米窪滿亮

何處デ關係シテ居ルカ。

(答) 遠藤遞信郵務局長

情報局ト思フ。

(答) 山本外務亞米利加局長

外國ノ種々ノ宣傳其他ノ取締ニ付テハ、刻下ノ時局ニ鑑ミ、取締令或ハ之ニ類スル種々ノ方法ヲ講ジ、

○在本邦外國外交及領事機關等ヲ通告 ル國內機密ノ漏泄

(十一月二十日 衆兵役法改正委員會 二七—二八頁)

(質) 米窪滿亮

最近國內關係ノ記事ガ外國新聞ニ掲載サレ、盟邦ノ或ル國ノ新聞紙ニモ、前閣僚ノ襲撃事件ノ虛傳ガ出テ居ル、此等ハ上海邊ヲ仲介シテ通信サレルモノト思フガ、發信地ハ日本カラ出タモノト見テ宜イト思フ、斯ノ如ク國民モ全然知ラヌコトガ上海邊ノ新聞ニ先ニ掲載サレルコトハ、法令ニ何等カノ缺陷ガアルノデハナイカト考ヘラレ、又茲ニ於テ疑念ヲ生ズルノハ米國ノ「ユー・イー」及「ユー・ビー」、英國ノ「ロイタル」、「ドイツ」ノ「オーシャン」トランシット」等ノ通信社ハ、治外法權ノ範圍内ニアルノカ、治外法權地域ニ入ツテ打電スルノカ、斯ル點ノ調査ガ爲サレテ居ルカ否カ伺ヒタイ、日本ニ來ル外國ノ通信ハ日本大使館ヲ利用スルコトハ殆ドナイヤウデアアル

ガ、先方が大公使館ヲ利用シ、日本ハ利用シナイトナレバ非常ナ損害ヲ受ケルト思フガ如何。

(答) 中村遞信電務局長

不法施設ガ利用サレテ居ナイトハ保證出來ナイ故、此ノ點ニ付テハ凡ユル手段ヲ講ジ、關係諸官廳トモ連絡シ、今後共能フ限リノ處置ヲ講ジテ行キタイト考ヘテ居ル。

(質) 米 窪 滿 亮

通信ヲ扱フ通信記者ハ外交官デハナイ、外交官デナイ者ガ大公使館ニ入り電信ヲ打ツコトニ對シ抗議スルコトハ出來ヌカ、左様ナ場合抗議スル意思ハアルカ。

(答) 山本外務亞米利加局長

外國ノ大公使館ニアル種々ノ通信機關ヲ一般通信員ガ利用スルコトハ差許サレヌ所デアアル、從來モ此ノ點ニ付テハ注意シテ居タガ、左様ナ事實ノアル時ハ嚴重ニ抗議ヲスル、今後ハ左様ナコトハ絶對ニセシメヌ積リデ凡ユル萬全ノ方法ヲ期シテ居ル。

(質) 米 窪 滿 亮

日本國內事情ガ日本國民ノ知ラヌ間ニ上海其他ノ國ノ新聞ニ現レルコトハ、答辯ノ如キ筋ヲ通シ海外ニ

ル處置ヲ講ジ、即チ電報ノ暗號使用制限、國內電報ニ於テハ電信官署ノ承認セルモノ以外ハ原則トシテ暗號使用禁止、外國電報ニ於テハ、一定ノ暗號ニ該當スル種類以外ノ使用禁止、暗號使用場所ノ限定、電信電話ニ使用スル國語ノ制限ヲ爲シテ居ル、更ニ諜報上最モ恐ルベキ不法ニ施設サレタ祕密無線裝置ニ關シテハ、此ガ發見ハ相當困難ナルガ故ニ、之ニ對スル取締方法トシテ方向探知器ノ設備、取締要員ノ増加等ニ豫算ヲ計上シ、取締ノ強化ニ當ツテ居ルガ、更ニ合法的ナ個人ノ無線設備ヲモ再檢討シ、其ノ設備人物ノ優秀ナルモノヲ選抜シ、無線報國義勇隊ヲ結成シ、積極的ニ一朝事アル場合國家ノ所要ニ應ジ活動スル體制ヲ整ヘテ居ル。

(質) 今成留之助

許可ヲ受ケネバ裝置出來ヌモノデアアルカ、許可ナシニ裝置セルモノニ對スル處罰規定ハアルカ否カ、僅少ノ豫算デ取締ヲナスモ目的ハ達セラレヌト思フ、國民的自覺ヲ促ス爲之ヲ宣傳シ、國民ノ力ヲ借り國防ニ當ルガ宜イト思フガ如何。

(答) 中村遞信電務局長

無線電信法第十六條ノ取締規定ガアル、問題ハ不法

出テ居ルモノト思フガ、是等ニ對シ抗議スベキ物的材料ハ持ツテ居ラヌカ、持ツテ居テモ抗議シテ居ナイノデアアルカ。

(答) 山本外務亞米利加局長

相當持ツテ居ル、或ル場合ハ世間ニ傳ヘラレテ居ルノト事實ガ違ツテ居ルコトモアルガ、少クトモ或種ノ材料ハ持ツテ居リ、隨ヒ其ノ度毎ニ抗議ハシテ居ル。

○電話及無電ノ取締ト防諜

(十一月二十日 衆兵役法改正委員會 二〇—二頁)

(質) 今成留之助

電話並ニ無線電信ニ依リ、日本ノ祕密ヲ外國ニ通信若クハ國內ニ於テ通話スルモノガアルト思フガ、此ノ取締ニハ如何ナル處置ヲ執ルカ、取締ノ方法ガ現在アルカ、又取締ル意思アリヤ否ヤ。

(答) 中村遞信電務局長

電信電話ノ取締ニ關シテハ、昭和十一年電信官ノ制度ヲ設ケ、對外電氣通信ノ取締ヲ實施シ來ツテ居ルガ、時局ノ緊迫化ニ伴ヒ、本年七月カラ一層嚴重ナ

施設ガ事實上發生セヌヤウ豫防的處置ヲ講ジテ行クコトガ必要ト思ヒ、其ノ設備ヲナシ是ノ發見ニ努メテ居ル。

(質) 今成留之助

不法設備ヲ取締ツタ實例ハアルカ、又治外法權ノ地域ニ無線ヲ裝置セラレレバ國防上由々シキ問題ト思フガ、之ニ對シ何等カノ處置ヲ講ジテ居ルカ。

(答) 中村遞信電務局長

不法ナル施設ニ對スル取締ノ實例ハ相當數ニ上ツテ居ル〔速記中止〕。

○郵便物ノ檢閲

(十一月二十日 衆兵役法改正委員會 二五—二六頁)

(質) 米 窪 滿 亮

郵便物ノ「センサト」ハ戰爭ト同時ニ、各國共大規模ニ且ツ精細ナル科學ヲ應用シテ努力シテ居ルモノデアアル、我が國ハ聖戰既ニ四年半、此ノ種ノ必要ハ疾ク痛感サレ居ルベキニ拘ラズ、又施行スベキニ拘ラズ十月初メテ勅令ニ依リ出サナケレバナラヌ經緯ヲ伺ヒタイ、當時ハ必要ナカツタモノデアアルカ。

(答) 寺島 遞相

從來現行ノ法規ノ許ス範圍内ニ於テ處理シ來ツタガ、獨「ソ」戰ノ勃發ニ依リ急激ニ此ノ必要ヲ痛感シ、緊急ノ處置トシテ勅令ヲ奏請シタノデアアル。

(質) 米 窪 滿 亮

郵便取締令ノ第二條ニハ二ツノ除外例ガアル、其ノ第二項ハ、日本カラ外國ヘ、外國カラ日本ヘノ書翰ハ、第二條ノ主文ニ拘ラズ之ヲ處置スルト解釋シテ宜イカ。

(答) 遠藤 遞信郵務局長

牒報上最モ重要ナル部分ハ、外國行及ビ外國ヨリ來ル郵便物ナル故、是ハ全部檢閲スルコトニナツテ居ル、此ノ第二項ハ外國郵便物デハナク内國郵便物デアリ、内國郵便物ハ結局其ガ牒報トナリ外國ニ行クモノヲ嚴重ニ取締レバ、取締ノ目的ノ大部分ヲ達シ得ルノデ、内國郵便物ニハ此ノ除外例ヲ設ケタノデアアル。

○外國郵便物取締

(十一月十七日 貴郵便取締委員會 七一八頁)

(質) 村上 恭一

ヲ禁止スル明文モナク、又名宛國ニ於テ郵便物ノ内容ニ依リ其ノ輸入又ハ流布ヲ禁止シ得ル規定ガ存スル故、本勅令ニ依リ郵便檢閲ヲ行フモ萬國郵便條約ニ抵觸シナイト解釋シテ居ル。

○封緘郵便物ノ檢閲ト防諜

(十一月二十日 衆兵役法改正委員會 一九一—二〇頁)

(質)

今成留之助

臨時郵便取締令ノ第二條ハ、封緘セル書狀並ニ封緘葉書ハ檢閲セヌコトニナツテ居ルガ、祕密漏泄ノ文書ノ恐ルベキハ、寧ロ封緘セルモノニ多イト思フガ、防諜、國防上ノ利益保護ノ上カラハ、封緘書狀若クハ封緘葉書ヲ檢閲スルコトコソ眞ニ防諜ノ目的ヲ達シ得ルト思フ、防諜ノ必要上封緘書狀ヲモ檢閲スル意思アリヤ否ヤ。

(答) 寺島 遞相

國防上ノ利益ヲ害スル疑アルモノハ、必要ナル場合内地ノ封緘物モ檢閲スルコトガ出來ルシ、事態ノ進展ニ依ツテハ封緘ノ書狀ノ發送ヲ制限停止スルコトモ行ヒ得ル狀況ナル故、情勢ニ應ジ彈力性アル處置

外國郵便物ニ關シテハ條約ガアルガ、其ノ條約上ノ關係ハ如何ニナルカ、郵便取締令ニ依リ取締ヲ爲スコトハ條約上差支ヘナイカ否カ。

(答) 佐藤 外務書記官

條約上カラハ二點ニ分チ觀察セラレル、第一ハ我が國ト諸外國間ニ締結セラレテ居ル通商條約トノ關係、第二ハ萬國郵便條約トノ關係デアアル、第一ノ條約ニ違反セヌカトノ點ニ關シテハ次ノ如ク解釋シテ居ル、即チ我が國ト條約國トノ間ノ通商航海條約ニハ、當該締約國人ハ旅行、居住、營業、動産、不動産處分ノ條件等ニ關シ、内國民ト同様ナル待遇ヲ享有スベキ旨ノ規定ガ存シ、郵便物ニ對スル取締ハ是等ノ事項ニ對シ重大ナル影響ヲ及ボスガ、此ノ勅令ハ當ニ外國人ニ對シテ適用アルノミナラズ、内國人ニ對シテモ齊シク適用セラレル故、通商航海條約ノ保證シテ居ル内國民待遇ノ許與トハ抵觸シナイ、從ヒ本令ノ公布ハ通商航海條約ニハ違反シナイト解釋スル、第二ノ萬國郵便條約トノ關係ニ於テハ、同條約ノ第六條ハ聯合條約ノ條款ハ該條規ニ明瞭ニ規定シナイ事項ニ關シテハ、各國ノ法制ニ影響ヲ及ボスコトナキ旨ヲ明定シテ居ルガ、同條約ニハ郵便檢閲

ヲ執ツテ行キタイ。

(質) 今成留之助

此ノ規定ニ依リ左様ナ處置ガ出來ルノデアアルカ、或ハ他ノ法令ヲ發布スル意思ナノデアアルカ。

(答) 遠藤 遞信郵務局長

防諜ノ最モ直接ニ必要ナル部分ハ外國郵便物デ、日本國內事項デ外國ニ祕匿スベキ事項ガ、通信ニ依リ外國ニ漏泄サレルコトガ問題ノ中心トナルノデアアル、之ガ爲ニ外國郵便物ハ總テ之ヲ檢閲スル建前トシ、防諜上必要ナル部分ハ之ヲ嚴重ニ施行スルコトニ依リ、其ノ大部分ノ目的ヲ達シ得ルノデアアル、唯外國諜報網ハ日本國內ニモアルガ故ニ、結局其ガ諜報トナリ外國ニ行ク通信ニ對シ、國內ニ於テ既ニ之ヲ發見シ取締ルコトガ必要ナノデ、内國郵便物ノ取締檢閲ガ必要ナルガ、全部檢閲スレバ無論徹底スルガ最モ重要ナルハ外國ニ行ク時デアリ、内國郵便物ノ檢閲ハ其ヲ完全ナラシメル程度ニ於テ必要ナノデアリ、結局外國ノ諜報トナル疑アルモノヲ特ニ目當ヲ付ケテ取締レバ、大體完全ニ行クノデハナイカト考ヘテ居ル。

昭和十七年一月

第七十八議會
ニ於ケル

外交關係質疑應答要旨

外務省調查部

目次

東條總理大臣演說	五五
東郷外務大臣演說	五八
木村陸軍次官戰況報告	六一
嶋田海軍大臣戰況報告	六五
大東亞戰爭目的貫徹ニ關スル決議	六九
敵產管理法	七一
敵產管理法案提案理由	七二
敵產管理法ト中立國人	七七
敵產管理法ト沒收處置	七七
敵產ノ範圍	七八
敵產總額ト内容	七九
敵產管理法第二條第三條	八〇
日本外債關係	八一
敵產管理法第三條	八二
敵產管理法ト管理料	八二
敵產管理法ト國際法トノ關係	八三
造言飛語ト國民指導方針	八四
宣傳ト出版統制方針	八五

第七十八回帝國議會東條總理大臣演說

本日開院式ニ當リマシテ特ニ優渥ナル勅語ヲ拜シマシタルコトハ洵ニ恐懼感激ノ至リデゴザイマス、私ハ謹ンデ聖旨ヲ奉體シ、一意専心報效ノ誠ヲ竭シ、此ノ前古未曾有ノ重大時局ヲ克服シ、以テ宸襟ヲ安ジ奉リタイト存ズルモノデアリマス。

過般第七十七回帝國議會ニ於キマシテ、私ハ國策遂行ニ關スル政府ノ所信ヲ率直ニ披瀝シ各位ノ御協力ヲ願ツタ次第デアリマス、其ノ後モ政府ハ引續キ米國ニ對シ、既ニ當時申述ベマシタル通り、第三國ガ帝國ノ企圖スル支那事變ノ完遂ヲ妨害セズ、帝國ヲ圍繞スル諸國家ガ帝國ニ對スル直接軍事的脅威ヲ行ハザルコトハ勿論、經濟封鎖ノ如キ敵性行為ヲ解除シ、經濟的正當關係ヲ恢復スルコト、及ビ歐洲戰ガ擴大シテ禍亂ノ東亞ニ波及スルコトヲ極力防止スルコト、此ノ目的ヲ外交交渉ニ依ツテ貫徹センガ爲メ、忍ビ難キヲ忍ビ、耐ヘ難キヲ耐ヘ、凡ユル努力ヲ重ネタノデアリマス、然ルニ米國ハ帝國ノ此ノ隱忍ト自重トヲ以テ與シ易シトナシ、帝國ノ公正ナル主張ニ耳ヲ藉サザルノミナラズ、從來ノ彼自身ノ提案スラモ之ヲ裏切り、密カニ英國ト謀議シテ新タニ暴慢ナル提案ヲナシ來ツタノデア

リマス、其ノ詳細ハ既ニ政府ヨリ發表致シタ所デアリマス、而シテ帝國トシテ最モ忍ビ得ザル點ハ

第一ハ、支那及ビ佛印ヨリ陸、海、空及ビ警察ヲ含ム一切ノ帝國軍隊ヲ撤收スルコト。

第二ハ、重慶政府ヲ除ク如何ナル政權ヲモ軍事的、政治的、經濟的ニ支援セザルコト。

第三ハ、第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ太平洋全地域ノ平和確保ニ矛盾スルガ如ク解釋セラレザルコトニ同意スルコト。

此ノ三點ニアルノデアリマス、是ハ言葉ヲ換ヘテ言フナラバ、帝國ノ支那及ビ佛印ヨリノ全面的撤兵、南京政府ノ否認、三國條約ノ破棄、之ヲ要求スルモノデアリマシテ、米國ノ意思ハ、經濟斷交ト武力脅威トヲ以テ我ニ挑戰シ、之ニ依ツテ帝國ヲ屈從セシメントスルニアルコトガ明ガトナツタノデアリマス、若シ我ニシテ米國ノ要求ニ屈從致シマスルトスルナラバ、大東亞ノ安定ノ爲メ傾注シテ參リマシタ所ノ帝國積年ノ努力ハ、悉ク水泡ニ歸スルバカリデハナクシテ、帝國ノ存立スラモ危殆ニ瀕シ、且又世界平和ノ克服ニ協力センコトヲ約シタル盟邦トノ誓ヲ拋棄シ、帝國ノ信義ノ失墜ヲモ強要サレルモノデアリマス、斯クノ如キハ帝國

トシテ斷ジテ忍ブベカラザルモノデアリマス、事既ニ茲ニ至リマシテハ、如何ニ平和愛好ノ念ニ燃ユル帝國ト致シマシテモ、其ノ權威ト自存トヲ擁護スル爲メ、斷乎トシテ起タザルヲ得ナカツタノデアリマス即チ本月八日長クモ米國及ビ英國ニ對スル宣戰ノ大詔ガ換發セラレタ次第デアリマシテ、聖慮ノ程ヲ拜察致シマシテ洵ニ恐懼感激ニ堪ヘマセヌ。

一タビ開戰ト定マリマスルヤ、大命一下我ガ陸海軍ノ將兵ハ、未ダ旬日ヲ出デズシテ忽チ敵ノ要衝ヲ擊破シ、「ハワイ」ヲ基地トスル米國艦隊ノ大半ヲ覆滅シ、英極東艦隊ノ主力ヲ擊滅スルナド、敵ガ誇張シ宣傳シ且脅喝ニ努メテ居リマシタ對日包圍陣モ隨處ニ擊破シツツアルノデアリマス、斯クシテ彼等ハ崩壊ノ一途ヲ辿リツツアルノデアリマス、此ノ偉大ナル戰果ハ世界ノ驚異ノ的トナリ、國威ヲ中外ニ輝カスニ至ツタノデアリマス、是レ偏ニ御稜威ノ然ラシムル所デアリマシテ洵ニ感激ニ堪ヘマセヌ。

默々トシテ隱忍自重、積年練武ノ勞ヲ重ネテ今日アルノ備ヘテ整ヘ、一タビ戰ヒトナリマスレバ君國ニ殉ゼンガ爲メ生還ヲ期セザル我ガ陸海軍勇士ノ偉大ナル力ノ發揮ニ對シマシテハ、唯々滿腔ノ感謝ト崇敬トヲテ、緒戰ニ於ケル赫々タル戰果ヲ擴充致シマスルト共ニ、新タニ參加スル南方諸地域ヲ加ヘテ各般ニ互ル一大建設ヲ行ヒ、以テ此ノ長期戰ニ堪ヘ得ル態勢ヲ速カニ整備セネバナライノデアリマス、戰ヒハ寧ロ今後ニアリマス、吾等國民ハ個々ノ戰勝ニ酔フコトナク、又個々ノ現象ヲ憂フルコトナク、愈々正氣ヲ擴充シテ互ニ相倚リ又相扶ケ、内ハ荒怠ヲ戒メ、外ハ邪惡思想ノ滲透ヲ防ギ、必勝ノ確信ノ下ニ飽クマデ獻身殉國ヲ念トシ、誓ツテ征戰ノ目的ヲ貫徹セネバナラヌト信ズルノデアリマス。

此ノ際盟邦滿華兩國ガ、帝國トノ一心同體ノ關係愈々厚ク、戰端一タビ開カレマスルヤ直チニ帝國ニ對シテ凡ユル協力ヲ與ヘラレツツアルコトニ付キマシテハ、私ハ茲ニ滿腔ノ感謝ノ意ヲ表スルモノデアリマス、尙ホ帝國ハ曩ニ佛印ト共同防衛ノ約ヲ締結シ、今又「タイ」國ト攻守同盟締結ニ付キ意見一致シ、是等兩國ガ愈々帝國トノ提携ヲ固ク致シマシテ、相共ニ新秩序建設ノ爲ニ邁進シツツアリマスルコトハ頗ル欣快トスル所デアリマス。

抑々帝國ガ今回南方諸地域ニ對シ新タニ行動ヲ起スノ已ムヲ得ザルニ至リマシタノハ、米英ノ暴政ヲ排除

禁ジ得ヌノデアリマス、又是ト共ニ統後官民ノ責任ノ愈々重大ナルヲ痛感スル次第デアリマス。

今ヤ帝國ノ隆替ハ正ニ此ノ一戰ニ懸ツテ居ルノデアリマス、我ガ同胞ハ一大國難ニ直面致シマスレバ、必ズ打ツテ一丸トナツテ殉國ノ精神ヲ發揮シ、如何ナル艱難ヲモ克服シテ國威ヲ中外ニ發揚シ、國運ノ隆昌ヲ致シテ居リマスルコトハ、明カニ史績ノ示ス所デアリマス、凡ソ戰ヒノ要訣ハ必勝ノ信念ニアリマス、私ハ全國民諸君ガ我ガ國體ノ本義ニ徹シ、建國以來二千六百餘年、未ダ曾テ戰ヒニ敗レタコトナキ帝國ノ光榮アル史績ヲ回顧シテ、固キ必勝ノ信念ノ下ニ如何ナル艱苦ヲモ堪ヘ忍ビ、職域奉公ニ遺憾ナキヲ期シ、必ズ終局ノ戰勝ノ光榮ヲ招來スルニ至ランコトヲ確ク信ジテ疑ハザルモノデアリマス。

併シナガラ敵ハ領土ノ廣大、資源ノ豊富ヲ誇リ、之ヲ以テ世界制覇ノ野望ヲ逞シウセントスル米英兩國デアリマス、帝國ハ大東亞ノ禍亂ヲ戡定致シマスルト共ニ、此ノ強大ナル敵ヲ摧カナケレバナライノデアリマス、隨ヒマシテ長期戰ハ固ヨリ覺悟ノ前デアリマス、即チ帝國ハ今後幾多ノ困難ニ當面スルコトアルベキコトヲ深く肝ニ銘ジ、敵兵力ノ殲滅ニ愈々奮勵努力シ

シテ大東亞諸地域ヲ明朗ナル本然ノ姿ニ復シ、新タナル大建設ヲ行ハントスルニ外ナライノデアリマス、大東亞數億ノ住民モ亦帝國ノ此ノ眞意ヲ了解シテ、無益ノ抵抗ヲ行フコトナク、寧ロ我等ノ同志トシテ速カニ帝國ノ企圖スル大東亞共榮圈建設ノ聖業ニ參加スルニ至ランコトヲ切望シテ已マナイ次第デアリマス、此ノ際重慶政權ガ尙ホ抗戰ヲ續ケテ居リマスコトハ甚ダ遺憾トスル所デアリマス、若シ彼ニシテ今後モ依然抗戰ヲ繼續スルニ於キマシテハ、帝國ハ今後ト雖モ毫モ壓迫ノ手ヲ弛メルモノデアリマセヌ而モ其ノ抵抗ノ根源モ今ヤ覆滅ニ瀕シツツアルノデアリマシテ、禍亂ノ戡定モ遠カラザルモノト存ズル次第デアリマス。

此ノ秋ニ當リ盟邦獨伊兩國ガ帝國ノ開戰ト共ニ參戰シ、帝國ト共ニ確固不動ノ決意ヲ以テ一切ノ強力手段ヲ盡シ、世界平和ノ爲ノ共同ノ敵ニ對シ勝利ヲ得ルマデハ斷ジテ干戈ヲ收メザルコトヲ誓ヒ、又相互ノ完全ナル了解ニ依ルニアラザレバ米英兩國ノ何レトモ休戰又ハ講和ヲナサザルベキコト、及ビ公正ナル新秩序招來ノ爲メ將來益々密接ニ協力スベキコトヲ約シ、日獨伊三國ノ締盟愈々固キヲ加フルニ至リマシタコトヲ、

洵ニ同慶ノ至リニ存ジマスルト共ニ、米英兩國ヲ屈服セシムルマデハ斷ジテ戈ヲ收メザル帝國ノ固キ決意ヲ茲ニ表明スルモノデアリマス。

尙ホ此ノ機會ニ於キマシテ私ハ開戰以來ノ國民ノ熱誠溢ルル愛國ノ至情ニ對シマシテ、衷心ヨリノ感激ヲ表明スルモノデアリマス。

今回政府提出ノ豫算案及ビ法律案ハ、何レモ戰爭遂行上緊急ナル事項ニ限定セラレテ居ルノデアリマス、何卒速カニ御審議ノ上御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ切望致ス次第デアリマス。

第七十八回帝國議會東郷外務大臣演說

畏クモ本月八日米英兩國ニ對スル宣戰ノ大詔渙發セラレマスルヤ、皇軍ハ忽チニシテ太平洋ヲ制壓シ、國威ハ宇内ニ輝キ、國運將ニ劃期的發展ノ緒ニ就キマシタ秋ニ當リ、茲ニ所見ヲ開陳致シマスルノハ私ノ最モ光榮且ツ欣幸トスル所デアリマス。

日米交渉ヲ打切ルノ已ムヲ得ナカツタ事情ハ、曩ニ詳細公表致シマシタ通りデアリマスルガ、今次大戰ノ由ツテ來ル所ハ、米英兩國政府ガ帝國ニ對シ重慶政權援助ニ依ル對日壓迫ニ慊ラズ、進ンデ經濟斷交ヲ行フト共ニ、八ヶ月ニ渉ル我が方ノ公正ナル主張ニ耳ヲ籍

スコトナク、却ツテ帝國ニ對スル包圍陣ヲ強化シ、且ツ挑戰的態度ヲ執リ來ツタコトニ存スルノデアリマス、更ニ其ノ根源ヲ究明スレバ、米英兩國政府ガ専ラ自國本位ノ現狀維持ヲ圖リ、萬邦共榮ノ要義ヲ排除シテ、其ノ搾取的支配ヲ押シ通シ全世界ヲ其ノ制覇ノ下ニ屈從セシメントシタルコトニ原因スルモノデアリマス、而モ驕慢ナル米英兩國政府ハ帝國ノ實力ヲ輕侮シ、軍事的、經濟的威嚇ヲ以テ容易ニ帝國ヲ壓服シ得ベシト臆斷シ、交渉ヲ遷延セシメツツ包圍ノ態勢ヲ強化シ來ツタノデアリマス、若シ米英兩國ノ斯カル態度ヲ容認スルガ如キコトアリトセバ、帝國ハ支那事變四箇年餘ニ互ル建設的成果ヲ犠牲トスルノミナラズ、帝國ノ生存ヲ脅威セラレ、權威ヲ失墜スルコトト相成リマスルノデ帝國政府ハ本交渉打切ヲ米國政府ニ通告シ、帝國ノ自存ノ爲メ、又東亞ノ安定ノ爲メ、已ムヲ得ズ米英兩國ヲ敵トシテ立上ルニ至ツタノデアリマス。

然ルニ米國政府ハ、帝國ガ無警告ニ突如戰爭ヲ開始セリト宣傳シテ居ル趣キデアリマスルガ、先ヅ決戰態勢ヲ執ツテ挑發シ來ツタノハ米國政府自體デアリマス、帝國ノ平和維持ニ關スル熱望ヲ裏切り、戰ヲ我ニ強制シタルモノハ實ニ米英兩國政府デアリマス、私ハ

前議會ニ於テ、帝國ノ協調的態度ニモ自ラ限度アルコトヲ明確ニシテ置イタノデアリマシテ、此ノ點ハ米國政府ニ於キマシテモ充分承知シテ居タ筈デアリマス、又米國政府ハ、帝國ノ容認シ得ル限度ガ如何ナルモノナリヤニ付テモ、長日月ノ交渉ニ依リ篤ト承知シテ居ツタ筈デアリマス、ソレニモ拘ラズ米國政府ガ此ノ限度ヲ超エタル要求ヲ我ニ強要スルコトガ如何ナル結果ヲ招來スルヤハ、米國政府ニ於テ當然豫測シテ居ツタ筈デアリマス、若シ夫レ帝國ノ協調的態度ニモ限度アリトノ聲明ヲ駭引又ハ恫喝ナリト考ヘテ居ツタト致シマスレバ、米國政府モ迂濶デアツタト言フノ外アリマセヌ、目下米英兩國國民ハ、自己ノ非ヲ蔽ハントスル政府ノ宣傳ニ耳ヲ奪ハレテ居ル模様デアリマスルガ、段々其ノ氣持ガ落着クニ從ヒ、冷靜ニ戰爭ノ發生原因ヲ考察シ、日米交渉ヲ正シク批判シ、「ルーズヴェルト」「チャーチル」外交ヲ再檢討シ、此ノ戰爭ノ眞ノ原因ガ那邊ニ存スルヤノ點、即チ米英現政府ガ總テ其ノ責ニ任スベキモノデアルコトニ付テ、速カニ了得シ來ルベシト考フルモノデアリマス。

今次ノ對米英戰爭ハ、要スルニ國際態勢ニ於ケル舊秩序ノ維持ト、新秩序ノ建設トノ鬭爭戰タルノ本質ヲ

有スルノデアリマス、從來米英兩國政府ハ舊秩序維持ノ爲ノ手段トシテ、全世界ニ互リ、自己ニノミ好都合ナル原則ヲ固守シテ參ツタモノデアリマシテ、今次交渉ニ於テモ米國政府ハ英國政府ト苟合シ、利己の原則ノ主張ヲ一步モ讓ルコトナク、支那其ノ他ノ諸國ヲ隸屬視スル傳統的態度ヲ改メナカツタモノデアリマス、隨テ今次ノ戰爭ハ大東亞解放ノ性格ヲ有スルモノデアリマス、此ノ點ハ我が國民ノミナラズ、東亞ノ諸國ガ篤ト了解スベキ所デアリマス、隨テ帝國ガ一タビ奮起スルヤ、東亞ノ諸國ハ帝國ノ平和理念及ビ今次大戰ノ由來ヲ了解スルト共ニ、東亞ノ大勢ヲ明察シ、翕然トシテ帝國ニ協力シテ參ツタノデアリマス、即チ滿洲國ハ逸早く帝國ト全面的ニ協力スルノ態度ニ出ヅルコトヲ闡明シ、又中華民國南京政府ハ、帝國ニ對シ完全ナル協力ヲ聲明セル次第デアリマス、今ヤ過去百箇年ノ久シキニ互ツテ東亞ヲ植民地的搾取ノ對象トシ來ツタ米英ノ勢力ハ、支那ヨリ驅逐サレントシツツアルノデアリマシテ、開戰後忽チニシテ米英ノ支那ニ於ケル搾取政策ノ據點タリシ租界其ノ他ニ於ケル政治的勢力ガ排除セラレルニ至リマシタコトハ、三十年前中華民國國民革命ノ第一ノ宿願ガ、今日初メテ達成セラレタモノデアリ

其ノ意義極メテ重大ト申サネバナリマセヌ。

更ニ「タイ」國トノ關係ニ付キマシテハ、同國政府ハ克ク帝國ノ意圖ヲ諒解シマシテ、其ノ決斷ニ依リ帝國軍隊ノ「タイ」國通過ニ關シ了解ノ成立ヲ見、爾來帝國軍隊ハ平和裡ニ同國ヲ通過シツツアリマス、而モ今回更ニ攻守同盟締結方ニ付キ、坪上大使ト「ビブン」首相トノ間ニ意見ノ合致ヲ見マシタルコトハ、獨リ日「タイ」兩國ノ爲ノミナラズ、東亞ノ興隆ノ爲メ洵ニ喜バシキ限リデアリマス、尙ホ佛領印度支那ニ於テモ佛國側ガ帝國ノ立場ニ十分ナル理解ヲ示シ帝國ト佛印トノ協力ヲ一層強化スルノ態度ニ出デ、共同防衛ノ實施ニ付キ凡ユル便宜ヲ供與シテ居ルノデアリマス、斯クノ如クニシテ赫々タル戰果ト相俟ツテ諸友邦トノ平和的提携ニ依リ、包圍陣突破ノ態勢ガ急速ニ擴充強化セラレタノデアリマス。

從來東亞ノ諸國中ニハ帝國ノ真意ヲ了解セズ、疑惑ノ眼ヲ以テ眺ムルモノモアツタノデアリマスルガ今回帝國ガ破邪ノ劍ヲ揮フヤ、東亞ノ諸國ハ、帝國ノ目標トスル所ガ東亞ノ解放興隆ニアルコトヲ了解シ、衷心協力スルニ至ツタノデアリマス、斯クシテ東亞ハ其ノ本然ノ姿ニ還リツツアルノデアリマシテ、洵ニ慶賀ニ

交戰狀態ニ入ツタノデアリマスガ、今次獨伊ノ對米宣戰後直チニ「ハンガリー」「ルーマニア」及ビ「ブルガリア」ハ對米參戰ヲ宣言致シマシタ、斯クノ如ク歐洲ノ諸盟邦ガ帝國ニ呼應シテ共通ノ敵ニ向ツテ立上リツツアルコトハ、眞ニ快心ニ堪ヘヌ所デアリマス、今ヤ世界ハ前古ニ比類ナキ大轉換期ニ際會シテ居ルノデアリマスルガ、帝國ハ益々獨伊初メ盟邦諸國トノ提携ヲ緊密ニシ、此ノ正義ノ爲ノ戰ヒヲ完全ナル勝利ニ至ルマデ遂行スルト共ニ、米英兩國ノ現状維持ヲ基礎トスル獨善的平和理念ヲ排擊シ、公正ナル新秩序ノ建設ニ邁進シ恆久的世界平和ノ確立ニ貢獻セントスルモノデアリマス。

最後ニ「ソ」聯邦トノ關係ニ付キマシテハ、前議會ニ於キマシテモ明カニ致シテ置キマシタ通り、帝國政府ハ北方ノ安全ヲ確保セントスル態度ニ何等ノ變更ナキモノデアリマスルガ、「ソ」聯邦政府ニ於テモ、日「ソ」中立條約ヲ遵守スルノ意向ハ屢々之ヲ表明致シテ居ル次第デアリマス。

凡ソ一國ガ四圍ノ不當ナル障害ニ依ツテ平和裡ニ自然的發展ヲナスコトヲ阻止セララルル場合ニハ、其ノ障

堪ヘザル所デアリマス、固ヨリ之ニ依ツテ東亞諸國ノ帝國ニ對スル期待ハ益々増大シタコトハ申スマデモナイ所デアリマシテ、之ニ伴フ帝國ノ責任ハ一層重大トナツタノデアリマスルガ、我が國民ハ此ノ期待ニ副ハンガ爲メ、牢固タル覺悟ヲ以テ最善ノ努力ヲ致スベキデアリマス。

更ニ進ンデ獨伊兩國トノ關係ニ付キマシテハ、御承知ノ通り帝國ノ對米英宣戰ニ引續キ、去ル十一月獨伊兩國ハ米國ニ對シ宣戰スルト共ニ「ベルリン」ニ於テ日獨伊三國ノ間ニ新タナル協定ガ成立致シマシタ、即チ之ニ依リ日獨伊三盟邦ハ米英兩國ヲ共同ノ敵トシテ勝利ニ終ルマデ干戈ヲ收メザル確乎不動ノ決意ヲ闡明シ、單獨不講和ヲ約シ、且ツ三國同盟條約ノ意義ニ於ケル新秩序建設ニ對スル協力ヲ誓ツタモノデアリマスルガ、斯クノ如キ戰爭ノ共同遂行ト共ニ世界究極ノ平和ヲ目標トスル條約ガ三國間ニ締結セラレ、東西ニ位スル日獨伊三國ガ更ニ團結ヲ固メマシタコトハ、洵ニ史上ノ壯觀デアツテ三國ノ協力ハ必ズヤ是ガ結實ヲ見ルベキコト毫モ疑ヒノ餘地ガナイノデアリマス、尙ホ其ノ他ノ歐洲諸國ニ於キマシテハ、獨伊兩國ノ外「ハンガリー」「ルーマニア」「フィンランド」ハ曩ニ英國ト

害ヲ排除スル爲ニ干戈ヲ執ルノ已ムヲ得ザルニ至ルコトアルハ世界史上幾多ノ事例ヲ存シ、我が明治ノ發展期ニ於キマシテモ、日清、日露兩戰役ニ於テ其ノ實例ヲ見タ次第デアリマスルガ、今次大東亞戰爭ハ帝國ノ隆替ノミナラズ、東亞ノ興亡、世界ノ運命ノ岐ルル所デアリマシテ、其ノ意義重大ナルコトハ日清、日露兩戰役ニ幾倍スルモノガアリマス、尙又今次戰爭ハ長期戰ヲ豫想セラレマスノデ、内ニ在リマシテハ一億一心鐵ノ如キ結束ノ下ニ、如何ナル困苦缺乏ニモ堪ユルノ決意ヲ固メ、外ハ帝國ト志向ヲ同ジウスル友邦各國ト一層ノ緊密ナル連繫ニ力ヲ致シ、戰爭目的ノ貫徹ニ完璧ヲ期スルノ要アルヲ痛感スルモノデアリマスルガ、帝國ニシテ右ノ覺悟ヲ持シ、必勝ノ信念ヲ以テ邁進スル場合、光輝アル終局的勝利ヲ博スベキコトヲ信ジテ疑ハザルモノデアリマス。

木村陸軍次官戰況報告

陸軍大臣ニ代リ只今ヨリ戰況報告ヲ致シマス、去ル十二月八日畏クモ宣戰ノ大詔ヲ渙發アラセラレ、帝國ノ嚮フ所ヲ明カニ宣示遊バサレ、剩ヘ吾々軍人ニ對シマシテ重ネテ優渥ナル勅語ヲ賜ハリマシタコトハ

洵ニ恐懼感激ニ堪ヘマセヌ。

申スマデモナク今次ノ作戰ハ廣大ナル西太平洋ニ行ハレルモノデアリマスルガ故ニ、戰勝獲得ノ爲ニハ開戰劈頭先ヅ制海權ヲ我が方ニ掌握致スコトガ肝要デゴザイマス、幸ニシテ帝國海軍ノ斷乎タル奇襲作戰能ク其ノ效ヲ奏シ、爲ニ我が陸海協同ノ上陸作戰並ニ爾後ノ作戰行動ハ著シク容易トナリマシタ、此ノ點海軍ニ對シマシテ深甚ナル謝意ヲ表スル次第デアリマス、爾來陸軍ハ陸海水モ洩ラサヌ緊密ナ連繫ノ下ニ、常ニ敵ノ機先ヲ制シ、隨所ニ奇襲上陸ヲ敢行シ、着々戰果ヲ擴大シツツアルノデアリマシテ、以下其ノ概要ヲ申述ベタイト存ジマス。

「マレー」半島方面—英國ハ久シキニ互リ政戰兩略ヲ併用シテ「タイ」國ヲ強壓シ、之ヲシテ反日戰線ニ導入スベク執拗ナル策動ヲ續ケツツアツタノデアリマスガ、遂ニ七日ノ夜暗ニ乗ジ、「マレー」國境ヲ突破シテ「タイ」國南部ニ侵入シ來ツタノデアリマス、是ニ於テカ我が陸軍ハ海軍ト協同致シマシテ、八日未明、「マレー」半島ノ要衝ニ上陸ヲ敢行シタノデアリマス、此ノ時英領「マレー」東北部ニ突進セル部隊ハ、堅固ナル海陸ノ備ヘヲ恃ム頑強ナル敵ト激戰ヲ交ヘ、屢々危險ニ

「タイ」方面—「タイ」國トノ間ニ於キマシテハ、八日早朝日本軍ノ「タイ」國內通過並ニ便宜供與ニ關スル交渉成立致シマシタカラ、「シヤム」灣頭ニ待機シテ居リマシタ部隊ハ直チニ歩武堂々上陸ヲ開始シ、又西部佛印國境ニ在リシ部隊ハ長蛇ノ如キ「トラック」縱隊ヲ以テ、沿道「タイ」國民ノ歡呼ニ應ヘツツ、九日ニハ早クモ「タイ」國首府「バンコック」附近ニ進駐ヲ了リマシタ、之ヲ契機ト致シマシテ日「タイ」間ノ關係ハ急速ニ緊密化シ、十一日ニ至リ日「タイ」攻守同盟締結ノ意見ノ一致ヲ見ルニ至リ、「タイ」國ガ米英ノ策動ヲ斥ケテ我が戰線ニ參加シ、新東亞建設ニ協力邁進スルコトトナリマシタコトハ、曩ニ締結ヲ見マシタ日佛印軍事協定ト共ニ、我が西太平洋ニ於ケル戰略的地位ヲ著シク強化スルモノデアリマシテ、洵ニ御同慶ニ堪ヘナイ次第デゴザイマス。

比島、「グアム」方面—「フィリッピン」方面ニ於キマシ

瀕シタノデアリマスガ、勇戰奮闘、遂ニ其ノ上陸ニ成功シ、損害ヲ物トモセズ、引續キ敵ノ重要飛行根據地ニ殺到シ之ヲ占領、以テ全般ノ上陸作戰ヲ容易ナラシメ、軍旗ノ下英領「マレー」一番乗ノ偉功ヲ立テタノデアリマス、爾餘ノ上陸諸部隊モ直チニ南進ヲ開始シ、南洋特有ノ錯雜セル地形ニ據ツテ頑強ニ抵抗セル敵ヲ擊破前進中デアリマス、十二日ニ至リマシテ「マレー」英領ニ突入セル一部隊ハ、約一箇師團ノ敵機械化部隊ト遭遇、激戰ノ後之ヲ殆ド潰滅シ、敵戰車二十、速射砲十六門、自動貨車約六十輛ヲ鹵獲スルノ外、多數ノ俘虜ヲ獲得致シマシタ、又陸軍ノ飛行部隊ハ地上部隊ト相呼應シ、捨身ノ戰法ヲ以テ敵彈下不完全ナル飛行場ニ強行着陸ヲ行ヒ、上陸行動ノ直接掩護、敵航空基地ノ爆破等ノ活躍目覺シク、十四日マデノ間ニ於テ既ニ百三十三ノ敵機ヲ擊墜若クハ大破セシメ、「マレー」英空軍ノ主力ヲ制壓シ、「ベナン」港等ニ於テハ敵輸送船三隻ヲ爆沈、砲艦二隻、輸送船五隻ヲ大破シ、更ニ地上部隊ノ戰鬪ニ協力シテ敵自動貨車百輛ヲ爆破致シマシタ、併シナガラ「タイ」「マレー」國境カラ「シンガポール」マデノ距離ハ七百「キロ」餘アリマシテ、恰モ東京、廣島間ノ距離ニ相當致シマス、而モ地形ハ熱帶ノ「ジャ

テハ、開戰ト共ニ陸海ノ航空部隊相協力シ、專ラ敵航空勢力ノ擊滅ニ重點ヲ指向シ、概ネ其ノ目的ヲ達スルニ至リマシタノデ、陸軍部隊ハ機ヲ失セズ海軍ト協力シ、十日未明「ルソン」島北部ニ上陸作戰ヲ敢行致シマシタ、豫テ米國ガ防備完成ヲ呼號シテ居リ、又我が上陸ハ開戰第三日ニシテ既ニ敵ニハ豫知セラレアリシ筈ナルニ拘ハラズ、我が軍ガ無血上陸ニ成功致シマシタコトハ寧ロ意外トスル所デゴザイマス、米國ノ東亞ノ據點ト特ム比島ニ日章旗ヲ翻シタル我が軍ハ、士氣愈々旺盛、息ヲモ繼ガセズ「マニラ」方面ニ向ヒ戰果ヲ擴張中デゴザイマス、越エテ十二日未明ニ至リマシテ「ルソン」島南部ノ奇襲上陸ニ成功、北部ヨリ南進中ノ部隊ト相呼應シ、「ルソン」島ノ完全攻略ヲ目指シテ、隨處ニ敵ノ抵抗ヲ打破シツツ、活潑ナル挾擊作戰ヲ展開中デアリマス、又比島方面ニ於ケル敵航空勢力ハ陸海航空部隊ノ頻繁ナル猛攻ヲ蒙ムリ、其ノ主力ハ殆ド潰滅ニ瀕シ、辛ウジテ餘喘ヲ保チアル狀況デゴザイマス、一方「グアム」占領ニ赴キタル部隊ハ海軍ノ適切ナル協力ニ依リマシテ、巧ミニ敵潛水艦及ビ飛行機ヲ回避シツツ「グアム」島ニ接近、十日未明激浪ヲ冒シ、敵ノ抵抗ヲ排除シテ其ノ上陸ニ成功シ、忽チニシテ島内ノ掃蕩

ニ移リ總督以下約三百五十名ノ俘虜ヲ獲得スルト共ニ、多數ノ鹵獲品ヲ押收シ、十二日完全ニ之ヲ占領シタノデアリマス、米英兩國ノ連絡據點タル比島竝ニ「グアム」島ニ於ケル赫々タル戰果ハ、即チ對日包圍陣ノ一部崩壞ヲ意味スルモノデアリマシテ、將來ノ作戰ニ好影響ヲ與フルハ勿論、我が終局ノ勝利ヲ確信セシムルニ足ルモノガアルノデゴザイマス、尙ホ軍ノ一部ハ海軍トノ緊密ナル協同ノ下ニ、本十六日未明暴風雨ヲ冒シ英領「ボルネオ」ノ敵前上陸ニ成功致シマシタ。

支那方面—支那ニ於テハ重慶ノ殘存軍ニ對シマシテ益々武力的壓迫ヲ加ヘ、機會アル毎ニ鐵槌的打撃ヲ與ヘテ其ノ蠢動ヲ完全ニ封殺スルト共ニ、國民政府ノ清郷工作ヲ援ケテ、其ノ治安圈ノ擴大ヲ圖リツツアリマス、而シテ國民政府ハ大東亞戰爭ノ世界史的意義ニ心カラ共鳴シ、軍、國ノ一切ヲ擧ゲテ米英打倒ノ共同目的ニ邁進スベキコトヲ宣言致シマシタ、洵ニ欣快トスル所デゴザイマス。

對米英戰ガ始マリマスルヤ、抗日ノ巢窟ヲ剔抉シテ治安攪亂ノ癌ヲ除ク爲メ、八日朝ヲ期シテ一齊ニ敵性租界ニ對スル進駐ヲ斷行シ、天津、北京、秦皇島、上海及ビ沙面各租界ニ殘存シ居リマスル敵國軍隊ノ武裝

獻セントスル確乎不動ノ態勢ヲ整ヘテ居リマス、洵ニ心強キ限リデゴザイマス又滿「ソ」國境ニ於テハ最近紛爭事故ハ皆無ニ近イ状態デアリマシテ、極メテ靜謐ヲ保ツテ居リマス。

以上ヲ以テ戰況ノ概要ヲ申述ベタ次第デアリマスガ戰局ノ發展ニ伴ヒマシテ今後一層華々シキ戰果ヲ得ラルコトト存ジマス、國家千年ノ運命ヲ決スル大東亞戰爭ノ緒戦ニ當リ敢行セル上陸作戰ガ悉ク成功シ、赫々タル戰果ヲ收メ得タル所以ノモノハ、固ヨリ 御稜威ノ然ラシムル所デアリマスガ、又以テ陸軍將兵ノ言語ニ絶スル勇戰敢闘ト、帝國海軍ノ獻身的協同ノ賜モノデアルト信ジマス。

併シナガラ敵ハ世界ニ富強ヲ誇ル米英兩國デアリ、作戰ハ萬里ノ波濤ヲ乘越エテ行フモノデアリ、且又戰場ハ酷熱瘴癘ノ錯雜地デアリマスカラ、所期ノ目的ヲ達成スルマデニハ前途尙ホ幾多ノ困難ト障碍アルヲ豫想セネバナリマセヌ、我等將兵一同ハ愈々鐵石ノ團結ヲ鞏クシ一意米英軍ノ殲滅ニ向ヒ突進シ、決死殉國、最後ノ勝利ヲ獲得シ、以テ光輝アル二千六百年ノ歴史ヲシテ彌ガ上ニモ光彩アラシメンコトヲ期スル次第デ

ヲ解除シ、敵性金融機關及ビ財産等各種權益ノ接收ヲ行ヒマシタガ、各所トモ順調ニ進捗シ、民心モ至極平靜デアリマス、開灤炭礦ノ如キモ亦平常ノ如ク操業ヲ續行中デゴザイマス、又敵性國民ハ帝國ノ武士道の處遇ニ對シマシテ心カラ感謝ノ意ヲ表シ、喜ンデ我が官憲ノ指導ニ服從シツツアル有様デゴザイマス、又香港方面ニ於キマシテハ、八日未明、機ヲ失セズ敵ノ飛行場、港灣施設ニ果敢ナル空中攻撃ヲ加フルト共ニ、地上ヨリモ一齊ニ攻撃ヲ開始シマシタガ、十日夜敵ノ主要陣地中最モ重要ナル部分ヲ奪取スルニ及ンデ敵ハ總崩レトナリ、十二日未明ニハ早クモ九龍半島一帯ヲ攻略スルニ至リ、今ヤ英米勢力ハ支那大陸ヨリ完全ニ驅逐セラレタノデアリマス爾後我が軍ハ百數十萬ノ無辜ノ民ヲ苦シメルニ忍ビズ、香港總督ニ對シ開城ヲ勸告シタノデアリマスガ、之ヲ拒否シテ參リマシタノデ、已ムナク香港島ニ對シマシテ空陸一體ノ猛攻撃ヲ加ヘツツアル狀況デゴザイマス。

滿洲方面—滿洲國ハ帝國ノ對米英戰開始ニ伴ヒマシテ、愈々日滿共同防衛ノ本義ヲ顯現シ、如何ナル事態ガ惹起致シマセウトモ、北方ノ守リヲ安固タラシムルノミナラズ、其ノ全國力ヲ擧ゲテ帝國ノ戰爭遂行ニ貢アリマス。

終リニ臨ミ開戰以來陸軍ニ寄セラレマシタ慰問、激勵竝ニ多額ノ國防獻金、恤兵金ニ對シマシテハ洵ニ感謝ノ外ナク、此ノ席ニ於キマシテ銃後國民各位ニ對シ深甚ノ謝意ヲ表スル次第デアリマス。

嶋田海軍大臣戰況報告

十二月八日開戰以來ノ海軍作戰ノ狀況ニ付キ大要說明致シマス、申スマデモナク此ノ度ノ戰爭コソハ洵ニ帝國有史以來ノ重大事デアリマシテ、帝國海軍ハ豫テヨリ今日アルニ備ヘ、只管恃ムベキ實力ノ充實鍊成ニ萬全ヲ期シテ參ツタ次第デアリマスガ茲ニ畏キ 御詔勅ヲ拜シ奉リ、將兵一同ハ眞ニ皇國興廢ノ重責ヲ感ジ、全軍唯一死國ニ報ズルノ決意ヲ以テ、人智人力ノ限リヲ盡サントスル熱意ニ燃エテ居ルノデアリマス以下各方面ノ主ナル戰況ニ付キ申上ゲマス。

先ヅ「ハワイ」方面ノ作戰デアリマスガ、御承知ノ如ク「ハワイ」ハ完備セル前進根據地トシテ、米國太平洋艦隊ガ之ニ據リ、以テ攻防至ラザルナキ備ヘヲ有シテ居ツタノデアリマス、我が艦隊ハ航空部隊及ビ潛水艦部隊ヲ中心トスル有力ナル部隊ヲ以テ、開戰當日ノ日

出後一時間半頃ヨリ白晝果敢ナル強襲ヲ行ツタノデア
リマス、幸ニシテ米國太平洋艦隊ノ主力タル戰艦八隻、
其ノ他有力ナル部隊ガ眞珠港内ニ在泊シテ居リマシタ
ノデ、是等ニ對シ連續勇猛果敢ナル爆撃及ビ雷撃ヲ加
ヘ、敵ノ「ウエストヴァージニア」「オクラホマ」竝ニ「ア
リゾナ」ト推定セラレマスモノ、合セテ三隻ノ戰艦ヲ
撃沈シ、又戰艦四隻及ビ巡洋艦四隻ヲ大破セシメマシ
タル外、極メテ多數ノ飛行機ヲ撃墜破シ、陸上軍事施
設ニ對シマシテモ大ナル損害ヲ與ヘタノデアリマス、
更ニ同日「ホノルル」近海ニ於テ航空母艦一隻ヲモ撃沈
致シタルモノノ如ク、此ノ戰鬪ニ依リマシテ米國太平
洋艦隊主力ノ大部ハ其ノ戰鬪力ヲ喪失シタノデアリマ
ス。

次ニ米國ノ飛行機、潛水艦等ノ中間基地トシテ、「ハ
ワイ」ト共ニ重要ナル「ミッドウエー」「ウエーキ」及ビ
「グアム」ニ對シ、砲撃及ビ爆撃ヲ加ヘ、何レモ陸上諸
施設ニ致命的ナ大損害ヲ與フルト共ニ、「ウエーキ」ニ
於テハ飛行機十機ヲ撃破シ、又「グアム」ニ於テハ敵ノ
掃海艇一隻ヲ撃沈致シマシタ、是等ノ作戰ニ依リマシ
テ「ハワイ」ヨリ東亞ニ至ル戰略竝ニ交通上ノ要地ハ、

ヲ爆撃シテ、敵ヲ大混亂ニ陥レタノデアリマス、爾後
我が軍ハ「マニラ」及ビ「カビテ」軍港ヲ初メ各要地ニ對
シ爆撃ヲ反復シ、海上兵力亦勇敢ニ活躍致シマシテ、
十日早朝ニハ「ルソン」島北部ニ、十二日早朝ニハ同ジ
ク南部ニ、ソレゾレ陸軍部隊ノ護送揚陸ニ成功シ、目
下迅速ニ戰果ヲ擴張中デアリマス、此ノ間「フィリッ
ピン」方面ニ於キマシテ海軍ノ擧ゲマシタル戰果ハ、潛
水艦一隻大型商船一隻ノ撃沈、竝ニ中型商船一隻拿捕
等ノ外ニ、飛行機二百八十八機ヲ撃墜又ハ撃破シ、開
戰當時「フィリッピン」ニアリマシタ敵空軍ノ大部ヲ既ニ
撃滅シタノデアリマス。

次ニ支那大陸方面ニ於キマシテハ、陸海軍協力シテ
八日未明香港作戰ヲ開始致シマシテ、海軍部隊ハ十日
朝香港東口ニ肉薄シテ敵哨戒艦一隻ヲ撃沈シ、爾後爆
撃ニ依ツテ魚雷艇一隻ヲ撃沈シ、砲艦、武装商船等ニ
相當ノ被害ヲ與ヘテ居リマス、上海方面ニ於キマシテ
ハ、八日未明、在泊中ノ英米砲艦各一隻ニ對シ降伏ヲ
迫リマシタガ英國砲艦ハ之ヲ拒否致シマシタノデ直ニ
撃沈シ、米國砲艦ハ降伏致シマシタノデ之ヲ捕獲シ、
昨十五日附ヲ以テ「多多良」ト命名、之ヲ帝國軍艦ノ
艦籍ニ編入致サレタノデアリマス。

一舉ニシテ其ノ機能ヲ破壊セラレマシタ、「グアム」島
ニ十日朝陸海軍部隊ノ上陸作戰ヲ實施シ、十二日之ヲ
占領シ、尙ホ油槽船一隻ヲ捕獲致シマシタ、又此ノ間
「バラオ」附近ニ於キマシテ、敵ノ潛水艦一隻ヲ撃沈シ
マシタコトモ略々確實デアリマス。

以上ノ作戰ト時ヲ同ジクシテ、西南太平洋諸地域ニ
對シマシテモ陸海軍ノ緊密周到ナル協同ノ下ニ大規模
ナル上陸作戰竝ニ航空作戰ヲ實施致シマシテ何レモ大
ナル成功ヲ收メタノデアリマスガ、先ヅ「マレー」半島
方面ニ於キマシテハ、有力ナル海軍部隊ヲ以テ陸軍大
部隊ノ輸送船團ヲ護衛シ、八日未明「マレー」半島ヘ損
害ナキ上陸ニ成功シ同時ニ海軍航空部隊ハ開戰劈頭大
舉シテ「シンガポール」方面ノ飛行場及ビ軍事施設ニ對
シ果敢ナル爆撃ヲ加ヘ、機先ヲ制シテ敵兵力ノ本據ニ
甚大ナル損害ヲ與ヘマスルト共ニ、敵ヲ極度ノ混亂ニ
陥レ、爾後相次グ猛爆ヲ以テ、目下着々此方面ノ戰果ヲ
擴大シツツアリマス、「フィリッピン」方面ニ對シマシテ
モ、同ジク開戰劈頭航空部隊ノ極メテ大規模ナル空襲
ヲ決行致シマシテ、「イバ」及ビ「クラークフィールド」等
ノ米國陸軍航空部隊ヲ攻撃シ、一舉ニシテ敵機約百機
ヲ撃破シ、又南方「ダヴァオ」ニ於キマシテモ軍事施設

以上ノ如ク開戰初頭ノ大ナル戰果ニ依リ、作戰全局
ヲ甚ダ有利ニ導イタノデアリマスガ、更ニ開戰第三日
ノ十二月十日、英國東洋艦隊ノ主力タル旗艦「プリン
ス・オブ・ウエールス」及ビ戰艦「レバルス」ノ二艦ヲ大
型驅逐艦一隻ト共ニ「マレー」東方海面ニ於テ撃沈シマ
シテ、戰勢ヲ更ニ有利ナラシメマシタ、是等戰艦二隻ハ
英國ガ最近特ニ「シンガポール」方面ニ増派シタモノデ
アリマシテ、英國トシテハ深ク其ノ威力ニ期待スル所
ガアツタモノト思ハレマス、十二月九日午後、哨戒中
ノ我が潛水艦ガ是等敵主力ノ出動ヲ發見報告致シマシ
タノデ、同方面作戰中ノ我が艦隊ハ決戰ヲ企圖シ、急
速ニ向ツタノデアリマス、併シナガラ敵ガ反轉シテ
シマヒマシタノデ、距離ノ關係上艦隊決戰ノ機會ハ得
ラレナカツタノデアリマスガ、我が航空部隊ト潛水部
隊トノ緊密ナル協同搜索ノ結果、翌十日午前再ビ、我
ガ潛水艦ガ敵ノ行動所在ヲ確認致シマシタノデ、航空
部隊亦機ヲ逸セス直ニ之ニ攻撃ヲ加ヘ、一舉ニシテ撃
滅致シタノデアリマス。

以上ハ今日マデノ主要ナル戰鬪ノ概要デアリマス
ガ、其ノ他ノ方面ニ對シマシテモ、我が海軍ハ極メテ
廣大ナル規模ニ於テ周到ナル作戰ヲ實施致シテ居ルノ
デアリマシテ既ニ公表セラレマシタルモノノ外、幾多

ノ精銳部隊ガ内外各方面各々其ノ配備ニ於テ最善ヲ盡シテ居ルノデアリマス、開戦以來今日マデニ判明シマシタ戦果ヲ累計致シマス、米國側ニ對シマシテハ、撃沈セルモノ戰艦三隻、潜水艦一隻、掃海艇一隻、及ビ大型軍用船一隻此ノ外ニ航空母艦一隻ヲモ撃沈シタモノノ如クデアリマス、大破セシメマシタモノハ、戰艦四隻、巡洋艦約四隻、驅逐艦、潜水艦及ビ特務艦各一隻トナリ、外ニ砲艦一隻ヲ捕獲致シテ居リマス、飛行機ニ於キマシテハ「フィリッピン」及ビ「ウエーキ」方面ニ於テ擊墜擊破シタモノ合計二百九十八機、外ニ「ハワイ」空襲ニ於テ與ヘタル損害少クモ二百機以上ト推定致シテ居リマス、又英國側ニ對シマシテハ、擊沈セルモノ戰艦二隻、大型驅逐艦、哨戒艇、砲艦、魚雷艇及ビ武装商船各一隻デアリマシテ、飛行機ハ「マレー」方面ニ於テ十一機ノ擊墜擊破ヲ確認シマシタル外、「シンガポール」飛行場急襲ニ依ル損害ハ相當多數ニ上ルモノト考ヘテ居リマス、其ノ他今日マデ拿捕致シマシタル商船ハ、各國籍ヲ合セテ四十七隻、約十二萬「トン」其ノ他ノ舟艇三百八十隻ニ達シテ居リマス。

○大東亞戰爭目的貫徹ニ關スル決議

(十二月十八日 衆本會議 二二頁)

決議

對米英宣戰ノ 大詔ヲ承ケテ皇軍ノ作戰間髪ヲ容レズ頻リニ快捷ヲ奏シテ四海ノ耳目ヲ驚動ス斯ノ如キハ前古未ダ曾テ其ノ類ヲ見ズ皇國臣民ノ感激措ク能ハザル所ナリ

太平洋制壓ノ強權概ネ既ニ我が掌中ニ歸シ加フルニ盟邦ノ誓愈々堅キヲ以テス前路素ヨリ蓁莽ナキニアラズトスルモ安ンゾ復敵國ノ蠢動ヲ許サンヤ

宜シク謹ミテ 聖旨ヲ奉體シ深ク皇軍ノ籌畫ニ信頼シ官民一丸以テ大東亞戰爭ノ目的ヲ貫徹スベシ

右決議ス

(趣旨説明) 山崎達之輔

帝國政府ハ太平洋ノ平和ヲ維持シ、戰禍ノ全人類ニ波及センコトヲ防止センガ爲ニ、崇高ナル精神ヲ以テ忍ビ難キヲ忍ビ、堪ヘ難キヲ堪ヘ、道義ニ則リ、情理ヲ盡シ、米國トノ國交調整ニ無限ノ努力ヲ致シタルニ拘ラズ、暴戾ナル彼レ米國ハ英國ト相結ビ、其ノ包藏セル世界制覇ノ野望ト妄執トニ驅ラレ、毫

ノ三機ニ過ギマセヌ。

斯クシテ開戦劈頭短時日ノ間ニ、米國太平洋艦隊主力ノ大部竝ニ英國東洋艦隊ノ主力ヲ擊破シ、又「ハワイ」及ビ東洋ニアル敵航空兵力ニ大打撃ヲ與ヘ、極メテ大ナル戦果ヲ擧ゲ、能ク帝國ノ威武ヲ中外ニ發揚シ得マシタコトハ、偏ニ 御稜威ノ賜モノデアリマシテ、誠ニ感激ニ堪ヘナイ所デアリマスト共ニ、忠勇ナル將兵ノ善謀奮戰、眞ニ異常ナルモノアリシニ依ルモノナルコトハ申スマデモアリマセヌガ、同時ニ又過去ニ於テ諸先輩ノ多年ニ互ル粒々辛苦ノ業績ト光輝アル傳統ニ由來スルコト多大ト存ジマシテ、此ノ點深ク感銘致シテ居ル所デアリマス。

戦局ハ今後益々發展シ長期ニ互ルコトト思ハレマス、隨テ其ノ間幾多ノ困難ヲ見ルコトアルベキハ勿論デアリマスガ、海軍ト致シマシテハ益々兇ノ緒ヲ緊メ、終始必勝ノ信念ヲ以テ今日ノ戦果ヲ將來ニ全ウシ、以テ上 大元帥陛下ノ大御心ニ應ヘ奉リ、下全國民ノ信頼ニ副ハンコトヲ固ク期シテ居ル次第デアリマス。

最後ニ國民諸君ガ豫テヨリ、又特ニ今回ノ開戦以來、海軍全般ニ對シ與ヘラレマシタル熱誠溢ルル御後援ニ對シ、茲ニ海軍全將兵ヲ代表致シマシテ、衷心ヨリ深厚ナル感謝ノ意ヲ表シマス。

モ反省スル所ナク、東亞ノ安定ヲ確保シ、世界平和ニ貢獻セントスル帝國不動ノ國是ヲ蹂躪セントシ、遂ニ悠久二千六百餘年光榮ニ輝ク帝國ノ生存ト權威ヲスラ脅威セントスルニ至ツタ、彼ハ既ニ英國ヲ援ケ歐洲ノ禍亂ヲ擴大シ、徒ラニ蔣政權ノ援助ヲ強化シ東亞ノ安定ヲ妨害シツツアツタガ、今亦世界ノ破局ヲ激成スルニ至ツタモノデ、其ノ罪斷ジテ許スベカラザルモノデアアル、皇國ガ遂ニ干戈ヲ以テ起ツニ至レルハ眞ニ已ムヲ得ザル所デアアル、戦ヒハ正義ノ戦ヒデアリ、天ノ命ズル義戰デアアル、正義ノ存スル所必ズ勝利アリ、今ヤ全國民ハ必勝ノ信念ニ燃エ勇躍嶮難ヲ突破スルノ決意極メテ牢固タルモノガアル、宣戰ノ 大詔渙發セララルヤ、我が精銳ナル皇軍ハ刻ヲ移サズ「ハワイ」沖ニ長驅シ、電擊一閃、米國太平洋艦隊ヲ屠リ、更ニ「マレー」沖ノ海戰ニ英國東洋艦隊ノ主力ヲ擊滅シ、四海ヲ震撼シ、驕慢ヲ極メタ米英兩敵國朝野ヲ愕然タラシメタガ、更ニ南方諸地方ニ於テハ、彼等ガ多年東亞民族ヲ凌虐セル策動ノ基地ハ刻々其根柢ヲ覆ヘサレツツアル、廣袤千里、空ニ、海ニ、陸ニ其ノ作戰規模ノ雄大ナル、其ノ行動ノ周密ニシテ果敢ナル、其ノ戦果ノ赫々タル眞ニ

振古未曾有デアル、大御稜威ノ下籌畫能ク機先ヲ制シ、作戰亦精緻ヲ盡シ、勇武事ニ從ハレル將兵各位ノ忠誠奉公ニ對シテハ、全國民ハ唯感激ト感謝ニ滿タサレルノミデアル、米英ニ對スル宣戰ノ御詔勅ガ渙發セラレルヤ、滿洲國及ビ中華民國兩政府ハ完全ナル協力ヲ我ニ誓ヒ、又盟邦獨伊兩國トノ間ニハ新ニ對米英戰ノ共同遂行、單獨不講和及ビ世界新秩序建設協力ヲ内容トスル新協定ノ成立ヲ見、兩國ハ速カニ對米宣戰ヲ布告シ、我ト彼トノ盟約ハ愈々強靱ヲ加ヘタ、「タイ」國トノ間ニハ新ニ攻守同盟ガ約セラレ、更ニ佛印トハ日佛印共同防衛ニ基ク軍事協定ガ成立シ、是等盟邦各國ニ對スル我ガ國民ノ感激ハ特ニ新ナルモノガアリ、今ヤ米英兩國ヲ紛碎シ肇國ノ大理想ヲ顯現スベキ皇國ノ一大飛躍ノ基礎ハ既ニ成レリト云フベキデアル、併シ米英兩國ハ巨大ナル資源ヲ擁シ、又舊秩序擁護最後ノ保壘トシテ、彼等ノ執拗ナル態度ハ決シテ侮リ難キモノガアルト見ナケレバナラヌ、隨ヒ戰爭ハ因ヨリ長期ヲ覺悟セネバナラヌ、前途幾多ノ難關ガ横ハリ、容易ナラヌ荆棘ヲ打開シ進ム覺悟ガナケレバナラヌ、偉大ナル緒戰ノ大勝ニ酔フコトナク、如何ナル困苦缺乏ニモ敢

世界二十一億ノ全人類ノ上ニ輝カシキ新秩序ヲ齎サシガ爲ノ戰デアル、皇國一億ノ臣民ハ生ヲ聖代ニ享ケ、此ノ一大盛事ニ際會シ、大御稜威ノ下聖業達成ノ一端ヲ負荷スルノ光榮ニ對シ、唯感激ト感謝アルノミデアル、謹ミテ宣戰詔書ノ聖旨ヲ奉體シ、精銳無比ナル陸海軍ノ鬼籌神算ニ信賴シ、一死君恩ニ報ジ奉ルノ覺悟ヲ以テ、大東亞戰爭ノ目的完遂ニ邁進シ、恆久的世界平和ノ確立ニ寄與センコトヲ冀念シテ已マザル所デアル。

(答) 東條首相

決議ノ趣旨ニハ政府ハ全ク同感デアル、烈々タル國民ノ決意ヲ承知シ、洵ニ意ヲ強ウスル次第デアル、政府ハ此ノ上トモ全力ヲ舉ゲ征戰目的完遂ニ邁進シ以テ宸襟ヲ安ンジ奉リタイト存ズル次第デアル。

○敵産管理法

(十二月十六日 貴本會議 八頁 衆本會議 一四頁)

敵産管理法案

敵産管理法

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選

テ屈セズ、斷ジテ敵國群ノ謀略妄動ヲ容レザルノ用意ガ緊要デアルト思フ、前議會ニ於テ衆議院ハ、一億國民ノ用意既ニ成レリト言ツタガ、此ノ國民ノ心構ヘハ今ヤ正ニ幾倍シ、大君ノ爲メ皇國ノ爲メ身命ヲ捧グルノ熱意ニ燃ヘ聊カモ惑フ所ハナイノデア、政府ガ曩ニ米國トノ交渉ニ當リ、隱忌自重ヲ重ネ、而モ毅然トシテ大節ヲ持シ、能ク萬一ニ處スルノ對策ヲ誤ラズ、機宜ヲ制セラレタ非常ナル苦心ニ對シテハ、國民ハ深甚ナル敬意ヲ表スルモノデアル、國民ハ皇國ニ竭ス誠ヲ傾ケテ政府ヲ支持スルモノデア、私ヲ一擲シ國家ニ殉ゼントスル全國民ノ赤誠ニ對シテハ、固ヨリ政府モ滿幅ノ信賴ヲ拂ハルベキモノデアルト思フ、斯ノ如クシテ軍官民一體、舉國鐵火ノ一丸トナリ躍進スルコトガ實ニ方今ノ要務デア、凡ソ人類ノ歴史ハ戰爭ニ依リ轉換シ、戰爭ハ常ニ解放ノ爲ノ戰デア、今日ノ世界的大動亂ハ、要スルニ英米ノ世界支配ノ桎梏ヲ打破シ、世界正義ヲ確立スルト共ニ、新ナル文化ヲ創造シ、世界新秩序ヲ建設セン爲ノ戰デア、蓋シ歴史ノ必然ノ要請デアリ、天ノ攝理デア、大東亞戰爭ハ實ニ人類ノ公敵タル米英ノ支配下ヨリ東亞十億ノ民族ヲ解放シ、

任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得
本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財產(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ
第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財產(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ガ第一條第一項ノ管理ニ附セラレタルトキハ其ノ財產(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外

國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦 邦 證 券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産

ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又

強化シタノデアルガ、是等ノ措置ハ單ニ行爲ノ禁止又ハ制限ヲナシ得ルニ止マルノデ、何レモ消極的取締ノ範圍ヲ出デナイノデアル、然ルニ敵國側財産ニ付テハ、敵國內ニアル本邦側ノ財産ニ對スル相手國ノ取扱振リニ對應シ、當方ニ於テモ機宜ノ措置ヲ執ル必要ガアリ、又敵國側ノ財産ハ之ヲ我が國ノ必要ニ應ジ極力活用スル等ノ見地ヨリ、積極的ニ管理統制スルノ必要ガ生ズルニ至ツタノデ、新タニ敵産管理ノ爲メ法律ヲ制定シタイト考へ本案ヲ提出セルモノデアアル。

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 一二二頁)
衆戰爭保險委員會 二一三頁

(提案理由説明) 谷口大藏次官

本年七月資産凍結以降、外國爲替管理法ニ基ク外國人關係取引取締規則、所謂資産凍結令ニ依リ、米英等諸國及ビ是等諸國人ノ本邦内財産並ニ本邦内經濟活動ニ對シ、相當嚴重ナル取締ヲ實施シ來ツタガ、本月八日米英ニ對シ宣戰ガ布告サレ、兩國ト敵對關係ニ立ツコトトナルヤ、取敢ズ是等諸國人ニ對シテハ資産凍結令ニ於ケル緩和的取扱ヲ撤廢スルト共ニ、從來ノ爲替管理ニ關スル規則及ビ資産凍結令ニ

ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵産管理委員會ヲ置ク敵産管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ遡リテ之ヲ無効トス

○敵産管理法提案理由

(十二月十六日 貴本會議 八一九頁)
衆本會議 一四頁

(提案理由説明) 賀屋藏相

米英等諸國及ビ是等諸國人ノ取引ニ關シテハ、本年七月ノ資産凍結以降、外國爲替管理法ニ依リ相當嚴重ナル取締ヲ實施シ來リ、今次開戰ニ伴ヒ更ニ之ヲ

基キ與ヘラレタ許可ハ、何レモ將來ニ向ヒ效力ヲ失フコトトシタノデアル、尙ホ宣戰布告ト同時ニ、米英系ノ外國爲替銀行並ニ主要商社ニ對シテハ一齊ニ検査官ヲ派遣シ、其ノ資産ヲ調査セシメルト共ニ、現地監督ニ當ラシメタ、是等各種ノ應急措置ハ總テ現行法規ニ基キ、能フ限り取締ヲ強化セントノ意圖ニ出タモノデアアルガ、何レモ消極的取締ノ範圍ヲ出ヌモノデアアリ、開戰後ノ今日ノ事態ニ對應スル措置トシテハ尙ホ不十分ナル點少カラズト思ハレ、敵國側ノ財産ニ關シ、必要ニ應ジ政府ニ於テ管理人ヲ選任シ、之ヲ管理セシムルノ外、賣却命令等ノ方法ニ依リ、積極的ニ之ヲ統制活用スル必要ガ生ジ、之ヲ實施スル爲ニハ、從來ノ外國爲替管理法ノミヲ以テシテハ、十分其ノ徹底ヲ期スルコトガ出來ナイ爲メ、新ニ敵産管理ニ關スル單行法律ヲ制定スルヲ必要ト認メ本案ヲ提出シタモノデアアルガ、其ノ内容ノ要點ハ、第一ニ政府ハ必要ニ應ジ敵國又ハ敵國人關係ノ財産ニ關シ、管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトトシ、政府ハ當該財産ノ所有者又ハ保管者ノ存在セヌ場合、存在スルモノ之ニ所有又ハ保管セシメ置クコトヲ不適當ト認ムル場合等ニ於テハ、別ニ適當ナル

管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシメルノデアル、例ハバ工場、事業場等デ、本邦生産力ノ増強ニ資シ得ルモノハ、之ヲ適當ニ管理活用シ、戰時下國家目的ニ適合スルヤウ運営シタイト思フノデアル、管理人ヲ選任シ管理セシムルコトニセル場合ハ、其ノ管理人ノミガ當該財産ニ付キ處分其ノ他ノ行爲ヲナスコトガ出來ルモノデ、本人ハ其ノ範圍ニ於テ行爲能力ヲ奪ハレルノデアル、隨ヒ管理財産ニ付テハ其ノ旨ヲ第三者ニ知ラシメル必要ガアリ、之ヲ登記又ハ登録セシメルコトトシタ、尙ホ敵産ノ管理人ニ對スル報酬其ノ他ノ費用ハ、管理財産ノ中ヨリ支辨セシムルコトトシタ、第二ニ、政府ハ敵國又ハ敵國人關係ノ財産ニ關シ、政府ノ指定スルモノニ對スル賣却其ノ他ノ必要ナル事項ヲ命ジ得ルコトトシ、例ハバ敵國人ガ本邦内ニ有スル重要物資ハ、之ヲ必要ナル方面ニ賣却セシメ、又敵國人ガ本邦人ニ對シ負フ借入金債務ノ辨濟ヲ命ズル等ノ場合ニ、此ノ權能ヲ活用シタイト思フ、第三ニ、敵國又ハ敵國人ニ對シ債務ヲ負擔スル者ガ、政府ノ命令ニ從ヒ支拂等ヲ爲ス時ハ、其ノ債務ニ付キ免責セラレルコトトシ、外債ノ利子、株式ノ配當金、特許料等ニ關シ、米英人ニ對シ支拂

債務ヲ負擔スル者ハ、政府ノ命ズル所ニ從ヒ、例ハバ橫濱正金銀行ニ設ケラレタ特別勘定ニ拂込メバ、其ノ債務ヲ免責セラレルコトトナル、斯クノ如キ免責ノ措置ヲ講ズル趣旨ハ、開戦ニ依リ對敵債務ノ履行ガ困難トナルニ伴ヒ、種々法律上ノ紛争ヲ生ズル虞ガアル故、之ヲ防止スルト共ニ敵國人ノ本邦人ニ對シテ有スル債權ニ付キ、政府ガ適切ナル統制ヲ加ヘルコトヲ容易ナラシメントスルニアル、第四ニ敵國又ハ敵國人ガ外國ニ於テ敵性ヲ免レンガ爲ニ、本邦關係財産ヲ處分スル如キ場合、其ノ行爲ニ付キ其ノ效力ヲ認メヌコトトシタノデアル、米英人ノ所有スル本邦ノ外債ハ約十四億圓ニ上リ、又米英人ノ本邦内ニ有スル動産、不動産、事業、營業等モ少クナイ、開戦ノ結果是等ノ財産ガ敵産トシテ不利ナル取扱ヲ受ケルコトヲ免レンガ爲ニ、之ヲ中立國人ニ賣却スル等ノ方法ヲ講ズル虞ガ多分ニアル故、之ヲ防止スル爲メ、斯ル行爲ノ效果ヲ否認スル規定ヲ設ケタノデアル、尙ホ此ノ規定ノ效力ハ之ヲ開戦當日ニ遡及セシムルコトトシタ、第五ニ、敵産管理ノ實施ハ其ノ關係スル所廣ク、又其ノ實施ニ當リ相手國ノ出方、取扱振リ等ニ付テ、慎重ナル注意ヲ拂フ必要

ガアリ、關係各省ノ關係官ヲ以テ組織スル委員會ヲ設置シ、重要事項ハ右ノ委員會ニ諮リ之ヲ決定シ、運営ノ圓滑ヲ期シテ行キタイト思フ、敵産管理ノ運用ハ飽クマデ相互的ナ考慮ヲ以テ臨ミ、敵國私人ノ財産ニ付テハ、私權尊重ノ建前ヨリ、相手國ガ本邦側財産ニ對シ暴戾ナル態度ニ出デナイ限り、沒收等ノ如キ事ハ致サヌ考ヘデアル。

(十二月十六日 衆戦争保險委員會 三十四頁)

(提案理由説明) 原口大藏爲替局長

條文ノ説明トシテ、第一條以下ノ數條ニ出テ居ル「敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者」ナル文句ハ、本法案中重大ナル意義ヲ有シ、此ノ内容ハ施行勅令ニ依リ決定シタイト思ツテ居ルガ、敵國トハ帝國ト交戦状態ニアル國デアリ、大藏大臣ノ指定スルモノノ意味デ勅令デ定メタイト思ツテ居ル、敵國人ノ範圍ハ、第一ニ敵國ノ國籍ヲ有スル人、同時ニ日本國籍ヲ有スル「アメリカ」ノ如キ二重國籍トナツテ居ル場合ハ、日本國籍ヲ有スル者ハ敵國人カラ除クコトニナル、第二ハ、敵國ノ行政區劃、公

共團體及ビ是等ニ準ズルモノ、第三ハ、敵國ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人、第四ハ、敵國ノ法令ニ依リ設立サレタ法人デアツテ此ノ各項ニ該當セヌモノ、例ハバ支那ニ於ケル「アメリカ」法人等ヲ考ヘテ居ルノデアル、次ニ「敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者」ハ如何ナル者ヲ命令デ定メルカト言ヘバ、第一ニ、敵國內ニ居住スル人、是ハ敵國又ハ敵國人ニ準ズルモノトシテ、命令ヲ以テ定メタイト思ツテ居ル、第二ニ、法人デアリ敵國ニ存在スル支店、法人ノ支店其ノ他ノ營業所、第三ニ、例ハバ法律上本邦法人ナルモ、實際其ノ經營ハ敵國人ノ支配シ居ル、株式ノ大多數ヲ敵國人ガ所有スルモノ、日本「フォード」、「ゼネラル・モーターズ」等ノ如ク大部分「アメリカ」人ガ株ヲ持テルモノヲ、敵國又ハ敵國人ニ準ズルモノトシテ、命令ヲ以テ定メタイト思ツテ居ル、其ノ他必要ニ應ジ假令中立國人デアアルモ、敵性ノモノハ其ノ場合ニ依リ大藏大臣ノ指定ニ依リ追加スル規定ヲ置キタイト思フ、第二條ノ「政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得」ノ「命令ノ定ムル所」トハ、例ハバ賣却命令ヲ

出セル場合、當事者デ價格ノ折合付カヌ場合、大藏大臣ガ賣却價格ヲ定メルガ如キコトヲ命令事項トシテ考ヘテ居ル、第三條ハ外債ノ利拂、配當金、特許料、ノ如キモノニ依リ、米英人ニ對シ支拂ノ債務ヲ有スル日本人ガ、現在送金ニ困難シ、又送金可能トシテモ支拂フベキ筋合デモナイガ故ニ、斯ル場合、政府ノ定メタル特別ノ方法ニ依リ、例ヘバ正金銀行等ニ特殊ノ封鎖勘定ヲ置キ、之ニ拂込マセ債務者ノ債務ヲ免除スル、尤モ特許料、工業所有權ニ付テハ、工業所有權戰時法ナル現行法ガアリ、戰時ニ於テハ必要ニ應ジ敵國人ノ登録、特許ハ取消サレ、工業所有權其ノモノニ付テハ、其ノ法律ガ特別法的ノ立場カラ、本法ニ優先シテ適用セラレル、第四條ハ、第一條ノ如キ場合ニ敵國財産ニ付キ管理人ヲ置カレタ場合其ノ管理人ノ働ク限度ニ於テ、本人ノ權利ハ制限ヲ受ケル、假令所有者ト雖モ其ノ財産ニ付處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトガ出來ヌコトニナル、第二項ニ管理及ビ管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ定メルトアルノハ、管理人ノ權限ノ如キモノヲ此處ニ入レタイト思フ、管理ナル辭句ハ曖昧デアルガ、無償デ其ノ財産ヲ人ニ渡スコト等ハ考ヘテ居ナイ、

保存ノ爲ニ必要ナ賣却ノ程度ハ、管理人トシテ爲シ得ルガ、ソレ以上ノ廣イ權限ハ豫想シテ居ナイ、第五條ハ日本ト米英ガ交戰状態ニナレバ、日本ノ外債ヲ有スル米英人ガ、日本カラ將來利拂ヲ受ケ得ナクナルコトヲ虞レ、外國ニ於テ中立國人ニ讓渡スルコトハ、極メテアリ得ルコトデアルガ、左様ナコトヲ默認スルハ敵産管理上多大ノ支障ガアル故、本文ニ於テ「政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ」トシ、最後ノ附則ニ「昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ遡リテ之ヲ無効トス」トシ遡及シテ效力ヲ持タシタイト考ヘテ居ル、第六條ハ手續ノ規定デ、管理財産、公債、不動産、法人ノ登記等ノ場合、取引ノ相手方トナル善意ノ第三者ヲ保護スル爲ニ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲サシメルコトヲ規定シタモノデア、第七條ハ、管理人ノ報酬ヲ含ム、管理ニ要スル費用ハ敵産ヲ以テ支辨スルコトニシ、以下三箇條ニハ罰則ノ規定ガアル、是ハ全體的ニ普通ノ刑ノ量定ヨリモ重イガ、本法ノ性質上司法當局ト協議シ、普

通ノ場合ヨリモ稍重キヲ適當トシテ、刑ノ裁量ガ爲サレテ居ル、十一條ノ委員會ニ付テハ、敵産管理ハ外交、軍事、其ノ他ニ廣汎ナル影響ヲ有シテ居リ、關係方面ト協議シ運用シテ行ク爲ニ委員會ヲ設置シタイト考ヘタノデアアル。

○敵産管理法ト中立國人

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 二頁)

(質) 小山 松 吉

敵産管理法案ニハ、敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者トアリ、敵國人以外ノ命令ニ依リ定メラレタ者、即チ中立國人モ入ル如ク見ラレルガ、是ハ如何ナル意味カ。

(答) 原口大藏爲替局長

此ノ命令ヲ以テ定ムル者トハ、例ヘバ本邦ノ法人デアツテ其ノ株式ノ大部分ヲ米英人ガ持ツ日本「フォード」、日本「ゼネラル・モーターズ」ノ如キ、運營ハ敵國人ガ支配スルモノヲ含ンデ居ルガ、普通ノ中立國人ノコトハ考ヘテ居ナイ。

(質) 小山 松 吉

命令デ決スルモノニハ中立國ハ入ラヌノデアアルカ、

本邦ノ法人ダケデアアルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

中立國人デモ敵國ニ居住スル者ハ敵國居住者トシテ入レル積リデアアル。

(質) 小山 松 吉

敵國ニ住ム者ハ、敵國人トシテ入レルノデアアルカ、中立國人トシテ入レルノデアアルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

敵國居住者中ニハ中立國人モ居ルカト考ヘル、此ノ法律ニ依リ敵國人トシテ命令デ定メタイト思フモノハ、敵國ノ國籍ヲ有スル者、但シ二重國籍デ日本國籍ヲ有スルモノハ除ク、次ニ敵國ノ行政區劃、公共團體及ビ是等ニ準ズルモノ、敵國ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人、敵國ノ法令ニ依リ設立セラレタ法人ニシテ前二號ニ該當セザルモノヲ大體敵國人トシテ考ヘテ居ル、敵國又ハ敵國人ニ準ズルモノトシテ考ヘテ居ルモノハ敵國ニ居住スル人、法人ノ敵國ニアル支店其ノ他ノ營業所、其他大藏大臣ノ指定スルモノヲ考ヘテ居ル。

○敵産管理ト沒收處置

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 二頁)

(質) 仁井田益太郎

第一次歐洲大戰ノ時ハ、敵國及ビ敵國人ノ財産ハ、特殊財産管理令ニ依リ殆ド沒收ニ等シキ處置ガ執ラレタ、即チ管理シテ後之ヲ換價シ日本人ノ債權ノ辨濟ニ充テ殘餘ヲ元ノ所有者ニ返還スル處理ヲ執ツタガ、今度ノ敵産管理法ハ、敵産ヲ沒收セズ、先方ノ出方ヲ見ルトノコトデアルガ、先方ガ何時沒收スルカ分ラヌニ拘ラズ、此ノ敵産管理法ハ其ノ場合急速ニ對應スル措置ガ出來ヌノデハナイカ、左様ナ場合議會ヲ開カネバ出來ヌノデハナイカ、必要アル場合ハ沒收シ得ルコトヲ挿入シテモ不當デハナイノデハナイカ、先方ガ日本ノ財産ヲ沒收スル時ノ應急措置ハ如何ニスルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

第一次歐洲戰爭ノ特殊財産管理ハ、平和條約ガ施行セラレテカラ管理セラレタモノデ、大正七年ノ緊急勅令ニ依リ、大正八年ノ議會テ事後承諾ヲ得タノデアアル、當時ノ平和條約ニ依レバ、「ドイツ」ニ在ル日本財産ト、日本ニ在ル「ドイツ」財産ヲ相殺スル、即チ相互ノ財産ヲ以テ或範圍ノ債權債務ヲ決済スルコトガ決定サレ、戰爭ノ終レル後急ニ之ヲ差押ヘタ

ノモ、實際ノ支配ヲ外國人カラ受ケテ居ルモノハ之ニ入レルコトニシテ居ル。

(質) 大河内輝耕

敵國、敵國人、本邦法人ニシテ敵國人ノ關係深イモノノ他ニ尙存在スルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

其ノ他ハ敵國ニ居住スル者ヲ考ヘテ居ル。

(質) 大河内輝耕

居住スルト云フノハ住所ト解シテ宜イカ。

(答) 原口大藏爲替局長

敵國ニ居住スル人ト云フ文句ヲ使ヒタイト考ヘル。

(質) 大河内輝耕

東京ニ住所ガアリ外國ニ長ク居ルモノモ入ルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

然リ。

(質) 大河内輝耕

敵國人ニ關係深ク、事實上敵國人ノ支配セルモノハ法文ノ上ニハ表現出來ヌト思フガ、立法ノ技術上差支ヘナイカ、又法文トスルモ實際ニ適用サレネバ無意味デアアルガ其ノ點ハ如何。

(答) 原口大藏爲替局長

モノデアアルガ、今回ハ開戦勿々デ關係方面ト協議ノ上、前大戰ノ時ヨリモ更ニ彈力性ヲ持タシテ行キタイト考ヘタノデアアル〔速記中止〕。

○敵産ノ範圍

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 二二三頁)

(質) 大河内輝耕

本邦法人ニシテ敵國人ガ多數株ヲ所有スルモノモ、敵産ニ入レルト言フガ、其ノ程度ハ如何、具體的標準ガ在ツテ然ルベキモノト思フ。

(答) 原口大藏爲替局長

外國爲替管理法ニ依リ、資産凍結ヲ爲セル場合モ、事實上敵國人ガ經營ヲ支配セルモノヲ入レタガ、大體ノ目標ハ過半数ノ株ヲ米英人ガ所有シテ居ルモノヲ標準トシテ居ル。

(質) 大河内輝耕

過半数ナラバ過半数トシテ明確ニスベキデアアル。

(答) 原口大藏爲替局長

場合ニ依リ株ノ數ノミデモ決定サレヌモノモアリ、名義上日本人名前トナレル所謂名義株ノ、法人ノ經營ノ實體ヲ究メ、必ズシモ株ガ五割以上ナラザルモ

爲替管理法ノ前例モアリ、法制局ト協議ノ結果、勅令テ前述ノ如キ内容ニ定ムルヲ適當トスルトノ意見ナノデアアル。

○敵産總額ト内容

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 三三頁)

(質) 大河内輝耕

敵産ノ總額ト其ノ内譯ノ概要ヲ承リタイ。

(答) 原口大藏爲替局長

米英兩國デ四億千二萬圓程デアアルガ、其ノ他ニ日本ノ外債ノ約半額、十四億程ヲ米英人ガ所有シ、是モ敵産中ニ入ル。

(質) 大河内輝耕

其ノ四億ノ内容ヲ説明サレタイ。

(答) 原口大藏爲替局長

現金、有價證券、土地、商品等ガ其ノ大ナル項目トナツテ居ル。

(質) 大河内輝耕

其ノ範圍ハ具體的ニ決定サレテ居ルカ、今後調査スルノデアアルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

本年七月米英諸國ノ資産凍結令ノ發動ト共ニ、即刻我方モ報復措置トシテ、爲替管理法ニ基キ資産ヲ凍結シタガ、其ノ際一齊ニ實地調査ヲ爲シ、相當詳細ナ敵産臺帳ヲ大藏省ハ有シテ居ル、從ヒ改メテ此ノ際全部ノ調査ノ必要ハナイ、併シ絶エズ異動ガアル爲メ、報告ヲ取り、必要ニ應ジ検査シ、敵産ノ現狀ヲ押ヘル處置ニ依リ度イト考ヘテ居ル。

○敵産管理法第二條第三條

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 三一四頁)

(質) 大河内輝耕

敵産管理法ノ二條三條ノ命令ノ内容ヲ説明サレタイ。

(答) 原口大藏爲替局長

二條ノ命令、勅令事項ハ、賣却命令等ヲ出セル場合、當事者間ニ値段ノ折合付カヌトキハ大藏大臣ガ賣却價格ヲ決定スルコトニシタイト考ヘテ居ル、三條ハ外國ニ對シ外債ノ利拂、或ハ配當金、特許料ノ支拂等ノ債務ヲ日本人ガ有スルモノハ、例ヘバ正金銀行ニ封鎖勘定等ノ特別勘定ヲ設ケ、左様ナ債務ヲ負擔シ居ル者ハ、外國人ニ拂フ代リニ其處ニ拂込メバ債務ヲ免レルコトヲ命令ノ内容トシテ考ヘテ居ル。

和條約等デ決定サレテ處理サレルト思フ。

(質) 大河内輝耕

條約ニ依ル決定ハ兎モ角トシテ、此ノ法律ノ結果トシテハ如何ニナルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

此ノ法律トシテハ代リ金ヲ管理人ヲ命ジ管理サセ、其ノ場合第四條ノ規定ニ依リ本人ハ其ニ對シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトガ出來ナイ、即チ敵國人ノ手ニ渡サズ政府ノ命ジタ管理人ガ之ヲ管理スルコトニ成ル。

(質) 大河内輝耕

戰後如何ニスルカ、戰後當然返サナケレバナラヌ義務ガ發生スルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

此ノ法律ノ建前カラ、戰後管理財産ヲ如何ニスルカニハ全然觸レテ居ナイ。

○日本外債關係

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 四頁)

(質) 大河内輝耕

日本ノ外國債、即チ日本ノ英米其他ノ外國デ募集セ

(質) 大河内輝耕

第二條ノ代金ハ如何ニ處理スルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

代金ハ成ルベク一所ニ集メ、敵産ヲ「プール」ニシ管理スルヲ便利ト考ヘル、左様ナ場合代リ金ヲ特別勘定ニ拂込ム命令ヲ出シ、其ノモノノ代リニ代リ金ヲ敵産トシテ政府ガ管理スルコトニ致シタイト思フ。

(質) 大河内輝耕

其ノ代金ハ、法ノ當然ノ結果トシテ戰後所有者ニ返スコトニナルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

敵産管理ノ目的ハ第一ニ、平和時ノ種々ナル權利義務ヲ調整シ、其ノ場合起ル紛争ヲ避ケ處理ヲ容易ナラシメル、第二ニ、戰爭中本邦内敵産ヲ能フ限り日本ニ有效ニ活用シ經濟力ノ増強ニ資ス、第三ニ、先方ガ日本財産ニ對シ執ル處置ニ對應シ措置ヲ講ズル必要アリ、斯ル意味ニ於テ斷ヘズ先方ノ處置ヲ監視シツツ敵産ヲ管理スルノ三點ニアルガ、最後ニ戰時中敵國ニ在ル本邦側財産ノ受ケル損害、之ニ對スル賠償ノ見合、補償ノ見合ヲ含ミ管理シタイト考ヘル、從ヒ代リ金ハ平和回復ノ時先方ニ返スカ否カハ、平

ル外債ハ如何程ノ額ニ上ルカ、其ノ元利ノ支拂ハ如何ニナツテ居ルカ、今後ハ如何ニスルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

二十八億程ニナル、此ニ對スル元利拂ハ、米英ニ對スル開戦以前迄ハ滞リナク履行シ來ツテ居ル、今後ハ履行シナイ方針デアアル、先方ニハ支拂ハズ敵産トシテ本邦内ニ於テ管理スルコトトシタイト思フ。

(質) 大河内輝耕

外債ノ處理ハ如何ニスルカ、權利者ニ返スカ又ハ他ノ相當ノ方法ヲ執ルカニ付テハ、此ノ法律ハ何レニ依ルコトモ出來ルノデアアルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

敵産管理法ハ其ノ何レノ方法ニ依ツテモ處理シ得ルノデアアル、外債ハ各異レル發行契約ヲ有シ、敵産ノ觀點ノミカラ考ヘル譯ニモ行カヌノデアアリ、二十八億ノ中約半數ハ米英人ガ所有スルガ、中立國人モ若干所有シ、殘餘ハ日本人ガ所持スル故、一括シテ外債處理ノ見地カラ研究スベキ事項モ多イガ、何レノ方法ニ依ツテモヤリ得ルコトニナツテ居ル。

(質) 大河内輝耕

日本人ノ所有スルモノモ元利支拂ハ中止セラレル

カ、何カ便法ガ講ゼラレルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

日本人ノ所持スルモノハ無論敵デモナク、此ノ法律ニ無關係ナル故、從來通り支拂フコトトナル。

○敵産管理法第三條

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 四―五頁)

(質) 河 田 烈

第三條ニ依レバ日本側ハ外國ニ對スル支拂ノ義務ヲ免レ得ルガ、之ニ對シ敵國側ガ其ノ反對給付ヲ負ツテ居ル場合ハ如何ニナルカ、例ヘバ保險料ヲ支拂フ場合、日本人ハ支拂ノ方法ナク、敵國ノ或債務ノ場所ニ支拂ヒ敵ヘノ支拂ヲ免レルトスルモ、保險金支拂ノ事件發生ノ場合、保險料ノ支拂ナキ故此ノ契約ハ破棄セラレタルモノトサレレバ、當方ニ於テ義務ヲ履行シ債務ハ果シテ居ルト言フモ、敵國保險會社ハ契約ヲ履行シナイコトガアルト思フ、是ガ日本ニ支店アル場合ハ外國保險會社ト離モ日本ノ業法ニ依リ支配シ得ル故、裁判所ニ訴ヘルコトモ可能デアアルガ、外國ニ於テノミ業ヲ爲セル會社ト契約セル場合ハ、敵國ナル故不可能ト思フガ如何ニスルカ、次ニ外

使用セルモノニ使用料ヲ拂ハネバナラヌコトモ發生シ來ルノデハナイカ。

(答) 原口大藏爲替局長

敵産ヲ活用シ、我が國ノ經濟力増強ニ資スル場合ハ、主トシテ工場、事業場ニ起ツテ來ルガ、是ヲ所有或ハ保有セル外國人ハ引揚或ハ身柄ニ變化ヲ生ジテ居リ、斯様ナ場合同業者ノ適當ナル管理人ヲ置キ此ヲ管理セシメルコトトナルガ、左様ナ場合管理ノ經費或ハ所有者即チ米英人ヘノ支拂等ノ問題ガ生ズルト思フガ、茲ニハ第七條ニ經費ノ支拂ノ點ダケヲ規定シテ置イタ。

(質) 大河内輝耕

此方ノ使用スルノハ如何ニナルカ、無償デ使用スルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

損益ノ計算ハ管理人ニ明確ニセシメ、政府ハ絶エズ之ヲ監督スルコトニシタイ。

(質) 大河内輝耕

無償デ使用スルカ否カハ、此ノ法律デハ決定シテ居ナイノデアアルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

債ノ支拂ノ場合、帝國政府ガ國債ノ元利拂ヲ爲サザルトキ、公共團體若シクハ私法人、商事會社ノ外債ノ元利拂ノ義務ヲ有スルモノハ如何ニスルカ、是等ノ外債元利拂ノ支拂ヲ停止セルママ放置スルカ、或ハ政府ガ何所カニ供託シ積立テテ置ク積リデアアルカ。

(答) 原口大藏爲替局長

生命保險等ニ關スル斯ル問題ハ、資産凍結ノ時ニモ發生シタガ、第三條關係ニ於テハ、保險契約者ガ希望スレバ、保險料ヲ或封鎖勘定ニ拂込マセ、將來平和克服ノ時權利ヲ調整セシメルコトモ一方法ト考ヘテ居ル、次ニ外債ノ問題ハ第三條ノ規定ニ依リ政府ノ命ズル所例ヘバ正金銀行ノ封鎖勘定等ニ拂ヒ込マセ、其ノ公共團體等ノ債務ヲ免除セシメ、外國會社ト右正金銀行トノ關係ハ矢張り平和克服ノ時調整スルコトトナルト思フ。

○敵産管理ト管理料

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 五頁)

(質) 大河内輝耕

日本ガ敵産ヲ管理スルトナレバ、先方カラ管理料ヲ取ツテモ宜イト思フガ、又私權尊重ノ上カラ此方ノ

敵國ノ會社、事業場ヲ運營スルニハ經費ヲ要シ又利益モ生ズル、斯様ナ損益ヲ管理人ヲシテ政府ニ報告セシメル、即チ政府自ラハ管理セズ適當ナ管理人ヲ選ビ、損益ノ計算ハ政府ガ監督スル方法ヲ執ラウト考ヘテ居ル。

○敵産管理ト國際法トノ關係

(十二月十六日 貴敵産管理委員會 五―六頁)

(質) 大河内輝耕

敵産管理法ヲ施行スルモ條約上ノ支障ハナイカ、私權ハ尊重スルト言フガ、先方ノ處置ニ因ツテハ報復ノ手段ニ出ルノデアアルカ、報復以上ノコトハ爲サヌノデアアルカ、條約上如何ナル程度ニ迄施行シテ差支ナイカ。

(答) 原口大藏爲替局長

米國英國共ニ開戦前ニ強力ナル敵産管理ノ法律ヲ有シテ居リ、其ノ運用ガ如何ナル程度ニ日本財産ニ對シ爲サレテ居ルカハ、報告ナキ爲申上ゲラレヌガ、之ニ依リ先方ヲ刺戟シ又報復手段ヲ執ラシメルコトハナイ、英國ノ如キハ十九世紀以前カラ敵産管理、對敵取引禁止ノ法律ヲ有シ、米國モ先般ノ資産凍結

令ノ基礎トナレル法律ニ依リ政府ニ廣汎ナ權限ヲ與ヘテ居ルノデアアル。

(答) 松本外務條約局長

條約上ノ問題ハ本件ニ關スル限り全然起キヌ、國際法上能フ限り戰時ト雖モ私有財産ハ尊重スルコトハ、國際法上ノ原則トナツテ居ルガ、前大戰ニハ各國共ニ相當私有財産沒收マデ爲シ、前大戰ノ法令ガ今尙英米共ニ現行法ニナツテ居ル、又今回ノ戰爭ニ於テモ獨伊其他日本ノ同盟國ハ之ト同様ノ措置ヲ執ツテ居リ、條約上モ國際法上モ問題ハナイノデアアル、報復ノ問題ハ勿論生ズルデアラウガ、本法ノ如キ程度ハ相手國ト全然同様ノ措置ニ出ルモノデアリ問題ハ起キヌト考ヘテ居ル。

(質) 大河内輝耕

條約上及ビ國際法上ノ建前カラハ報復以上ニ行ツテモ宜イト心得テ宜イカ。

(答) 松本外務條約局長

報復以上ナル意味ガ理解シ難イガ、今法案ヲ提出シ是カラ大藏當局ガ實行スル程度ナラ勿論問題ハ生ジナイ。

〔速記中止〕。

○造言飛語ト國民指導方針

(十二月十七日 貴言論出版委員會 一一—一二頁)

(質) 下村 宏

大東亞ノ戰局ヲヨリ有利ナラシメルタメ、情報局其他ニ於テモ「デマ」撲滅ニ苦慮サレテ居ルヤウデアアルガ、橫行スル造言飛語ヲ除去スルニハ、消極的ニ嚴罰ヲ以テ臨ムコトモ一方法デアアルガ、寧ロ斯ル造言飛語ノ生ズル餘地ナキヤウ、固ヘナキ限り、成ルベク事實ノ真相ヲ國民ニ知ラシメルコトガ必要ト思フ、日米會談中等ハ檢閲或ハ記事差止モ已ムヲ得ナイガ、宣戰セル今日ニ於テハ、差止ノ範圍ハ減少スルト考ヘラレル、取捨判斷ハ極メテ慎重デナケレバナラヌガ、支那其他歐米ノ新聞ニ載リ、國內ニ於テモ一部ニ知レテ居ル事實等ハ、固ヘナイ限り發表シ、新聞、放送其他ニ依リ國民ニ知ラシメルコトガ、造言飛語ヲ生ゼシメヌ所以ト思フガ、一般民衆ニ知ラシメル方針ニ對スル所見ヲ伺ヒタイ。

(答) 東條 首相

總テ國民ニ實相ヲ明瞭ニ知ラシメルコトハ、國民ヲ協力セシメル上ニ於テ重要ナルコトト考ヘテ居ル、

軍事上或ハ外交上ノ機微ナル點ハ、或ル時期迄知ラシ得ヌコトモアルガ、是等ヲ阻害セス程度ニ於テ努メテ國民ニ知ラセルコトハ同感デアリ、左様ニ指導シテ居ル、政府ノ發表ハ現ニ爲シツアル大本ヲ實ハ其ノ都度示シテ居ルノデアアルカラ、國民モ其ヲ基礎トシテ總テノモノヲ判斷シテ行クヤウニ指導サレルナラバ、「デマ」ニ對スル判斷ハ自ラ附クト思フ、唯日本今後ノ行爲等ハ世界ニ對スル影響モ大キク、日本ノ態度ハ明確トナツタ今日ト雖モ、敵側ノ謀略モ激シク、國民ガ識ラズシテ動カサレルコトモアリ、是等ニ對スル警戒ハ十全ヲ期シテ行カネバナラヌト考ヘル。

○宣傳ト出版統制方針

(十二月十七日 貴言論出版委員會 一一—一二頁)

(質) 下村 宏

今日新聞、出版、映畫等各方面ノ人文關係ノ統制ガ行ハレテ居ルガ、統制ニモ程度ノ問題ガアリ、英米、或ハ樞軸關係國、「ソ」聯等モ、在來長イ歴史ヲ有シ、國民ノ信賴ヲ持ツ有力ナル新聞ハ其ノ儘存置セシメ、數アル新聞ガ、各々其ノ讀者層ニ對シ上意

ヲ下達シ、下情ヲ上達セシメテ居ル、是等各新聞ハ勿論現政府ヲ支持シ行クガ、各獨自ノ面ヲ有スル新聞ガ揃ツテ意見ヲ發表スル點ニ彈力ガアリ、外交問題等ニ於テハ、相手國ニ依リ相當ノ彈力ヲ持タスコトガ必要ナル場合モアリ得ルト思フ、相當ノ歴史ヲ有スルモノガ相寄り支持シ行クコトニ又存在ノ意義ガアリ、要スルニ是等ヲ能ク善用スルニ在ルガ、當局ノ之ニ對スル所見如何。

(答) 谷情報局總裁

大體ノ考ヘ方ニハ同感デアアル、唯具體的問題トシテハ、新聞雜誌ノ統制ハ資材不足ノ實質的原因カラト、新聞界自體ノ自覺ト兩々相俟チ、戰時下ニ於テ最モ意義アル出版ニ依リ其ノ機能ヲ發揮セントスル、出版界、新聞界ノ自發的作用カラ減少シ來ツテ居ルノデアアル、新聞、雜誌ニハ各傳統ガアリ、其ノ傳統ガ民心ニ好影響ヲ及ボシテ居ル場合、其ノ持味ヲ生カスコトハ當然政府トシテ考慮セネバナラヌコトト思フ、持味ヲ發揮シ行クコトニ、人心昂揚上ノ面白味モアリ、新聞事業會ニ依リ統制團體ガ出來レバ、其ノ統制團體ニ能フ限りノ範圍ハ委讓シ、新聞等ノ持味發揮ニ協力セシメタイ。

0310



24

48073

寄贈

衆議院
17.6.5
圖書館

